

この本の読みかた

本書は、次の7つの章と付録で構成されています。
奇数ページの右端には、マークをつけてあります。マークは章ごとに一段ずつ下げてあるので、目的の章を検索するときにご利用ください。

1章 パソコンの基本操作を覚えよう

パソコンの各部の名前から始まり、パソコン本体に用意されているボタンやスロット、さまざまな機能について説明しています。

2章 ネットワークの世界へ

パソコンを外の世界と結ぶネットワーク。世界中と結ぶインターネットから、家族と結ぶLANまで、各ネットワークについて説明しています。

3章 周辺機器を使って機能を広げよう

パソコン本体に用意されているコネクタにいろいろな機器をつないで、機能を広げることができます。本パソコンにはどんなコネクタが用意されていて、どんな機器が接続できるのかを説明しています。

4章 バッテリー駆動で使う

屋外やテラスなど、電源コンセントがない場所で使用するために、本パソコンにはバッテリー駆動の機能が用意されています。バッテリー駆動で使用するための充電方法や、バッテリーを効率良く使うための方法を説明しています。

5章 システム環境の変更

RAID機能やBIOSセットアップといった、パソコンのシステム構成を変更する方法を説明しています。

6章 パソコンの動作がおかしいときは

なんだか動きがおかしい、故障？と思うようなとき、また使用上困ってしまった様子もないときなどのトラブル解消方法を紹介します。

7章 問い合わせるときは

本製品に用意されているアプリケーションなどのお問い合わせ先を掲載しています。

付録

無線LANのご使用になれる国／地域や、技術基準についての規格文書を掲載しています。

1章

2章

3章

4章

5章

6章

7章

付録

もくじ

この本の読みかた	1
もくじ	2
はじめに	6

1 章 パソコンの基本操作を覚えよう 9

1 各部の名称 - 外観図 -	10
① 前面図	10
② 背面図	13
③ 裏面図	14
2 ポインタを動かす/ファイルを開く/文字キーを使う - タッチパッドとマウスとキーボード - ...	16
① タッチパッドで操作する	16
② タッチパッドをもっと使いやすくしよう	17
③ マウスの使いかた	18
④ マウスをもっと使いやすくしよう	20
⑤ キーボードの文字キーの使いかた	20
3 HD DVD について	21
4 CD や DVD、HD DVD を使う - ドライブ -	24
① 使えるメディアを確認しよう	24
② 使える CD を確認しよう	25
③ 使える DVD を確認しよう	26
④ 使える HD DVD を確認しよう	27
⑤ CD / DVD / HD DVD を使うとき (セット)	28
⑥ CD / DVD を使うとき (セット)	29
⑦ CD / DVD / HD DVD を使い終わったとき (取り出し)	30
⑧ CD / DVD を使い終わったとき (取り出し)	31
5 画面を見やすく調整する - ディスプレーイ -	32
① 画面の明るさを調整する	32
6 いろいろなメディアカードを使う - ブリッジメディアスロット -	33
① SD メモリカードを使う前に	33
② メモリースティックを使う前に	33
③ xD-ピクチャーカードを使う前に	34

④ マルチメディアカードを使う前に	34
⑤ メディアのセットと取り出し	34

2章 ネットワークの世界へ 37

1 インターネットへ接続する	38
① ブロードバンドで接続する	38
② ダイヤルアップで接続する	40
2 家庭内ネットワークで広がる世界	42
① LAN 接続はこんなに便利	42
② ワイヤレス（無線）LAN を使う	42

3章 周辺機器を使って機能を広げよう 45

1 周辺機器を使う前に	46
① ドライバをインストールする	46
2 パソコンの動作をスムーズにする –メモリの増設–	47
3 USB 対応機器を使う	50
4 i.LINK (IEEE 1394) 対応機器を使う	51
5 パソコンの画面をテレビに映す –テレビの接続–	52
6 パソコンの画面を外部ディスプレイに映す –外部ディスプレイの接続–	59
7 インターネットチャットや音声ソフトを使う –マイクロホンやヘッドホンの接続–	60
① マイクロホンを使う	60
② ヘッドホンを使う	60
8 PC カードを使う	61
① PC カードを使う前に	61
② PC カードを使う	61
9 ExpressCard を使う	63
① ExpressCard を使う前に	63
② ExpressCard を使う	63
10 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を使う	65

4章 バッテリ駆動で使う 67

1 バッテリについて	68
① バッテリ充電量を確認する	68
② バッテリを充電する	69
③ バッテリパックを交換する	70

5章 システム環境の変更 73

1 システム環境の変更とは	74
2 東芝 RAID	75
① 東芝 RAID とは	75
② 東芝 RAID を使う設定をする	77
3 BIOS セットアップを使う	80
① 起動と終了／BIOS セットアップの操作	80
② BIOS セットアップの画面	81
③ 設定項目	81

6章 パソコンの動作がおかしいときは 87

1 トラブルを解消するまでの流れ	88
① トラブルの原因をつき止めよう	88
② トラブル事例をしてみる	90
③ 電話で問い合わせる	92
④ 修理に出す	94
2 トラブル解消によく使う操作	95
① パソコンを再起動する	95
3 問題の切り分け方法	96
① パソコンの情報を見る／状態を診断する	96
② システム構成ユーティリティを使う	96
③ 正常な状態で起動しなおす	97
4 Q&A 集	98

7章 問い合わせるときは 111

1 問い合わせ先 – OS / アプリケーション / プロバイダー	112
① OS の問い合わせ先	112
② アプリケーションの問い合わせ先	112
③ プロバイダの問い合わせ先	115

付録 117








1 技術基準適合について	118
2 無線 LAN について	121
さくいん	122

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っているると便利な内容を示します。
 役立つ操作集	知っているると役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「 」 他のマニュアルへの参照の場合…『 』 おたすけナビ、 できる dynabook への参照の場合…〈 〉 おたすけナビにはさまざまな情報が記載されています。

- *1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
- *2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
- *3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP

特に説明がない場合は、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

おたすけナビ

パソコン上で見ることのできる、電子マニュアルを示します。デスクトップ上の「おたすけナビ」アイコンをダブルクリックして起動します。

ドライブ

HD DVD-ROM ドライブ／DVD スーパーマルチドライブを示します。

内蔵されているドライブは、モデルによって異なります。

 **参照** 詳細について

「1章 4 CD や DVD、HD DVD を使う」

HD DVD-ROM ドライブモデル

HD DVD-ROM ドライブが内蔵されているモデルを示します。

DVD スーパーマルチドライブモデル

DVD スーパーマルチドライブが内蔵されているモデルを示します。

HDMI 出力端子モデル

HDMI 出力端子が搭載されているモデルを示します。

D 映像出力端子モデル

D 映像出力端子が搭載されているモデルを示します。

WXGA モデル

1920 × 1200 ドットの液晶ディスプレイが内蔵されているモデルを示します。

WXGA+ モデル

1440 × 900 ドットの液晶ディスプレイが内蔵されているモデルを示します。

Office 搭載モデル

Microsoft® Office Personal Edition 2003 および Microsoft® Office OneNote® 2003 がプレインストールされているモデルを示します。

記載について

- ・記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「****モデルの場合」や「****シリーズのみ」などのように注記します。
- ・インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクや同梱のCD / DVD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- ・本書をはじめとする取扱説明書では、コントロールパネルの操作方法についてカテゴリ表示を前提に記載しています。クラシック表示になっている場合は、カテゴリ表示に切り替えてから操作説明を確認してください。

参照 カテゴリ表示とクラシック表示 《おたすけナビ
(検索) : コントロールパネルの使いかた》

Trademarks

- ・Microsoft、Windows、Windows Media、Windows Vista、OneNote、Outlook は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・Intel、インテル、インテル Core、Centrino は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標、または登録商標です。
- ・BeatJam、CyberSupport、MediaMarina、ラベルマイティは、株式会社ジャストシステムの登録商標です。
- ・BeatJam、CyberSupport、MediaMarina、おたすけナビ、ラベルマイティ5 [セレクト版] は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、BeatJam、CyberSupport、MediaMarina、おたすけナビ、ラベルマイティ5 [セレクト版] にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・MagicGate、メモリースティック、メモリースティックロゴ、メモリースティック Duo、メモリースティック PRO、メモリースティック PRO Duo は、ソニー株式会社の商標です。
- ・xD-ピクチャーカード™ は、富士写真フイルム株式会社の商標です。
- ・i.LINK、i.LINK ロゴは商標です。
- ・Fast Ethernet、Ethernet は富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
- ・Bluetooth は、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- ・HD DVD ロゴは DVD フォーマットロゴライセンス (株) の商標です。
- ・HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition MultiMedia Interface は、HDMI Licensing LLC. の登録商標または商標です。

- ・LaLaVoice、ConfigFree、おたすけナビは株式会社東芝の登録商標または商標です。
- ・「駅前探検倶楽部」、「駅探」は登録商標です。
- ・The 翻訳、The 翻訳インターネットは東芝ソリューション株式会社の商標です。
- ・Adobe、Adobe Reader は Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における商標ならびに登録商標です。
- ・InterVideo、WinDVD は InterVideo, Inc. の登録商標または商標です。
- ・Ulead および DVD MovieWriter は Ulead Systems, Inc. またはユーリードシステムズ株式会社の商標または登録商標です。
- ・Corel Photo Album、Corel の商品名は、Corel Corporation またはその関係会社の商標または登録商標です。
- ・駅すばあととは、株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・プロアトラスは、株式会社アルプス社の登録商標です。
- ・筆ぐるめは、富士ソフト ABC 株式会社の登録商標です。
- ・Symantec、Norton AntiVirus、LiveUpdate は Symantec Corporation の登録商標です。
- ・Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。
- ・「PC 引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- ・Java はサンマイクロシステムズ社の米国および他の国における登録商標または商標です。
- ・goo スティックは、NTT レゾナント株式会社の商標です。
- ・「アイフィルター」は、デジタルアーツ株式会社の商標です。
- ・「できる」は、株式会社インプレスの登録商標です。
- ・AOL は AOL LLC. の登録商標です。
- ・BIGLOBE は日本電気株式会社の登録商標です。
- ・OCN は NTT コミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ・ODN は日本テレコム株式会社の商標です。
- ・So-net、ソネット、および So-net のロゴはソニー株式会社の商標、または登録商標です。
- ・かるがるネットは株式会社ジーエムエス総合研究所の登録商標です。
- ・「Yahoo!」は、Yahoo! Inc. の登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrino Duo モバイル・テクノロジーについて

次の3つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrino Duo モバイル・テクノロジー搭載と呼びます。

- ・インテル Core Duo プロセッサ
- ・モバイル インテル 945 Express チップセット・ファミリー
- ・インテル PRO/Wireless 3945ABG ネットワーク・コネクション・ファミリー

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ・ACアダプタを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- ・マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- ・複雑な造形に使用するソフト (例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- ・気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・目安として、気温 5 ~ 30℃ (高所の場合 25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC あんしんサポート 0120-97-1048 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作物および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製 (データ形式の変換を含む)、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに]
→ [リリース情報] をクリックする

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または同梱の CD / DVD からインストールしたシステム (OS)、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・Windows 標準のシステムツールまたは『セットアップガイド』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされている、または同梱の CD / DVD からインストールしたシステム (OS)、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種 (型番) を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。その際、身分証明書 (お客様自身を確認できる物) の提示が必要となります。
- ・本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線 LAN の暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
- ・ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- ・アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書は表示されませんが、リカバリを行った場合には使用許諾書が表示されます。
- ・『東芝保証書兼お客様登録カード』は、「東芝保証書」と「お客様登録カード」を中央の切り取り線で切り離せます。「東芝保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録 (ユーザ登録) をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』または弊社ホームページで登録できます。

参照 ▶ 詳細について

『セットアップガイド 6 章 1 お客様登録の手続き』

1 章

パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

1	各部の名称 -外観図-	10
2	ポインタを動かす/ファイルを開く/文字キーを使う -タッチパッドとマウスとキーボード-	16
3	HD DVD について	21
4	CD や DVD、HD DVD を使う -ドライブ-	24
5	画面を見やすく調整する -ディスプレイ-	32
6	いろいろなメディアカードを使う -ブリッジメディアスロット-	33

1

各部の名称

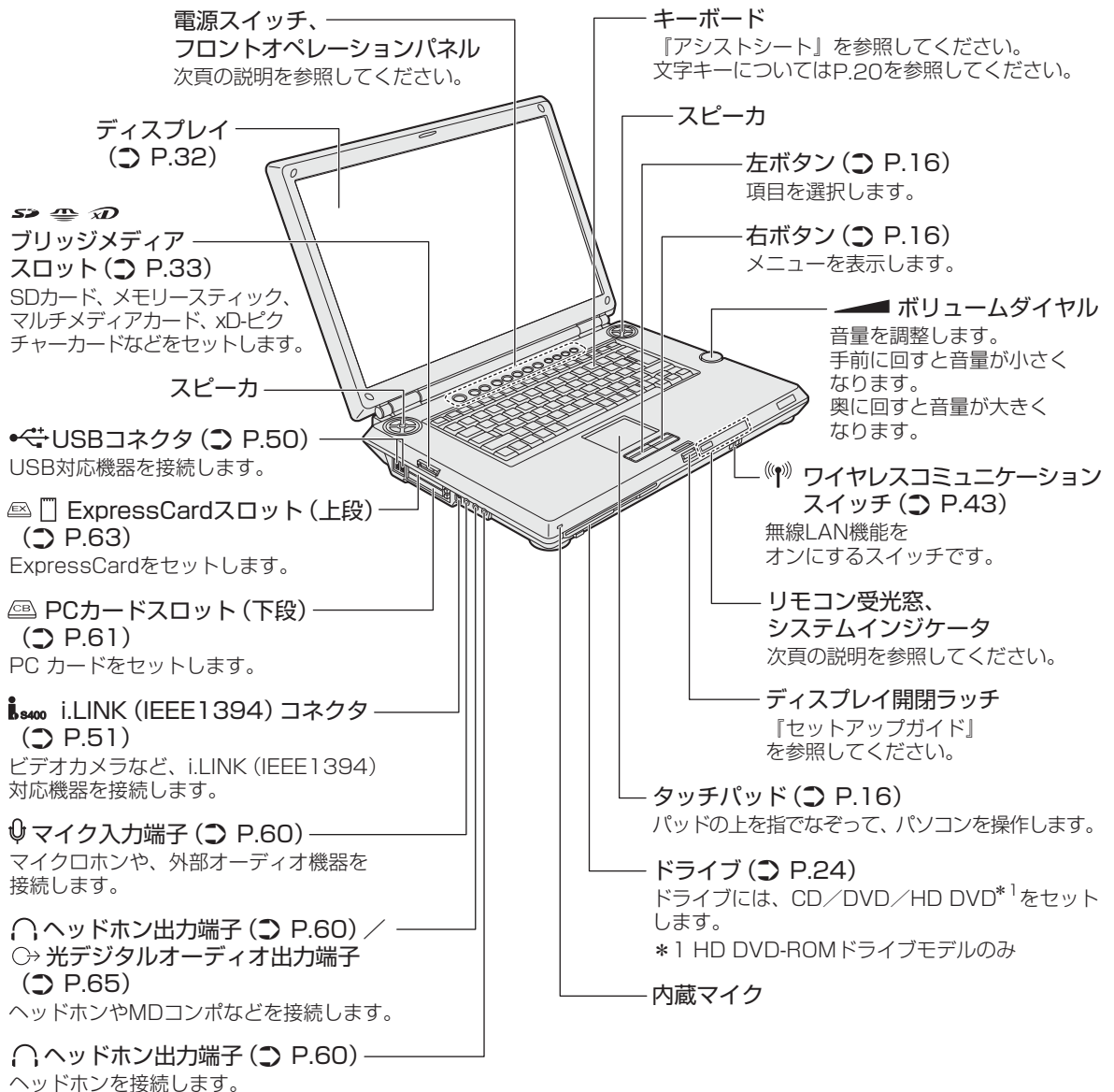
— 外観図 —

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明は、各参照ページや各マニュアルを確認してください。

メモ

- 本製品に表示されている、コネクタ、LED、スイッチのマーク（アイコン）、およびキーボード上のマーク（アイコン）は最大構成を想定した設計となっています。ご購入いただいたモデルによっては、機能のないものがあります。

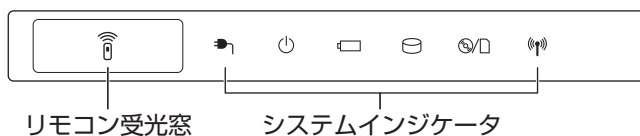
① 前面図



1 リモコン受光窓、システムインジケータ

リモコン受光窓は、リモコンからの操作を感知する部分です。詳しくは、『オーディオ & ビジュアルガイド』を参照してください。

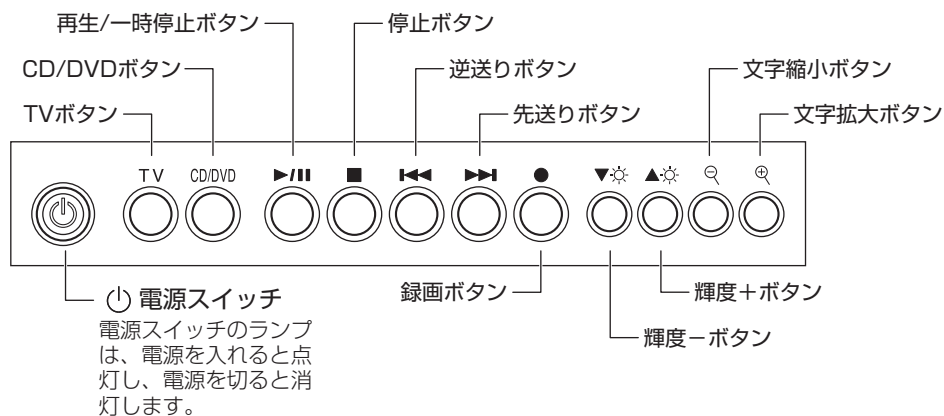
システムインジケータは、点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。



	DC IN LED	電源コード接続の状態	参照 ▶ 『セットアップガイド 1章』
	Power LED	電源の状態	参照 ▶ 『セットアップガイド 1章』
	Battery LED	バッテリーの状態	参照 ▶ P.68
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている	
	メディアアクセスLED	ドライブまたはブリッジメディアスロットにアクセスしている	参照 ▶ P.24、33
	ワイヤレスコミュニケーションLED	無線通信機能の状態	参照 ▶ P.43

2 電源スイッチ、フロントオペレーションパネル

パソコンでテレビ、HD DVD、DVD-Video を見たり音楽を聴いたりするとき、フロントオペレーションパネルを使用すると簡単に操作することができます。また、本体液晶ディスプレイの輝度を調節したり、画面やアイコンなどを拡大することもできます。



ボタンの操作方法

操作するボタンを、指で押してください。押したボタンに割り当てられている機能を実行します。ボタンに割り当てられている機能は「東芝コントロール」で変更できます。詳しくは、『おたすけナビ (検索) : ボタンに割り当てるアプリケーションを変更する』を参照して、設定を変更してください。

お願い 操作にあたって

- ボタンを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。ボタンが故障するおそれがあります。

ボタンの機能

それぞれのボタンの機能は、次のようになっています。

モデルによって、機能が異なります。

【DVD スーパーマルチドライブモデル】

TV ボタン	Windows が起動しているとき、またはスタンバイ状態の場合は「Qosmio AV Center *」のテレビ画面を起動します。 パソコン本体に電源が入っていない、または休止状態の場合は、「QosmioPlayer (TV) *」を起動します。
CD/DVD ボタン	音楽や映像を再生するアプリケーションを起動します。起動するアプリケーションは、次のものです。 ドライブに DVD がセットされている場合 : WinDVD * ドライブに DVD 以外がセットされている、 または何もセットされていない場合 : RoomStylePlayer * パソコン本体に電源が入っていない、または休止状態の場合は、「QosmioPlayer *」の次の機能を起動します。 ドライブに CD がセットされている場合 : QosmioPlayer (CD) * ドライブに DVD がセットされている場合 : QosmioPlayer (DVD) *
再生 / 一時停止 ボタン	音楽や映像を再生するアプリケーションを起動します。起動するアプリケーションは、次のものです。 ドライブに DVD がセットされている場合 : WinDVD * ドライブに DVD 以外がセットされている、 または何もセットされていない場合 : RoomStylePlayer * すでに再生するアプリケーションが起動している場合には、一時停止または一時停止を解除します。 また「QosmioPlayer * (TV)」を起動しているときに押すと、録画したテレビ映像がある場合は、その映像を再生します。
停止ボタン	そのとき操作しているアプリケーションを、停止します。 このボタンは、「RoomStylePlayer *」「WinDVD *」「QosmioPlayer (TV) * (録画、再生時のみ)」「QosmioPlayer (CD) *」「QosmioPlayer (DVD) *」に対して、操作可能です。
逆送りボタン	そのとき再生している音楽や映像のトラック / チャプタを 1 つ前またはトラック / チャプタの先頭に戻します。 このボタンは、「RoomStylePlayer *」「WinDVD *」「QosmioPlayer (CD) *」「QosmioPlayer (DVD) *」に対して、操作可能です。
先送りボタン	そのとき再生している音楽や映像のトラック / チャプタを 1 つ進めます。 このボタンは、「RoomStylePlayer *」「WinDVD *」「QosmioPlayer (CD) *」「QosmioPlayer (DVD) *」に対して、操作可能です。
録画ボタン	「Qosmio AV Center *」のテレビ画面または「QosmioPlayer (TV) *」を起動しているときに押すと、録画を開始します。
輝度- ボタン	1 回押すごとに、本体液晶ディスプレイの明るさが 1 段階ずつ暗くなります。明るさは 8 段階あります。 このボタンは、Windows が起動しているときと、「QosmioPlayer *」に対して、操作可能です。
輝度+ ボタン	1 回押すごとに、本体液晶ディスプレイの明るさが 1 段階ずつ明るくなります。明るさは 8 段階あります。 このボタンは、Windows が起動しているときと、「QosmioPlayer *」に対して、操作可能です。
文字縮小ボタン	画面やアイコンなどを縮小します。このボタンは、Windows が起動しているときに操作可能です。
文字拡大ボタン	画面やアイコンなどを拡大します。このボタンは、Windows が起動しているときに操作可能です。

* 「Qosmio AV Center」、 「QosmioPlayer (QosmioPlayer (TV)、QosmioPlayer (CD)、QosmioPlayer (DVD) を含む)」、 「RoomStylePlayer」、 「WinDVD」については『オーディオ & ビジュアルガイド』を参照してください。

【HD DVD-ROM ドライブモデル】

TV ボタン、録画ボタン、輝度-ボタン、輝度+ボタン、文字縮小ボタン、文字拡大ボタンの機能は、DVD スーパーマルチドライブモデルと同じです。

その他のボタンについては、『HD DVD ガイド』を確認してください。

② 背面図

→□ AV入力端子

アナログのビデオデッキやビデオカメラなどを接続し、パソコンの画面に映像を表示します。
『オーディオ&ビジュアルガイド』を参照してください。

→Sビデオ入力 (S-Video) コネクタ

『オーディオ&ビジュアルガイド』を参照してください。

□ モジュラージャック (P.40)

ダイヤルアップ接続時、電話線を接続します。

■セキュリティロック・スロット

盗難防止用チェーンなどを接続します。
セキュリティロック用の機器は、本製品に対応しているかどうかを販売店に確認してください。

└アンテナ入力端子

『オーディオ&ビジュアルガイド』を参照してください。

DC IN 電源コネクタ

『セットアップガイド』を参照してください。

通風孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。
ふさがないようにしてください。

S S-Video出力コネクタ (P.52)

S端子ケーブルを接続して、パソコンの映像をテレビに表示します。

D D映像出力端子 (P.52)

* D映像出力端子モデルのみ
D端子ケーブルを接続して、パソコンの映像をテレビに表示します。

HDMI HDMI出力端子 (P.52)

* HDMI出力端子モデルのみ
HDMI端子ケーブルを接続して、パソコンの映像をテレビに表示します。

□ RGBコネクタ (P.59)

外部ディスプレイと接続して、パソコンの映像を外部ディスプレイに表示します。

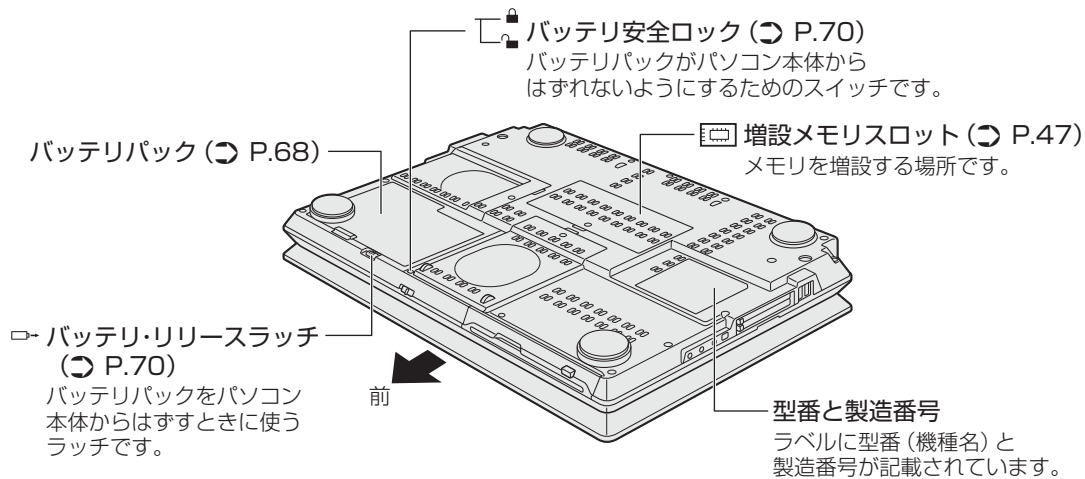
USBコネクタ (P.50)

USB対応機器を接続します。

LANコネクタ (P.38)

ADSLモデムなどを使うときに、LANケーブルを接続します。

③ 裏面図



通風孔は、パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。ふさがらないでください。

警告

- 必ず、本製品付属の AC アダプタを使用すること
本製品付属以外の AC アダプタを使用すると電圧や (+) (-) の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- パソコン本体に AC アダプタを接続する場合、必ず『セットアップガイド』に記載してある順番を守って接続すること
順番を守らないと、AC アダプタの DC 出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、AC アダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜くこと
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。

お願い

- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、日本の規格にのみ準拠しています。

使用できる電圧 (AC) は、100V です。

必ず AC100V のコンセントで使用してください。

* 取得規格は、電気用品安全法です。

その他の地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

【AC アダプタの仕様】

入力：AC100～240V、1.7-0.75A、50-60Hz


出力：DC15V、8A

2

ポインタを動かす／ファイルを開く ／文字キーを使う

－ タッチパッドとマウスとキーボード －

① タッチパッドで操作する

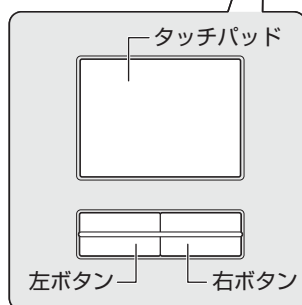
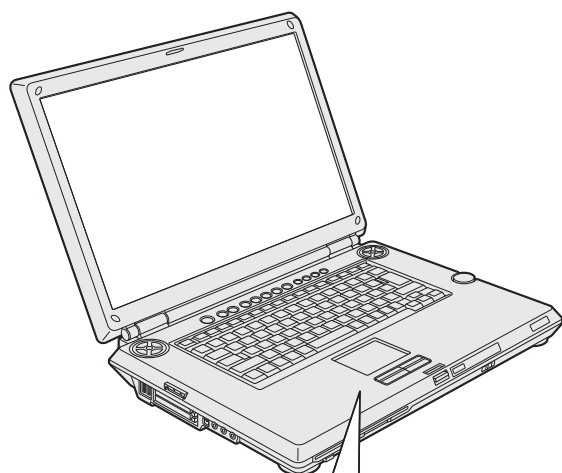
電源を入れて Windows を起動すると、パソコンのディスプレイに  が表示されます。この矢印を「ポインタ」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインタ」を動かしながらパソコンを操作していきます。パソコン本体には、「ポインタ」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインタを動かし、パソコンを操作してみましょう。

ここでは、タッチパッドと左ボタン／右ボタンの基本的な機能を説明します。

お願い 操作にあたって

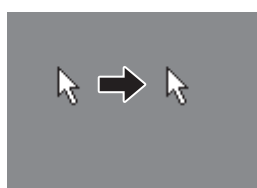
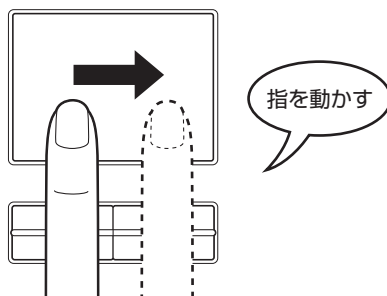
- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。



1 矢印 (ポインタ) を動かす

操作を始める位置を示す矢印 (ポインタ)。タッチパッドに置いた指の方向にあわせて動きます。指を上下左右に動かしてみましょう。

指がタッチパッドの端まできてしまい、それ以上動かせなくなったときは、いったん指をはなしてから、タッチパッドの中央に置き直して操作します。

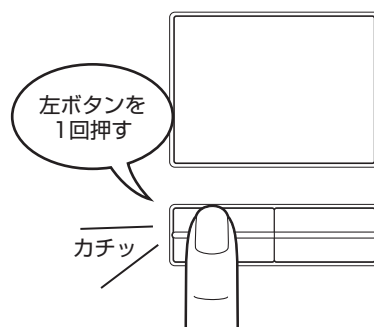


(画面)

2 アイコンを選択する

アイコン、文字などを選択するには、ポインタを目的のアイコンや文字などの位置にあわせて、左ボタンを1回押します (クリック)。

アイコンなどを選択すると、色が変わります。これを「反転表示」といいます。



〈クリックする前〉



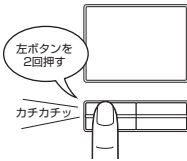
〈クリックした後〉



役立つ操作集

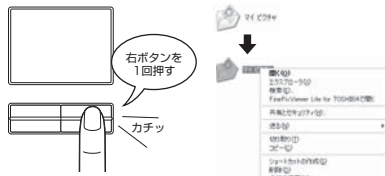
ダブルクリックする

ダブルクリックすると、ファイルを開いたりアプリケーションを起動できます。ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンをすばやく2回押します。



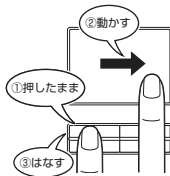
右クリックする

右クリックすると、メニューが表示され、そこから行いたいことをクリックして選択できます。ポインタを目的の位置にあわせて、右ボタンを1回押します。



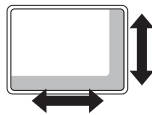
ドラッグアンドドロップする

ドラッグアンドドロップをする、アイコンやウィンドウを移動したり、複数の文字やアイコンを選択したりできます。ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンを押したまま①、別の指でタッチパッドを使ってポインタを動かします②（ドラッグ）。ポインタが目的の位置に移動したら、左ボタンから指をはなします③（ドロップ）。



スクロールする

スクロールとは画面を動かすことです。スクロールすると画面に表示しきれない部分を見ることができます。タッチパッドの右辺に指を置いて上下に動かすと、上下にスクロールします。タッチパッドの下辺に指を置いて左右に動かすと、左右にスクロールします。

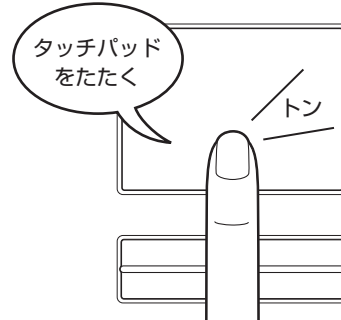


3 慣れてきたら

慣れてきたら、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

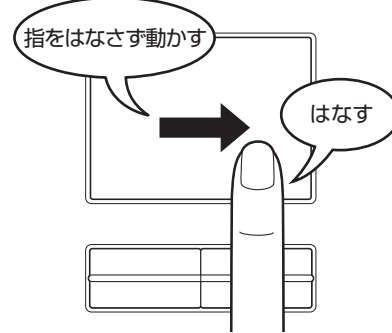
【クリック/ダブルクリック】

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



【ドラッグアンドドロップ】

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、指をはなします。



② タッチパッドをもっと使いやすくしよう

タッチパッドやポインタの設定は、[マウスのプロパティ]で行います。

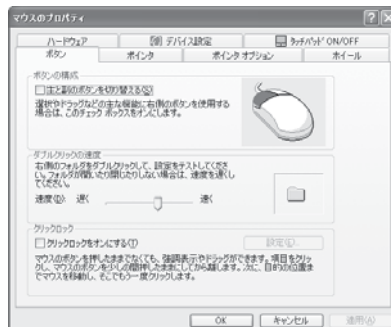
1 この画面で設定する

1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする

2 [プリンタとその他のハードウェア] をクリックする

3 [マウス] をクリックする

[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。



4 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする

各機能の設定については、《おたすけナビ（検索）：タッチパッドの使用環境を設定する》を参照してください。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

役立つ操作集

タッチパッドを無効／有効にするには

[タッチパッド ON/OFF] タブの [無効] をチェックすると、タッチパッドからの操作ができなくなります。[有効] をチェックすると、タッチパッドが使用可能になります。



タッチパッドの無効／有効は、(FN)+(F9)キーでも切り替えることができます。

(FN)+(F9)キーについて

《おたすけナビ（検索）：

タッチパッドの使用環境を設定する》

③ マウスの使いかた

マウスはタッチパッドの左ボタン／右ボタンと同じ動きをします。

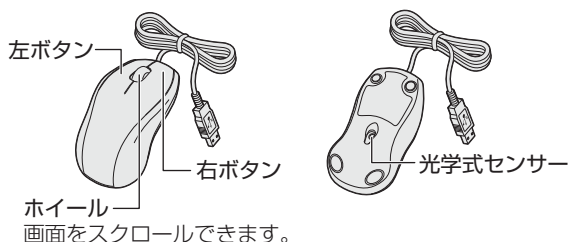
本製品には、USB 対応の横スクロール機能付光学式マウスが同梱されています。USB コネクタに接続して使用してください。

マウスは、Windows のセットアップが終わった後に接続してください。

参照 マウスの接続について

「3 章 3 USB 対応機器を使う」

マウスを使ってポインタを動かしたり、クリック、ダブルクリックなどをしてみましょう。



⚠ 注意

- マウス底面の光学式センサーの赤い光を直接見ないこと
目を痛めるおそれがあります。

メモ PadTouch 機能を使う

- 「PadTouch」は、タッチパッドの操作により、画面に表示された「テーブル」を使ってさまざまな機能を簡単に実行できるアプリケーションです。次のようなときに使用すると便利です。
 - ・ ウィンドウでデスクトップが隠れているときに、デスクトップ上のファイルを開きたい
 - ・ Internet Explorer の [お気に入り] に登録されているホームページを開きたい
 - ・ 現在実行中のウィンドウの一覧を表示して、アクティブなウィンドウを切り替えたい

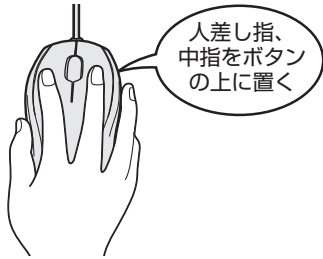
詳しい操作方法については、《おたすけナビ（検索）：アプリケーションを簡単に起動したい》を参照してください。

メモ マウスについて

- 本製品では横スクロール機能付光学式マウス用にユーザーティリティ「SetPoint」がインストールされています。本製品の横スクロール機能付光学式マウス以外の USB マウスを使う場合は、「SetPoint」をアンインストールすることを推奨します。[スタート] → [コントロールパネル] をクリックし、[プログラムの追加と削除] から [SetPoint] をアンインストールしてください。「SetPoint」をアンインストール後に横スクロール機能付光学式マウスを使う場合は、「SetPoint」を「アプリケーションの再インストール」からインストールしてください。インストールされない状態で使用すると、横スクロールが使用できない場合があります。
- アプリケーションによっては、ホイールを使ったスクロールに対応していない場合があります。

マウスの持ちかた

マウスを手のひらで包むように持ち、人さし指と中指を各ボタンの上に置きます。

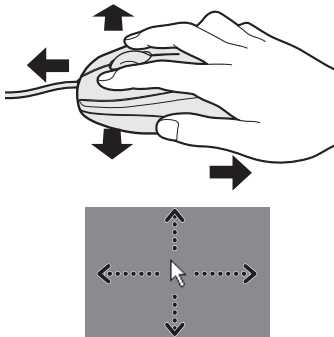
**マウスをうまく動かすポイント**

マウスを動かす場所がなくなったときは、いったんマウスを持ち上げ、マウスを動かせる位置に戻します。

- マウスの使用場所
マウスは平らな場所で使用してください。グリッドなどの細かい模様のあるもの、または専用のマウスパッド上での使用を推奨します。また、ガラスなどの透明な素材、鏡や光沢のあるビニールなどの光を反射する素材の上では使用しないでください。光学式センサーがうまく動作しない場合があります。

1 ポインタを動かす

滑らせるようにしてマウスを上下左右に動かします。ポインタがマウスの動きにあわせて動きます。

**2 アイコンを選択する**

ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンを1回押しします (クリック)。

**役立つ操作集****ダブルクリックする**

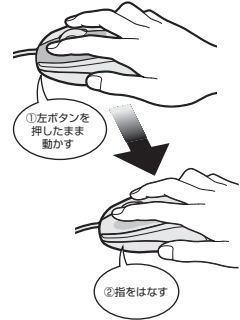
ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンをすばやく2回押すことです。ダブルクリックするときには、マウスが動かないように固定した状態でボタンを押してください。

**右クリックする**

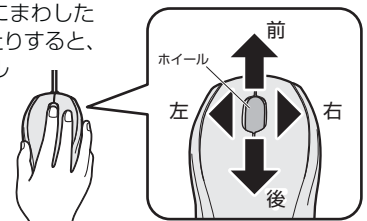
ポインタを目的の位置にあわせて、右ボタンを1回押すことです。

**ドラッグアンドドロップする**

ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンを押したまま、マウスを動かします① (ドラッグ)。ポインタが目的の位置に移動したら、ボタンから指をはなします② (ドロップ)。

**スクロールする**

ホイールを前後にまわしたり、左右に傾けたりすると、画面をスクロールすることができます。



④ マウスをもっと使いやすくしよう

マウスのボタンなどの設定もできます。

1 この画面で設定する

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 3 [マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。



[ボタン] タブで設定します。

ボタンの構成	マウスの右ボタンと左ボタンの役割を入れ換えます。
ダブルクリックの速度	スライダーバーを動かして、ダブルクリックするときの速度を調整します。
クリックロック	マウスのボタンを押したままにしないで、ドラッグできるようにします。

役立つ操作集

ポインタの形や速度を変える

[マウスのプロパティ] では、ポインタの形や速さなどを変えることができます。

[ポインタ] タブでは形を、[ポインタオプション] タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡などを設定できます。

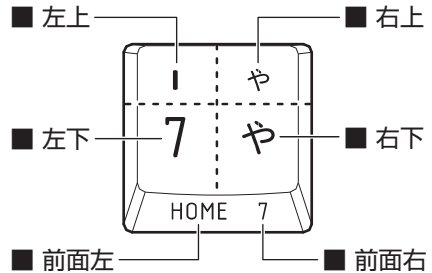


ヘルプの起動方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面を起動後、画面右上の **?** をクリックする
ポインタが **?** に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

⑤ キーボードの文字キーの使いかた

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。文字キーに印刷されている2～6種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。



■ 左上

(SHIFT) キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。

■ 左下

他のキーは使わず、そのまま押すと、数字やアルファベットの小文字が入力できます。大文字ロック状態にすると、大文字も入力できます。

■ 右上

かな入力ができる状態で (SHIFT) キーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音 (小さい「っ」)、拗音 (小さい「ゃ、ゅ、ょ」) が入力できます。

■ 右下

かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。

■ 前面左

アロー状態のときに押すと、カーソル制御キーとして使えます。

■ 前面右

数字ロック状態のときに押すと、テンキーとして使えます。

キーボードを使った文字や記号の入力操作の詳細については、『アシストシート』、《できる dynabook》、《おたすけナビ (検索) : (FN) キーを使った特殊機能キー》を参照してください。

3

HD DVD について

* HD DVD-ROM ドライブモデルのみ

本製品の HD DVD-ROM ドライブモデルには、HD DVD-ROM ドライブが 1 台内蔵されています。

ここでは、HD DVD の特長や技術、メディアについて説明します。

また、本書に記載されていること以外にも、HD DVD に関するお知らせや HD DVD のご使用にあたっての注意制限事項などがありますので、『HD DVD ガイド』をあわせてお読みください。

HD DVD とは？

DVD フォーラムが承認した次世代 DVD ディスクです。

HD DVD とは、世界の 230 社以上が加盟する DVD 規格の世界標準団体「DVD フォーラム」が承認した次世代 DVD ディスクのことで、HD（ハイビジョン）クオリティの高画質性能を備えています。HD DVD の再生専用ディスクである HD DVD-ROM（片面）には、片面 2 層 30GB（ギガバイト）と片面 1 層 15GB の 2 種類があります。これによって、映画 1 本分の映像が HD DVD ディスク 1 枚に収めることができます。

ハリウッドの期待にも応える高画質メディアです。

映画の本場ハリウッドでは、DVD ソフトの出荷が急伸び、すでに DVD の売上げが劇場公開収入を超えるほどになっています。高画質で長時間記録ができる HD DVD は、より美しく付加価値のあるパッケージコンテンツ制作を目指すハリウッドからの様々なニーズにも対応。コピープロテクションやディスク製造体制、生産コストなどの点にも確かな答えを提供することで、高い評価と支持を得ています。HD クオリティで制作された映画コンテンツなどが HD DVD パッケージで提供されることで、家庭でも映画館のスクリーンと同じように、迫力ある美しい映像を楽しむことができます。

HD DVD の特長

より高画質なコンテンツを楽しむことができます。

HD DVD の特長は、大容量での高密度記録を活かした、高画質の映画やライブなどのパッケージコンテンツを楽しむことです。この dynabook Qosmio G30/7 シリーズの HD DVD-ROM ドライブモデルでは、高色純度・高輝度・高画質の Clear SuperView 液晶（WUXGA：1920 × 1200 ピクセル）を搭載し、走査線数 1125 本の高精細な HD（ハイビジョン）映像を本来の解像度で表示できるので、HD DVD が再現するリアルで臨場感あふれる映像エンターテインメントを体感できます。

現行 DVD が再生できる HD DVD-ROM ドライブだから、お手持ちの DVD、CD ライブラリを楽しむこともできます。

HD DVD と現行 DVD が同じディスク構造であるという特長は、再生機器においても互換性という大きなメリットを發揮します。読み取り用レーザー光の照射距離が同じであるため、青色レーザー／赤色レーザーを切り換えるだけで、HD DVD と現行 DVD のどちらも再生することができます。これにより、録りためた DVD ライブラリや DVD ソフト、さらには音楽 CD も、HD DVD-ROM ドライブで再生して楽しむことができます。

HD DVD はハイビジョン画質での再生に対応するだけでなく、再生中に操作メニューやチャプター画面を表示することができます。*1

*1 操作メニューやチャプター画面を表示しながら、HD DVD を再生すると、画像がコマ落ちするおそれがあります。

また、使用する HD DVD ビデオディスクのタイトルによっても、画像がコマ落ちする場合があります。

下記に示す仕様・機能については、HD DVD 規格で将来実現される可能性がある仕様・機能を示すもので、これらの仕様・機能は、dynabook Qosmio G30/7 シリーズの HD DVD-ROM ドライブモデルでは使用できません。また、HD DVD のソフト側で対応している必要があります。詳細についてはそれぞれ HD DVD ソフトのカatalogなどをご覧ください。

あらかじめご了承ください。

- HD DVD 本編再生中に別のサブ映像を重ねて表示する
映画の本編再生中に監督や俳優の解説、メイキング映像や予告編などの特典映像を観ることができます。
- インタラクティブ（双方向性）機能を使って、オンラインでショッピング
インターネットと接続して、映像や音楽の関連商品を購入できます。
- ゲームを楽しむ

HD DVD には、DVD で培った技術が活かされています。

安定した品質と供給によって市場で高い評価を得ている DVD の進化形にあたる HD DVD は、ディスク構造も現行 DVD と同じ直径 12cm、厚さ 0.6mm の基板の 2 枚貼合わせ構造。これまで DVD で培ってきた様々な技術がディスク製造やハード機器製造の面でも活かされており、高い互換性を生み出しています。

現行の DVD-ROM と HD DVD-ROM の規格比較

	DVD-ROM (再生専用)	HD DVD-ROM (再生専用)
ディスク直径	12cm	12cm
ディスク構造	0.6mm x 2枚	0.6mm x 2枚
容量 (片面1層) (片面2層)	4.7GB 8.5GB	15GB 30GB
再生時間*1	4.7GB、SD解像度：132分 8.5GB、SD解像度：238分	15GB、HD解像度：約4時間 30GB、HD解像度：約8時間
レーザー波長	650nm (赤色レーザー)	405nm (青色レーザー)
転送レート*2	11.08Mbps	36.55Mbps

*1 収録時間は適用されるデータ転送速度により異なります。

*2 表示の数値は、理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

高密度記録を実現する青色レーザーダイオード。

HD DVD の読み取りには、現行 DVD で使用している赤色レーザーよりも短波長で、トラック間隔が短く高密度での記録が可能な青色レーザーを採用。同じ構造のディスクでも、DVD4.7GB (片面 1 層) の約 6.2 倍にあたる 30GB (HD DVD-ROM 片面 2 層) の大容量記録を実現しています。

36Mbps の高ビットレート。

デジタルテレビ放送の転送レートは最大 24Mbps です。これに対し HD DVD は最大 36.55Mbps という高転送レートを実現しているので、高精細な画質で楽しむことができます。

HD DVDのメディアについて

HD DVDのメディアには、下記のようにCD / DVDと同様に読み取り専用型と記録型の規格があります。ただし、この製品では使えないメディアもありますので、「本章 4 CDやDVD、HD DVDを使う」の内容をよくご確認のうえ、ご使用ください。

HD DVDビデオディスク	: 映像再生用です。映画などが収録されています。
HD DVD-ROM	: 読み取り専用のメディアです。
HD DVD-R	: 1回だけ書き込みが出来る記録型のメディアです。
HD DVD-RW	: 繰り返し書き込みや消去が出来るAV用途向け記録型のメディアです。
HD DVD-RAM	: 繰り返し書き込みや消去が出来るPC用途向け記録型のメディアです。

● メディアの構造と記録容量

記録面	記録層の構造	記録容量
片面1層ディスク	HD DVDの記録層のみ	15GB
片面2層ディスク	HD DVDの記録層のみ	30GB
両面2層ディスク	HD DVDの記録層のみ	30GB
両面4層ディスク	HD DVDの記録層のみ	60GB

HD DVD (ツインフォーマットディスク) : HD DVD と DVD の両方の記録層を持っています。

● メディアの構造と記録容量

記録面	記録層の構造	記録容量
片面2層ディスク	HD DVDの記録層	15GB
	DVDの記録層	4.7GB

4

CD や DVD、HD DVD を使う

－ ドライブ －

本製品には、HD DVD-ROM ドライブ、DVD スーパーマルチドライブのいずれか 1 台内蔵されています。内蔵されているドライブは、購入したモデルによって異なります。

- HD DVD-ROM ドライブ
ドライブには次のマークが入っています。



* マークの位置や並び順は異なる場合があります。

HD DVD の読み出し機能と、DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R *1、DVD+RW、DVD+R *2、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能を搭載したドライブです。

- DVD スーパーマルチドライブ
ドライブには次のマークが入っています。



* マークの位置や並び順は異なる場合があります。

DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R *1、DVD+RW、DVD+R *2、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能を搭載したドライブです。

- *1 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL (Dual Layer DVD-R) を含みます。
- *2 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL (DVD+R Double Layer) を含みます。

『安心してお使いいただくために』に、CD / DVD / HD DVD を使用するとき守ってほしいことが記述されています。

CD / DVD / HD DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

HD DVD-ROM ドライブ、HD DVD メディアについては、『安心してお使いいただくために』に記述されている DVD ドライブ、DVD メディアについてと同様です。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- HD DVD-ROM ドライブモデルでの DVD の再生は、「WinDVD」を使用してください。本製品に用意されている HD DVD 再生アプリケーションでは、DVD を再生できません。

参照 HD DVD 再生アプリケーションについて
『HD DVD ガイド』

- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力」で「DVD 再生」プロファイルに設定してください。

- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。
- Region コードは 4 回まで変更できますが、通常は出荷時のままご利用ください。出荷時の状態では、Region コードが「2」に設定されており、Region コードが「2」または「ALL」の DVD-Video をご使用ください。

お願い 地上デジタル放送について

- 地上デジタル放送は、CD / DVD メディアには、直接録画できません。また、地上デジタル放送の録画データは、バックアップをとることができません。

参照 詳細について 『オーディオ&ビジュアルガイド』

① 使えるメディアを確認しよう

使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

○：使用できる ×：使用できない

	読み出し	書き込み回数
CD-R	○	1 回
CD-RW	○	繰り返し書き換え可能*1
DVD-R *3	○*2	1 回
DVD-RW	○	繰り返し書き換え可能*1
DVD+R	○*2	1 回
DVD+RW	○	繰り返し書き換え可能*1
DVD-RAM	○	繰り返し書き換え可能*1
HD DVD-ROM *4	○	—

- *1 実際に書き換えてできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。
- *2 メディアの状態や書き込み方法により、読み出しできない場合があります。
- *3 DVD-R DL の場合、追記データの書き込み／読み出しはできません。
- *4 HD DVD-ROM ドライブモデルのみ



メモ 書き込みできるアプリケーション

- 書き込みに使用できる、本製品に添付のアプリケーションは次のとおりです。
・ TOSHIBA トウシバ ディスク ディスク クリエイタ クリエイタ
・ TOSHIBA Disc Creator

参照 『オーディオ&ビジュアルガイド 15
オリジナル音楽 CD を作る』

『オーディオ&ビジュアルガイド 17-③
編集した写真を CD / DVD にコピーする』

《おたすけナビ (検索) :
CD / DVD を作りたい》

・TOSHIBA Direct Disc Writer

参照 『オーディオ & ビジュアルガイド 17-③
編集した写真をCD / DVDにコピーする』

《おたすけナビ (検索) :
データをCD / DVDにコピーしたい》

・Ulead ディーバイティー ムービーライター
DVD MovieWriter

参照 『オーディオ & ビジュアルガイド 12
映像を編集してDVDに残す』
「DVD MovieWriter」のヘルプ

- メディアにデータを書き込むとき、メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

② 使えるCDを確認しよう

お願い 使えるCDのサイズ

- HD DVD-ROMドライブモデルでは、8cm、12cmのCDのみ使用できます。これら以外のCDは使用しないでください。
- DVDスーパーマルチドライブモデルでは、12cmのCDのみ使用できます。8cmサイズや名刺サイズのCDは使用しないでください。8cmサイズや名刺サイズのCDを挿入した場合、取り出せなくなるおそれがあります。また、12cmに変換する市販のアダプタを使用した場合でも、使用できません。

【読み出しできるCD】

対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

- 音楽用CD
8cm*1または12cmの音楽用CDが聴けます。
*1 HD DVD-ROMドライブモデルのみ
- フォトCD
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。
- CD-ROM
使用するシステムに適合するISO 9660フォーマットのもので使用できます。
- CDエクストラ
記録領域は音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

【書き込みできるCD】

- CD-R
書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
- CD-RW

書き込み速度は、購入したモデルや使用するメディアによって異なります。

- HD DVD-ROMドライブモデル
CD-Rメディア：最大16倍速
最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。
マルチスピードCD-RWメディア：最大4倍速
High-Speed CD-RWメディア：最大10倍速
Ultra Speed CD-RWメディア：最大10倍速
Ultra Speed+CD-RWメディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。
- DVDスーパーマルチドライブモデル
CD-Rメディア：最大24倍速
最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。
マルチスピードCD-RWメディア：最大4倍速
High-Speed CD-RWメディア：最大10倍速
Ultra Speed CD-RWメディア：最大16倍速
Ultra Speed+CD-RWメディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

お願い CD-RW、CD-Rの使用推奨メーカー

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、次のメーカーのメディアを使用することを推奨します。
CD-RW (マルチスピード、High-Speed)
：三菱化学メディア (株)、(株) リコー
CD-RW (Ultra-Speed)
：三菱化学メディア (株)
CD-R：太陽誘電 (株)、三菱化学メディア (株)、(株) リコー

これらのメーカー以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RWメディアは書き換え可能なメディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
「TOSHIBA Direct Disc Writer」でCD-RWメディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 エラーチェックの方法 「6章 4 Q&A集
その他-Q セーフモードで起動した」

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し/書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

③ 使える DVD を確認しよう

お願い 使える DVD のサイズと書き込み速度

- HD DVD-ROM ドライブモデルでは、8cm、12cm の DVD のみ使用できます。これら以外の DVD は使用しないでください。
- DVD スーパーマルチドライブモデルでは、12cm の DVD のみ使用できます。8cm サイズや名刺サイズの DVD は使用しないでください。8cm サイズや名刺サイズの DVD を挿入した場合、取り出せなくなるおそれがあります。また、12cm に変換する市販のアダプタを使用した場合でも、使用できません。
- 使用可能なメディアの倍速と、本製品で可能な書き込み／書き換え速度は次のとおりです。

【 HD DVD-ROM ドライブ 】

使用可能メディア	書き込み／書き換え速度
・ 16 倍速までの DVD-R / DVD+R	書き込み最大 4 倍速
・ 4 倍速までの DVD-R DL	書き込み最大 2 倍速
・ 8 倍速までの DVD+R DL	書き込み最大 2.4 倍速
・ 6 倍速までの DVD-RW	書き換え最大 4 倍速
・ 4 倍速までの DVD+RW	書き換え最大 4 倍速
・ 5 倍速までの DVD-RAM	書き換え最大 3 倍速

【 DVD スーパーマルチドライブ 】

使用可能メディア	書き込み／書き換え速度
・ 16 倍速までの DVD-R / DVD+R	書き込み最大 8 倍速
・ 4 倍速までの DVD-R DL	書き込み最大 2 倍速
・ 2.4 倍速までの DVD+R DL	書き込み 2.4 倍速
・ 6 倍速までの DVD-RW	書き換え最大 4 倍速
・ 4 倍速までの DVD+RW	書き換え最大 4 倍速
・ 5 倍速までの DVD-RAM	書き換え最大 5 倍速

これらより速い書き込み倍速に対応したメディアを使用することはできません。

【 読み出しできる DVD 】

対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

- DVD-ROM
- DVD-Video
(映像再生用です。映画などが収録されています。)
- DVD-R、DVD-R DL (format 1)
- DVD+R、DVD+R DL
- DVD-RW
- DVD+RW
- DVD-RAM

【 書き込みできる DVD 】

- DVD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。DVD-R は、DVD-R for General Ver2.0 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RW
DVD-RW は、DVD-RW Ver1.1 または Ver1.2 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-R DL
DVD-R DL は、DVD-R の記録層を 2 つにして、片面に 2 層分の記録が可能な規格のことです。既存の 1 層の DVD-R メディアの記録容量 4.7GB の約 1.8 倍となる、8.5GB 分の記録容量を実現します。例えば、MPEG2 の 4Mbps の映像データで、1 層の DVD-R メディアの時間が約 2 時間分なら DVD-R DL は約 3.6 時間分の記録が可能になります。ただし、Format 1 対応のため追記ができません。1 層の DVD-R メディアに収まる容量のデータを保存する場合は、追記できる DVD-R を使用することをおすすめします。
- DVD+R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
- DVD+R DL
DVD+R DL とは、DVD+R の記録層を 2 つにして、片面に 2 層分の記録が可能な規格のことです。既存の 1 層の DVD+R メディアの記録容量 4.7GB の約 1.8 倍となる、8.5GB 分の記録容量を実現します。例えば、MPEG2 の 4Mbps の映像データで、1 層の DVD+R メディアの時間が約 2 時間分なら DVD+R DL は約 3.6 時間分の記録が可能になります。
- DVD+RW
- DVD-RAM
DVD-RAM は、DVD-RAM Ver2.0、Ver2.1、Ver2.2 規格に準拠したメディアを使用してください。

【 DVD-RAM の種類 】

DVD-RAM にはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できる DVD-RAM は次のとおりです。カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAM の種類	本製品の対応
カートリッジなし*1	○
カートリッジタイプ (取り出し不可)	×
カートリッジタイプ (取り出し可能)*2	○

*1 一部の家庭用 DVD ビデオレコーダでは再生できない場合があります。

*2 2.6GB、5.2GB のディスクは使用できません。

新品の DVD-RAM は、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。フォーマットとは、DVD-RAM にデータの管理情報 (ファイルシステム) を記録し、DVD-RAM を使えるようにすることです。フォーマットされていない DVD-RAM は、フォーマットしてから使用してください。DVD-RAM のフォーマットについては、《おたすけナビ (検索) : DVD-RAM をフォーマットする》を確認してください。

お願い DVDメディアの使用推奨メーカー

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、次のメーカーのメディアを使用することを推奨します。
DVD-RAM : 日立マクセル (株)
DVD-RW : 日本ビクター (株)、三菱化学メディア (株)
DVD-R : 松下電器産業 (株)、太陽誘電 (株)
DVD-R DL : 三菱化学メディア (株)
DVD+RW : 三菱化学メディア (株)、(株) リコー
DVD+R : 三菱化学メディア (株)、(株) リコー
DVD+R DL : 三菱化学メディア (株)
これらのメーカー以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RWメディアは書き換え可能なメディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。「TOSHIBA Direct Disc Writer」でDVD-RW、DVD+RWメディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 エラーチェックの方法 [6章 4 Q&A集

その他-Q セーフモードで起動した]

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- 市販のDVD-Rには業務用メディア (for Authoring) と一般用メディア (for General) があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。一般用メディア (for General) を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。
- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できないこともあります。また、作成したDVD+R DLメディア、DVD-R DLメディアを再生するときは、それぞれのメディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

④ 使えるHD DVDを確認しよう

* HD DVD-ROM ドライブモデルのみ

お願い 使えるHD DVDのサイズと読み出し速度

- 本製品のドライブでは、12cmのHD DVDのみ使用できます。これ以外のHD DVDは使用しないでください。
- 使用可能なメディアの倍速と、本製品で可能な読み出し速度は次のとおりです。

使用可能メディア	読み出し速度
・1倍速までの HD DVD-ROM、HD DVD	読み出し最大1倍速
これより速い読み出し倍速に対応したメディアを使用	することはできません。

本製品のドライブで使用できるHD DVDは、次のメディアのみです。

【読み出しできるHD DVD】

対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

- HD DVDビデオディスク
映像再生用です。映画などが収録されています。
- HD DVD-ROM (片面1層、片面2層ディスク)
- HD DVD (ツインフォーマットディスク)
HD DVDとDVDの両方の記録層を持っています。

⑤ CD / DVD / HD DVD を使うとき (セット)

* HD DVD-ROM ドライブモデルの場合

CD / DVD / HD DVD は、パソコン本体に装備されているドライブにセットして使用します。

お願い 操作にあたって

- メディアアクセス LED、ディスクトレイ LED が点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD / DVD / HD DVD を取り出す操作をしないでください。CD / DVD / HD DVD が傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブに CD / DVD / HD DVD が入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中の CD / DVD / HD DVD のデータやドライブが壊れるおそれがあります。

参照 イジェクトホールについて「本節 ⑦ CD / DVD / HD DVD を使い終わったとき (取り出し)」

- ドライブのトレイを開けたときに、CD / DVD / HD DVD が回転している場合には、停止するまで CD / DVD / HD DVD に手を触れないでください。ケガのおそれがあります。
- CD / DVD / HD DVD をディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD / DVD / HD DVD を正しくディスクトレイにセットしないと CD / DVD / HD DVD を傷つけることがあります。
- 本製品では、8cm、12cm の CD / DVD と、12cm の HD DVD のみ使用できます。これら以外の CD / DVD / HD DVD は使用できません。



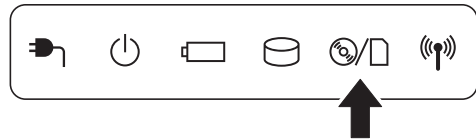
メモ セットする前に確認しよう

- 傷ついたり汚れのひどい CD / DVD / HD DVD の場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
- CD / DVD / HD DVD の特性や CD / DVD / HD DVD への書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。

ドライブに関する表示

パソコンの電源が入っていて、ドライブが動作しているときは、次の LED が点灯します。

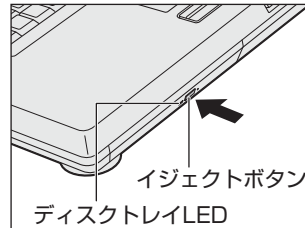
- メディアアクセス LED



- ディスクトレイ LED
「本項」の手順 2 を確認してください。

1 パソコン本体の電源を入れる

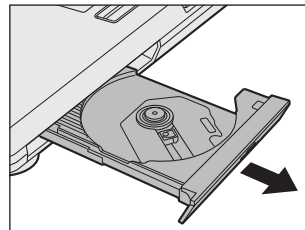
2 イジェクトボタンを押す



イジェクトボタンを押したら、ボタンから手を離してください。ディスクトレイが少し出てきます (数秒かかることがあります)。

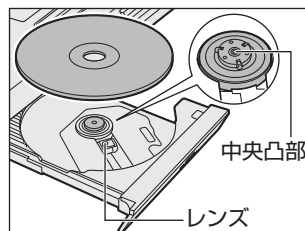
※ 購入したモデルによってイジェクトボタンの位置は異なります。

3 ディスクトレイを引き出す



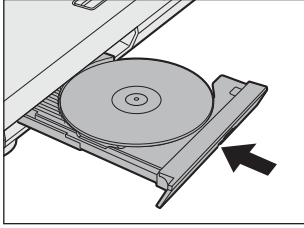
CD / DVD / HD DVD をのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 文字が書いてある面を上にして、CD / DVD / HD DVD の穴の部分をディスクトレイの中央凸部に合わせ、上から押さえてセットする



「カチッ」と音がして、セットされたことを確認してください。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



CD / DVD / HD DVD をセットすると、再生するアプリケーションや操作を選択する画面が表示されます。

【「QosmioPlayer」を使うには】

電源オフまたは休止状態のときに音楽 CD や DVD-Video などを入しても、「QosmioPlayer」が自動的に起動し、再生を開始する機能には対応していません。「QosmioPlayer」については、『オーディオ & ビジュアルガイド』を参照してください。

6 CD / DVD を使うとき（セット）

* DVD スーパーマルチドライブモデルの場合

CD / DVD は、パソコン本体に装備されているドライブにセットして使用します。

お願い 操作にあたって

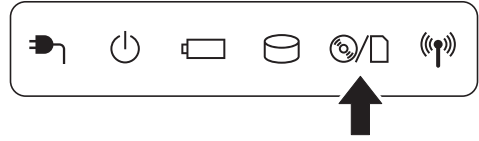
- メディアアクセス LED が点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD / DVD を取り出す操作をしないでください。CD / DVD が傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブに CD / DVD が入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- CD / DVD を取り出す場合、スロットの前に手をかざしたり、ものを置いたりしないでください。
- 本製品では、12cm の CD / DVD のみ使用できます。8cm サイズや名刺サイズの CD / DVD は使用できません。

メモ セットする前に確認しよう

- 傷ついたり汚れのひどい CD / DVD の場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合があります。汚れをふきとってから再生してください。
- CD / DVD の特性や CD / DVD への書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。

ドライブに関する表示

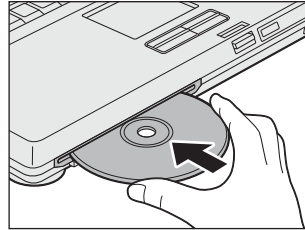
パソコンの電源が入っていて、ドライブが動作しているときは、メディアアクセス LED が点灯します。



1 パソコン本体の電源を入れる

Windows が起動します。

2 文字が書いてある面を上にして、CD / DVD の両端をそっと持ち、水平方向に入れる



CD / DVD が自動的に中に吸い込まれるまで押ししてください。

このとき CD / DVD をスロットに対して斜めに入れたり、無理に押し込んで入れると、CD / DVD の表面に傷や汚れが付くことがあります。

傷や汚れが付くと、CD / DVD を読み込むことや、書き込むことができなくなる原因となりますので、取り扱いには十分に気をつけてください。

CD / DVD を挿入すると、再生するアプリケーションや操作を選択する画面が表示されます。

本製品のドライブでは、12cm の CD / DVD のみ使用できます。8cm サイズや名刺サイズの CD / DVD は使用しないでください。8cm サイズや名刺サイズの CD / DVD を挿入した場合、取り出せなくなるおそれがあります。また、12cm に変換する市販のアダプタを使用した場合でも、使用できません。

【「QosmioPlayer」を使うには】

「QosmioPlayer」を使って CD / DVD を再生する場合は、電源が入っていない状態で CD / DVD を挿入することができます。電源が入っていない状態で音楽 CD や DVD-Video などを入ると、「QosmioPlayer」が自動的に起動し、再生を開始します。「QosmioPlayer」については『オーディオ & ビジュアルガイド』を参照してください。

⑦ CD / DVD / HD DVD を使い終わったとき (取り出し)

* HD DVD-ROM ドライブモデルの場合

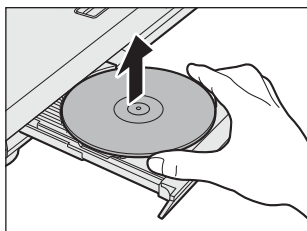
イジェクトボタンを使う場合

1 パソコン本体の電源が入っているか確認する
電源が入っていない場合は電源を入れてください。

2 イジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し出てきます。

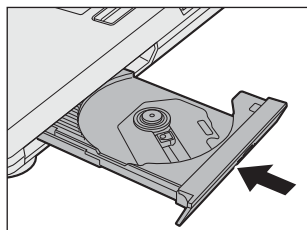
3 ディスクトレイを引き出す
CD / DVD / HD DVD をのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 CD / DVD / HD DVD の両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す



CD / DVD / HD DVD を取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



リモコンを使う場合

次の場合に、リモコンの「取り出し」ボタンを押すと、CD / DVD / HD DVD を取り出すことができます。

- Windows 動作中
- QosmioPlayer 動作中
- 電源が入っていない状態
- 休止状態

1 リモコンの「取り出し」ボタンを押す

ディスクトレイが少し出てきます。
以降の操作は、「本項 イジェクトボタンを使う場合」の手順3に進んでください。

CD / DVD / HD DVD が出てこない場合

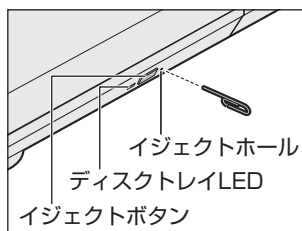
電源が入っていないときは、イジェクトボタンを押しても CD / DVD / HD DVD は出てきません。電源を入れてから、イジェクトボタンを押し、CD / DVD / HD DVD を取り出してください。

次の場合は、電源が入っていても、イジェクトボタンまたはリモコンの「取り出し」ボタンを押した直後に CD / DVD / HD DVD は出てきません。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係のLED が点灯しているとき

上記以外で CD / DVD / HD DVD が出てこない場合は、次のように操作してください。

- Windows 動作中の場合
CD / DVD / HD DVD を使用しているアプリケーションをすべて終了してから、イジェクトボタンまたはリモコンの「取り出し」ボタンを押してください。
- QosmioPlayer 動作中の場合
CD / DVD の再生を停止してから、イジェクトボタンまたはリモコンの「取り出し」ボタンを押してください。
- パソコン本体の電源が入らない場合



※ 購入したモデルによってイジェクトボタン、イジェクトホール、ディスクトレイLEDの位置は異なります。

電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。

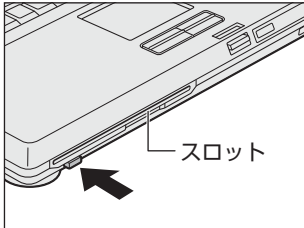
参照 CD / DVD / HD DVD が取り出せない場合
「6章 4 Q&A集 CD / DVD / HD DVD
-Q CD / DVD / HD DVD が取り出せない」

⑧ CD / DVD を使い終わったとき (取り出し)

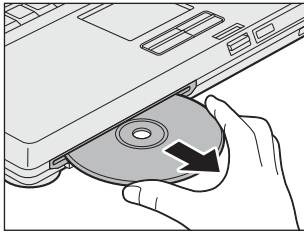
* DVDスーパーマルチドライブモデルの場合

イジェクトボタンを使う場合**1 パソコン本体の電源が入っているか確認する**

電源が入っていない場合は電源を入れてください。

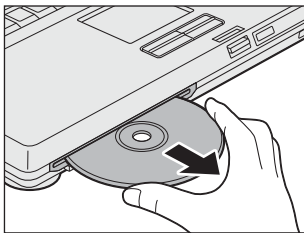
2 イジェクトボタンを押す

CD / DVD が半分くらい出てきます。
スロットの前に手をかざしたり、ものを置いたりしないでください。

3 CD / DVD の両端をそっと持ち、水平方向に取り出す**リモコンを使う場合**

次の場合に、リモコンの [取り出し] ボタンを押すと、CD / DVD を取り出すことができます。

- Windows 動作中
- QosmioPlayer 動作中
- 電源が入っていない状態
- 休止状態

1 リモコンの [取り出し] ボタンを押す**2 CD / DVD の両端をそっと持ち、水平方向に取り出す****CD / DVD が出てこない場合**

電源が入っていないときは、イジェクトボタンを押しても CD / DVD は出てきません。電源を入れてから、イジェクトボタンを押し、CD / DVD を取り出してください。

次の場合は、電源が入っていても、イジェクトボタンまたはリモコンの [取り出し] ボタンを押した後すぐに CD / DVD は出てきません。

- 電源を入れた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係のLEDが点灯しているとき

上記以外で CD / DVD が出てこない場合は、次のように操作してください。

- Windows 動作中の場合
CD / DVD を使用しているアプリケーションをすべて終了してから、イジェクトボタンまたはリモコンの [取り出し] ボタンを押してください。
- QosmioPlayer 動作中の場合
CD / DVD の再生を停止してから、イジェクトボタンまたはリモコンの [取り出し] ボタンを押してください。

参照 CD / DVD が取り出せない場合 「6章 4 Q&A 集
CD / DVD / HD DVD -Q CD / DVD / HD
DVD が取り出せない」

5

画面を見やすく調整する

－ ディスプレイ －

本製品は表示装置として TFT カラー液晶ディスプレイを内蔵しています。

- WUXGA モデル : 1920 × 1200 ドット
- WXGA+ モデル : 1440 × 900 ドット

ドットは画素数を表します。

テレビや外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

表示について

TFT カラー液晶ディスプレイは非常に高度な技術を駆使して作られております。非点灯、常時点灯などの画素（ドット）が存在することがあります（有効ドット数の割合は 99.99%以上です。有効ドット数の割合とは、「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」です）。また、見る角度や温度変化によって色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

① 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1～8」の8段階で設定ができます。購入時の設定では、「東芝省電力」で、ACアダプタ接続時は「8」（最高輝度）に、バッテリー駆動時はバッテリーの残容量に応じて「4」から「2」に変化するように設定されています。明るさを変えたい場合は、次の方法でお好みの明るさに調整してください。

なお、本製品では、ACアダプタ接続時とバッテリー駆動時では、同じ設定値でも明るさ（輝度）が異なります。最大の明るさでご使用になるには、ACアダプタを接続してください。

【輝度の調整方法】

- 本体の輝度+ボタンまたは輝度-ボタンを使う



参照 ▶ 「1章 1-① 前面図」

- (FN)+(F6)キーまたは(FN)+(F7)キーを使う

参照 ▶ 《おたすけナビ（検索）：

[FN] キーを使った特殊機能キー》

- リモコンの [☀(輝度)∧] ボタンまたは、[☀(輝度)V] ボタンを使う

参照 ▶ 『オーディオ & ビジュアルガイド 付録 3-②

Windows XP での操作』

6

いろいろなメディアカードを使う

－ブリッジメディアスロット－

本製品では次のメディアをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

- SD メモリカード
- メモリースティック
- メモリースティック PRO
- xD-ピクチャーカード
- マルチメディアカード

① SD メモリカードを使う前に

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- 本製品は、2GB までの SD メモリカードを使用できます。
- ブリッジメディアスロットに miniSD メモリカードをセットするときは、必ず miniSD アダプタを装着した状態で行ってください。
miniSD メモリカードに miniSD アダプタが同梱されている場合は、同梱の miniSD アダプタをご使用ください。
- ブリッジメディアスロットから miniSD メモリカードを取りはずすときは、必ず miniSD アダプタに装着したままの状態で行ってください。
- すべての SD メモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべての SD メモリカードの動作保証はできません。
- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

新品の SD メモリカードは、SD メモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。フォーマットとは、SD メモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SD メモリカードを使えるようにすることです。

再フォーマットをする場合は、「東芝 SD メモリカードフォーマット」または SD メモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。「東芝 SD メモリカードフォーマット」については、「おたすけナビ（検索）：SD メモリカードをフォーマットする」をご覧ください。

② メモリースティックを使う前に

本製品のブリッジメディアスロットでは、Memory Stick Specification V1.3 準拠のメモリースティックを取り付けて使用できます。

使用できるメモリースティックの種類は次のとおりです。

- メモリースティック
- メモリースティック PRO

お願い メモリースティックの使用にあたって

- 本製品は、次の容量までのメモリースティックを使用できます。
 - ・メモリースティック : 256MB まで
 - ・メモリースティック PRO : 2GB まで
- 本製品は、メモリースティック Duo、メモリースティック PRO Duo とメモリースティックアダプタには対応していません。
- 本製品は、著作権保護技術 MagicGate には対応していません。本製品では、著作権保護を必要としないデータの読み出し／書き込みのみできます。
- すべてのメモリースティックの動作確認は行っていません。したがって、すべてのメモリースティックの動作は保証できません。
- メモリースティックの詳しい使いかたなどについては『メモリースティックに付属の説明書』を確認してください。

新品のメモリースティックは、メモリースティックの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。フォーマットとは、メモリースティックにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、メモリースティックを使えるようにすることです。

再フォーマットをする場合は、メモリースティックを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

メモリースティックを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

③ xD-ピクチャーカードを使う前に

本製品のブリッジメディアスロットでは、xD-ピクチャーカードを取り付けて使用できます。

お願い xD-ピクチャーカードの使用にあたって

- 本製品は、2GB までの xD-ピクチャーカードを使用できます。
- すべての xD-ピクチャーカードの動作確認は行っていません。したがって、すべての xD-ピクチャーカードの動作は保証できません。
- xD-ピクチャーカードの詳しい使いかたなどについては『xD-ピクチャーカードに付属の説明書』を確認してください。

新品の xD-ピクチャーカードは、xD-ピクチャーカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

フォーマットとは、xD-ピクチャーカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、xD-ピクチャーカードを使えるようにすることです。

再フォーマットをする場合は、xD-ピクチャーカードを使用する機器（デジタルカメラなど）で行ってください。

xD-ピクチャーカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

④ マルチメディアカードを使う前に

本製品のブリッジメディアスロットでは、マルチメディアカードを取り付けて使用できます。

お願い マルチメディアカードの使用にあたって

- 本製品は、1GB までのマルチメディアカードを使用できます。
- 本製品は、著作権保護機能付きのマルチメディアカードである SecureMMC は対応していません。
- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

新品のマルチメディアカードは、マルチメディアカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

フォーマットとは、マルチメディアカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、マルチメディアカードを使えるようにすることです。

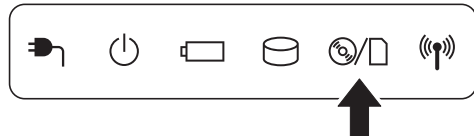
再フォーマットをする場合は、マルチメディアカードを使用する機器（デジタルカメラなど）で行ってください。

マルチメディアカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

⑤ メディアのセットと取り出し

ブリッジメディアスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、ブリッジメディアスロットに挿入したメディアとデータをやり取りしているときは、メディアアクセス LED が点灯します。



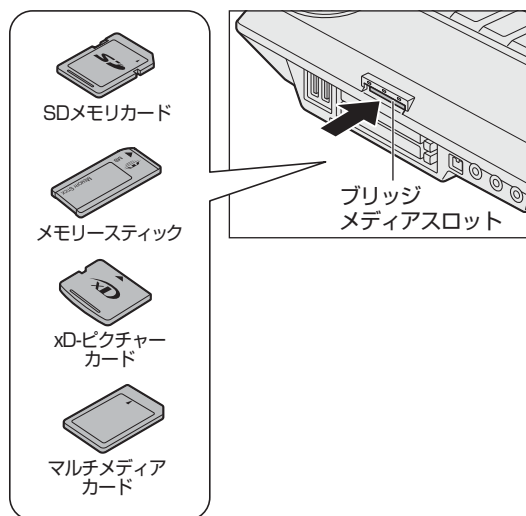
お願い 操作にあたって

- メディアアクセス LED が点灯中は、電源を切ったり、メディアを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアが壊れるおそれがあります。
- メディアは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアが壊れるおそれがあります。
- スタンバイ中は、メディアを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアを取り出す場合は、必ず使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアが壊れるおそれがあります。


1 セットする

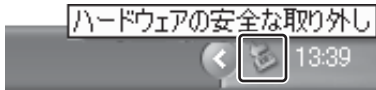
1 メディアの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。



2 取り出す**1 メディアの使用を停止する**

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする



- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずすメディア) - ドライブを安全に取り外します] をクリックする
XXXX 部分は、メディアの種類によって異なります。

SD メモリカード

: SD Memory Card

メモリースティック

: MemoryStickO Device

メモリースティック PRO


: MemoryStickProO Device

xD-ピクチャーカード

: XDO Device

マルチメディアカード

: MMC1 Device

- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

メディアに保存しているファイルなどを開いていると、取りはずしができません。ファイルを閉じてから、操作をやり直してください。

2 メディアを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 セットしたメディアの内容を見る

著作権保護*1を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

*1 SDメモリカード、メモリースティックの場合

1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする

[マイコンピュータ] 画面が表示されます。

2 メディアのアイコンをダブルクリックする

SDメモリカード : SD記憶装置デバイス

メモリースティック : Memory Stick

メモリースティック PRO : MemoryStick PRO Card

xD-ピクチャーカード : XD Picture Card

マルチメディアカード : MMC Card

セットしたメディアの内容が表示されます。

2 章

ネットワークの世界へ

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときについて紹介します。

- | | | |
|---|-----------------|----|
| 1 | インターネットへ接続する | 38 |
| 2 | 家庭内ネットワークで広がる世界 | 42 |

インターネットへ接続する

インターネットにパソコンをつなぐと、ホームページを閲覧したり、オンラインショッピングやメールのやりとりができるようになります。

インターネットへの接続は、ADSL や光ファイバーなどを使った高速の「ブロードバンド接続」と一般の電話回線を使った低速の「ダイヤルアップ接続」などがあります。接続に必要なネットワーク機器や設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

インターネットへ接続するには、次の操作を行ってください。

LAN ケーブルまたはモジュラーケーブルを接続する

・LAN ケーブルの接続

参照 「本節 ① ブロードバンドで接続する」

・モジュラーケーブルの接続

参照 「本節 ② ダイヤルアップで接続する」

インターネットとメールの設定をする

・インターネットの設定

参照 《できる dynabook 第3章
dynabook をインターネットにつなごう》

・メールの設定

参照 《できる dynabook 第4章
メールを使ってみよう》

パソコンをインターネットに接続する前に、コンピュータウイルスへの対策を行ってください。

コンピュータウイルスとは、パソコンにトラブルを発生させるプログラムのことで、ハードディスクやデータの一部を破壊するものもあります。

本製品には、ウイルスチェックソフトとして「ノートン・インターネットセキュリティNorton Internet Security」が用意されています。『セットアップガイド 3章』をお読みにになり、必ずウイルスチェックソフトの設定を行い、定期的にウイルスチェックを行ってください。設定したソフトは常に最新のバージョンに更新するようにしてください。

参照 コンピュータウイルスについて

『セットアップガイド 3章』

1 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

① ブロードバンドで接続する

本製品には、ブロードバンド接続などに使用するLAN機能が内蔵されています。

本製品のLANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムなどをLANケーブルで接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。

また、本製品のLAN機能は、Gigabit Ethernet (1000BASE-T)、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。Gigabit Ethernet、Fast Ethernet、Ethernetは、ご使用のネットワーク環境（接続機器、ケーブル、ノイズなど）により、自動で切り替わります。

1 LANケーブルを接続する

お願い LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。モジュラーケーブルは、アナログ電話回線専用です。LANコネクタには接続できません。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。

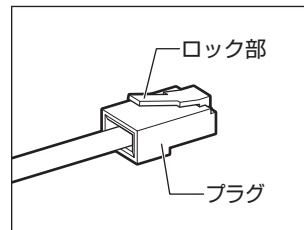
LANインタフェースを使用するとき、1000BASE-T規格は、エンハンストカテゴリ5 (CAT5E) 以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。

100BASE-TX規格は、カテゴリ5 (CAT5) 以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。

10BASE-T規格は、カテゴリ3 (CAT3) 以上のケーブルが使用できます。

カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、大きい数字ほど性能が高くなります。

LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

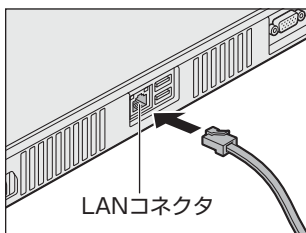


1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

LANケーブルとモジュラーケーブルのプラグは形状が非常に似ていますが、プラグの部分の大きさは、LANケーブルのほうが大きいです。ケーブルを接続するときは、LANコネクタとプラグの大きさをよくご確認のうえ、接続してください。

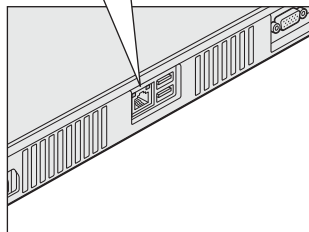
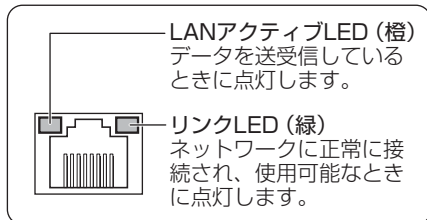


3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器の名称や以降の設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

動作状態を確認するには

LANコネクタの両脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



2 ADSL接続を設定する方法

ここでは、すでに契約しているプロバイダにADSL接続するための一般的な方法について説明します。接続に必要な設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

プロバイダから、接続に必要なCD-ROMなどが支給されている場合は、そちらをご利用ください。

設定は「コンピュータの管理者アカウント」で行ってください。「制限付きアカウント」では作成できません。

1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする

2 [ネットワーク接続] をクリックする

3 画面左側の [ネットワークタスク] で [新しい接続を作成する] をクリックする

[新しい接続ウィザードの開始] 画面が表示されます。

4 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワーク接続の種類] 画面が表示されます。

5 [インターネットに接続する] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

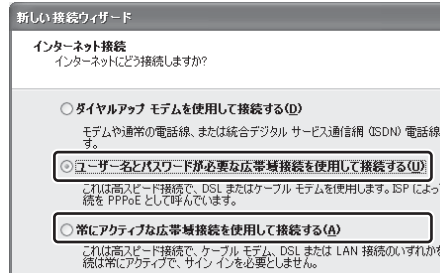
[準備] 画面が表示されます。

6 [接続を手動でセットアップする] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

[インターネット接続] 画面が表示されます。

7 ご契約のタイプにあわせて項目を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

- インターネット接続にユーザー名やパスワードの入力が必要な場合：(例:フレッツADSLなど)
[ユーザー名とパスワードが必要な広帯域接続を使用して接続する] をチェックしてください。
- インターネット接続にユーザー名やパスワードの入力が不要の場合：(例:Yahoo! BBなど)
[常にアクティブな広帯域接続を使用して接続する] をチェックしてください。こちらを選択した場合、以降は表示される画面の指示に従ってください。



[接続名] 画面が表示されます。

8 [ISP名] に任意の名前を入力し、[次へ] ボタンをクリックする

新しい接続ウィザード

接続名
インターネット接続を提供するサービスの名前は何か?

次のボックスに ISP の名前を入力してください。

ISP 名(A)
XXXXXXXXXXXXXXXXXX

ここに入力された名前は作成している接続の名前になります。

[インターネットアカウント情報] 画面が表示されます。

9 [ユーザー名] にプロバイダのアカウント名、[パスワード] と [パスワードの確認入力] にパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックする

アカウント名、パスワードなどについては契約しているプロバイダに問い合わせてください。
ここでパスワードの入力を行わなかった場合、インターネット接続時にパスワードの入力が必要になります。

新しい接続ウィザード

インターネット アカウント情報
インターネット アカウントにサインインするにはアカウント名とパスワードが必要です。

ISP アカウント名およびパスワードを入力し、この情報を書き留めてから安全な場所のアカウント名またはパスワードを忘れてしまった場合は、ISP に問い合わせください。

ユーザー名(A): XXXXXXXXXXXXX

パスワード(P): *****

パスワードの確認入力(C): *****

このコンピュータからインターネットに接続するときは、たいていこのアカウント名が必要になります。

[新しい接続ウィザードの完了] 画面が表示されます。

10 [完了] ボタンをクリックする

[XXXXXX へ接続] 画面が表示されます。
インターネットへ接続する場合は [接続] ボタンをクリックし、接続しない場合は画面を閉じてください。

② ダイヤルアップで接続する

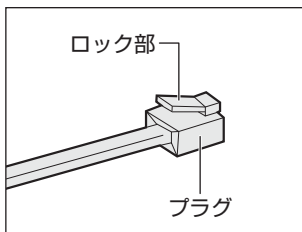
本製品の内蔵モデムを使って、ダイヤルアップ接続でインターネットに接続することができます。内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90 に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルは市販のものを使用してください。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 モジュラーケーブルを接続する

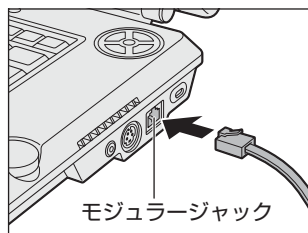
モジュラーケーブルをはずしたり差し込むときは、モジュラープラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、ジャックプラグのロック部を押しながらずして、ケーブルを引っ張らないでください。



1 モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

LAN ケーブルとモジュラーケーブルのプラグは形状が非常に似ていますが、プラグの部分の大きさは、モジュラーケーブルのほうが小さいです。ケーブルを接続するときは、モジュラージャックとプラグの大きさをよくご確認のうえ、接続してください。



2 もう一方のモジュラーケーブルのプラグを電話機用モジュラージャックに差し込む

2 ダイヤルアップ接続を設定する方法

ここでは、すでに契約しているプロバイダにダイヤルアップ接続するための方法について説明します。
設定は「コンピュータの管理者アカウント」で行ってください。「制限付きアカウント」では作成できません。
設定に必要なアカウント名、パスワード、アクセスポイントの電話番号などについては契約しているプロバイダに問い合わせください。

1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする

2 [ネットワーク接続] をクリックする

3 画面左側の [ネットワークタスク] で [新しい接続を作成する] をクリックする

[新しい接続ウィザードの開始] 画面が表示されます。

4 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワーク接続の種類] 画面が表示されます。

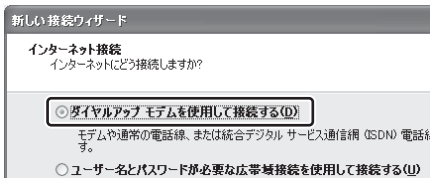
5 [インターネットに接続する] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

[準備] 画面が表示されます。

6 [接続を手動でセットアップする] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

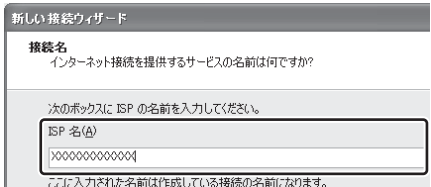
[インターネット接続] 画面が表示されます。

7 [ダイヤルアップモデムを使用して接続する] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする



[接続名] 画面が表示されます。

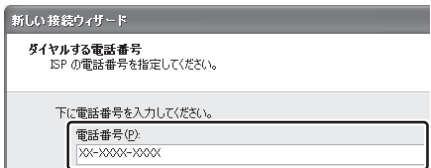
8 [ISP 名] に任意の名前を入力し、[次へ] ボタンをクリックする



[ダイヤルする電話番号] 画面が表示されます。

9 [電話番号] にプロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力し、[次へ] ボタンをクリックする

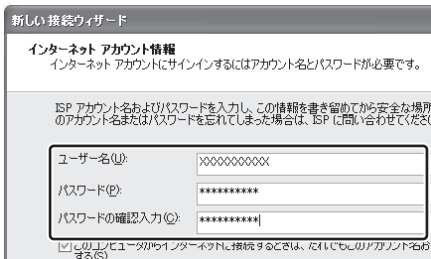
電話番号などについては、契約しているプロバイダに問い合わせてください。



[インターネットアカウント情報] 画面が表示されます。

10 [ユーザー名] にプロバイダのアカウント名、[パスワード] と [パスワードの確認入力] にパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックする

アカウント名、パスワードなどについては、契約しているプロバイダに問い合わせください。ここでパスワードの入力を行わなかった場合、インターネット接続時にパスワードの入力が必要になります。



[新しい接続ウィザードの完了] 画面が表示されます。

11 [完了] ボタンをクリックする

[XXXXXX へ接続] 画面が表示されます。インターネットへ接続する場合は [ダイヤル] ボタンをクリックし、接続しない場合は画面を閉じてください。

3 海外でインターネットに接続するときには

本製品の内蔵モデムで使用できる国/地域については、「付録 1 技術基準適合について」を参照してください。

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。設定方法については、《おたすけナビ（検索）：海外でインターネットに接続したい》をご覧ください。本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

2

家庭内ネットワークで広がる世界

家族がそれぞれ別のパソコンでインターネットやプリンタを使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

① LAN 接続はこんなに便利

家族がそれぞれ自分専用のパソコンを持っていて、家庭内に複数のパソコンがあったり、ひとりで複数のパソコンを持っている場合には、LAN (Local Area Network) を使うと便利です。

パソコン同士をつないでLANを構築すれば、SDメモリカードなどのメディアを介さずにパソコン同士で直接データのやりとりができたり、インターネットやプリンタ、スキャナーなどの周辺機器を複数のパソコンで共有して、同時に使うことができます。

LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。

有線LANの機能やLANケーブルの接続については、「本章1-① ブロードバンドで接続する」を参照してください。ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの詳しい設定については、「スタート」→「ヘルプとサポート」をクリックして、『ヘルプとサポートセンター』を参照してください。

また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

② ワイヤレス (無線) LAN を使う

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータをLANシステムに接続できます。

無線LANアクセスポイント (市販) を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

1 無線LANの概要

本製品には、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11gに準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 規格値 54Mbps 無線 LAN 対応 (IEEE802.11a/11gの場合) *1
- 規格値 11Mbps 無線 LAN 対応 (IEEE802.11bの場合) *1
- 周波数チャネル選択
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- 暗号化機能 (WEP、TKIP、AES)

*1 表示の数値は、無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

【無線LANの種類】

無線LANは、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11gに準拠する無線ネットワークです。

- IEEE802.11aは、屋外では使用できません。
- IEEE802.11a、IEEE802.11gでは「直交周波数分割多重方式」(Orthogonal Frequency Division Multiplexing, OFDM)、IEEE802.11bでは「直接拡散方式」(Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS)を採用し、IEEE802.11に準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi Alliance 認定のWi-Fi (Wireless Fidelity) ロゴを取得しています。Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11に準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。

お願い

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

(お客様の権利 (プライバシー保護) に関する重要な事項です！)

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。その反面、電波はある範囲内であれば障害物 (壁など) を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- ・ 通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報、メールの内容などの通信内容を盗み見られる可能性があります。
- ・ 不正に侵入される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す (情報漏えい) 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す (なりすまし) 傍受した通信内容を書き換えて発信する (改ざん) コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する (破壊) などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

お願い セキュリティ機能

- セキュリティ機能を使用しないと、無線 LAN 経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。不正アクセスを防ぐために、ネットワーク名 (SSID) の設定や、暗号化機能 (WEP、WPA) を設定されることを強くおすすめします。
- また、お使いの無線 LAN アクセスポイントで、登録した MAC アドレスのみ接続可能にする設定などの対策も有効です。
- 公共の無線 LAN アクセスポイントなどで使用される場合は、「Windows セキュリティセンター」の「Windows ファイアウォール」やファイアウォール機能のあるウイルスチェックソフトを使用して、不正アクセスを防止してください。

お願い 無線 LAN を使用するにあたって

- 無線 LAN の無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
- また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線 LAN は無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、《おたすけナビ (検索)：無線 LAN について》を確認してください。
- 本製品の無線 LAN を使用できる地域については、「付録 2-1 ご使用になれる国／地域について」を確認してください。

2 無線 LAN を使ってみよう

無線 LAN の使いかたについては、『無線 LAN らくらく設定シート』もあわせてご覧ください。

警告

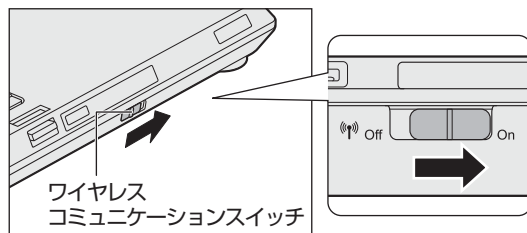
- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ (左側) にし、必ずパソコン本体の電源を切ることをワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

お願い 操作にあたって

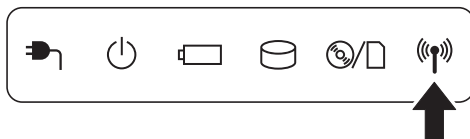
- Bluetooth と無線 LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth、無線 LAN のいずれかの使用を中止してください。

ここでは、無線 LAN の一般的な設定方法について説明します (Windows XP Service Pack2 が適用された環境の設定方法です)。

1 本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (無線) LED が点灯します。



無線 LAN 機能が起動します。無線 LAN 機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

2 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする

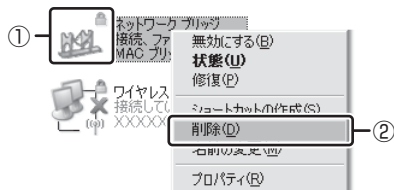
3 [ネットワーク接続] をクリックする

4 [ネットワーク接続] 画面に [ネットワークブリッジ] アイコンがあるか確認する

[ネットワークブリッジ] アイコンが表示されている場合は手順 5 へ、表示されていない場合は、手順 7 へ進んでください。

5 [ネットワークブリッジ] アイコンを右クリックし①、表示されたメニューから [削除] をクリックする②

通常ネットワークブリッジは使用しませんが、設定を行なっている場合は削除しないでください。ここでの手順は一般的な無線 LAN の設定方法になります。

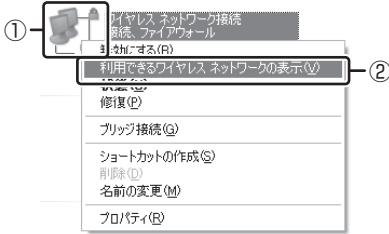


[接続の削除の確認] 画面が表示されます。

6 [はい] ボタンをクリックする

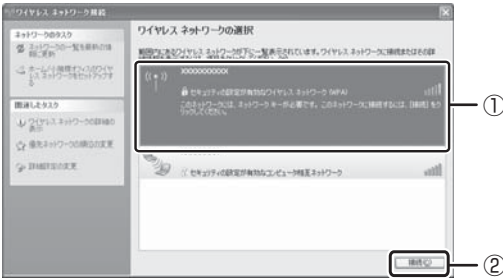
削除には約 30 秒かかります。

7 [ワイヤレスネットワーク接続] アイコンを右クリックし①、表示されたメニューから [利用できるワイヤレスネットワークの表示] をクリックする②

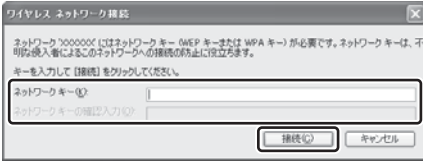


[ワイヤレスネットワーク接続] 画面が表示されます。

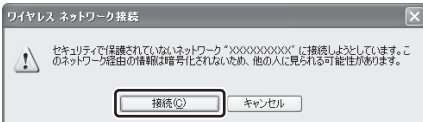
8 [ワイヤレスネットワークの選択] の使いたいネットワークを選択し①、[接続] ボタンをクリックする②



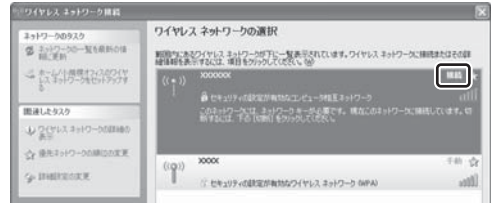
【暗号化機能を設定している場合】
 「ネットワーク 'XXXXXX (接続するネットワーク名) 'にはネットワークキー (WEP キーまたは WPA キー) が必要です・・・」のメッセージ画面が表示されます。[ネットワークキー] と [ネットワークキーの確認入力] にキーを入力し、[接続] ボタンをクリックしてください。



【暗号化機能を設定していない場合】
 「セキュリティで保護されていないネットワーク 'XXXX XXX (接続するネットワーク名) 'に接続しようとしています・・・」のメッセージ画面が表示されます。[接続] ボタンをクリックしてください。



正常に接続されるとネットワーク名の右側に「接続」または「接続済み」と表示されます。



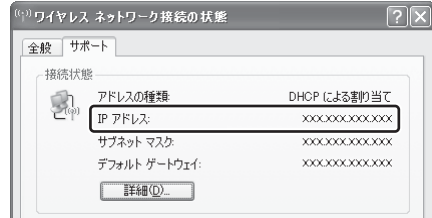
9 [ワイヤレスネットワーク接続] 画面を閉じる

10 [ネットワーク接続] 画面で [ワイヤレスネットワーク接続] アイコンをダブルクリックする



[ワイヤレスネットワーク接続の状態] 画面が表示されます。

11 [サポート] タブで [IP アドレス] で取得している IP アドレスが正常な範囲のものか確認する
 一般的に正常な範囲のアドレスは「192.168.XXX.XXX」の範囲です。



役立つ操作集

通信状態を確認する

[ワイヤレスネットワーク接続] アイコンをクリックすると [ワイヤレスネットワーク接続の状態] 画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

メモ ConfigFree

- 本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線 LAN デバイスを検出したり、LAN ケーブルをはずすと自動的に無線 LAN に切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。

参照 ConfigFree の設定方法 《おたすけナビ (検索) : ネットワーク設定に便利な操作》

ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックし、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

3 章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1	周辺機器を使う前に	46
2	パソコンの動作をスムーズにする –メモリの増設–	47
3	USB 対応機器を使う	50
4	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を使う	51
5	パソコンの画面をテレビに映す –テレビの接続–	52
6	パソコンの画面を外部ディスプレイに映す –外部ディスプレイの接続–	59
7	インターネットチャットや音声ソフトを使う –マイクロホンやヘッドホンの接続–	60
8	PC カードを使う	61
9	ExpressCard を使う	63
10	光デジタルオーディオ出力端子対応機器を使う	65

1

周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を広げることができます。

周辺機器には、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつながる外付け方式のものと、パソコンのカバーを開けて、パソコンの中に取り付ける内蔵方式のものがあります。

本製品に接続して使うことができる周辺機器には、おもに次のようなものがあります。

【外付け方式のもの】

- キーボード
- フロッピーディスクドライブ
- テレビ
- プロジェクタ
- オーディオ機器（音楽プレイヤー）
- フラッシュメモリ
- ハードディスク
- トラックボール
- マウス
- プリンタ
- ディスプレイ
- スキャナ
- ハブ
- モデム
- テンキーパッド

【内蔵方式のもの】

- メモリ
- バッテリー

周辺機器によっては、インタフェースなどの規格が異なることがあります。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。

購入される際には、その周辺機器で何をしたいのか、目的をはっきりさせて、その目的にあった周辺機器をお選びください。そして、本製品に対応しているかどうかを、その周辺機器のメーカーに確認したうえで、ご購入ください。

お願い 取り付け/取りはずしにあたって

- 取り付け/取りはずしの方法は周辺機器によって異なります。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
 - ・ ホットインサージョンに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタからACアダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーバックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサージョンとは、電源を入れた状態で機器の取り付け/取りはずしを行うことです。
 - ・ 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露ないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。

- ・ ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- ・ 極端に温度や湿度の高い/低い場所では作業しないでください。
- ・ 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- ・ 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- ・ 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- ・ 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- ・ パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ・ ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- ・ パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

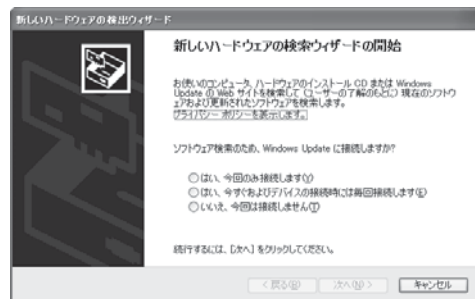
参照 コネクタの仕様について

〈おたすけナビ（検索）：インタフェース仕様〉

① ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールを行います。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】Windowsには、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。周辺機器を接続するとWindowsがドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかったら、自動的にインストールを開始します。
[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】[ハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。[ハードウェアの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

2

パソコンの動作をスムーズにする

－メモリの増設－

ハードディスクの大きさがデータの保存容量を決めるのに対し、メモリ容量はハードディスクからデータを取り出し、作業するエリアの大きさに影響します。画像編集など、一度に大きなデータを扱う作業を行う場合は、メモリ容量が大きいほうがスムーズに作業を行うことができます。メモリを増設して、快適なパソコンにしましょう。

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品にはPC2-4200対応、DDR2 SDRAM仕様の2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があります。

メモリが取り付けられていないスロットに別売りの増設メモリを取り付けたり、取り付けられているメモリを別売りの増設メモリと付け換えることができます。

増設メモリは、容量によって次のものがあります。

1GB（タイプ3）：PAME1003

512MB（タイプ3）：PAME5123

256MB（タイプ3）：PAME2563

取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて最大2GBまでです。

メモリを2GBに増設しているとき、モデルやシステム構成によってはメモリの一部をシステムが使用することがあります。

警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないこと
内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないこと
火災、感電の原因となります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずにお買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーバックを取りはずしてから作業を行うこと
電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないこと
内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切った後30分以上たってから行ってください。

お願い 操作にあたって

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミや油が付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをゆるめる際は、ネジの種類に合ったドライバーを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

増設メモリは、東芝製オプションを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、次のような警告音（ビーブ音）が鳴ります。

警告音	エラーの原因
ビー、ピッ	スロットAに動作保証されていないメモリ（SPD対応）が取り付けられている。
ビー、ピッ、ピッ	スロットBに動作保証されていないメモリ（SPD対応）が取り付けられている。
ビー、ピッ、無音、ビー、ピッ、ピッ	スロットA、スロットBに動作保証されていないメモリ（SPD対応）が取り付けられている。
警告音が鳴らない	動作保証されていないメモリ（SPD非対応）が取り付けられている。

起動はするがメモリが認識されない場合は、どちらか一方のスロットには動作保証されているメモリが取り付けられていますが、もう一方のスロットには動作保証されていないメモリ（SPD 非対応）が取り付けられています。

お願い 静電気について

- 増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって回復不能な損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

【デュアルチャンネルについて】

同じ仕様で同じ容量のメモリを、それぞれスロット A、スロット B に装着すると、デュアルチャンネルで動作します。デュアルチャンネルは 2 枚のメモリに効率良くアクセスするため、より快適にパソコンを動作させることができます。

1 メモリを増設する

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照 「本節 2 メモリを取りはずす」

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

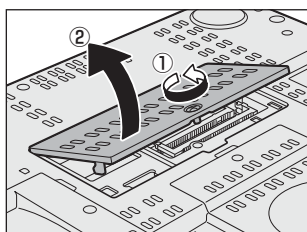
参照 電源の切りかた 『セットアップガイド 1 章 4 電源を切る方法と入れる方法』

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

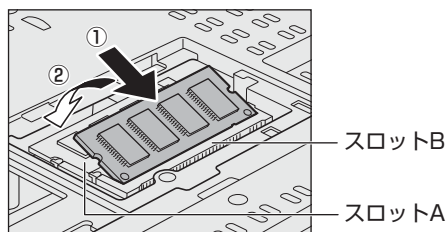
参照 バッテリーパックの取りはずし
「4 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ①、カバーをはずす②



増設メモリスロットの内部に異物が入らないようにしてください。

5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

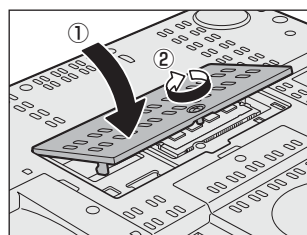


パソコンの裏面を表にした状態で、下段がスロット A、上段がスロット B です。

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

6 増設メモリカバーをつけて①、手順 4 でゆるめたネジ 1 本をとめる②



増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリーパックを取り付ける

参照 バッテリーパックの取り付け
「4 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について
「本節 3 メモリ容量を確認する」

2 メモリを取りはずす**1** データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

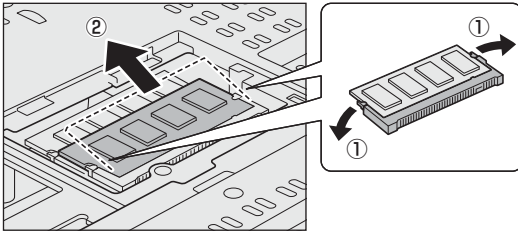
参照 電源の切りかた『セットアップガイド 1 章 4 電源を切る方法と入れる方法』

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類ははずす**3** ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照 バッテリーパックの取りはずし
「4 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ、カバーをはずす

増設メモリスロットの内部に異物が入らないようにしてください。

5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②

パソコンの裏面を表にした状態で、下段がスロット A、上段がスロット B です。

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

6 増設メモリカバーをつけて、手順 4 でゆるめたネジ 1 本をとめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリーパックを取り付ける

参照 バッテリーパックの取り付け
「4 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量を確認する

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報] タブの [物理メモリ] の数値を確認する

3

USB 対応機器を使う

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。USB 対応機器には次のようなものがあります。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB フラッシュメモリ など

本製品の USB コネクタには USB2.0 対応機器と USB1.1 対応機器を取り付けることができます。USB 対応機器の詳細については、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

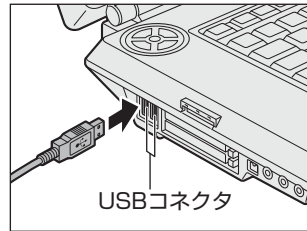
1 USB ケーブルのプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

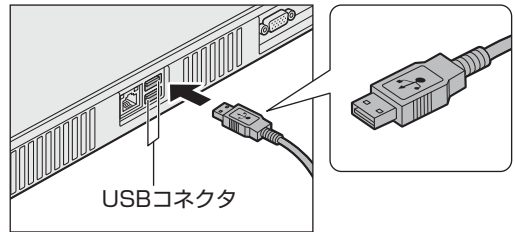
2 USB ケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

【左側面】



【背面】





2 取りはずし

お願い 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB 対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USB フラッシュメモリや MO ドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器)] を安全に取り外します をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

* 通知領域にこのアイコンが表示されない USB 対応機器は、手順 1 の①～③は必要ありません。

2 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

4

i.LINK (IEEE1394) 対応機器を使う

アイリンク アイリフイーイーチサンキュウヨン

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応プリンタ など

本製品は、IEEE1394a に対応しています。

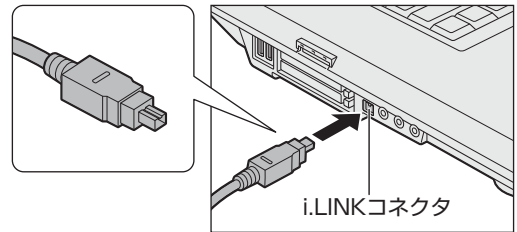
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っているときに他の i.LINK 対応機器の取り付け/取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け/取りはずしは、データ通信を行っていないとき、またはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け/取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切替を伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む



プラグの向きを確認して差し込んでください。

2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

お願い 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、i.LINK 対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置の i.LINK 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

* 通知領域にこのアイコンが表示されない i.LINK 対応機器は、手順 1 の①～③は必要ありません。

2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINK によるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、[スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックして、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する

2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

5

パソコンの画面をテレビに映す

－ テレビの接続 －

本製品の次のコネクタとテレビをケーブルで接続すると、テレビ画面に Windows のデスクトップ画面を表示させることができます。

- S-Video 出力コネクタ^{エスビデオ}
- HDMI 出力端子 (HDMI 出力端子モデルのみ)^{エイチエムアイ}
- D 映像出力端子 (D 映像出力端子モデルのみ)

【パソコン上のテレビ番組や HD DVD / DVD を、テレビに表示する】
「Qosmio AV Center」でのテレビ番組や「WinDVD」での DVD 再生など、パソコンで視聴／再生している映像を、ご家庭のテレビにも表示させることができます。

メモ

- テレビの代わりに、外部ディスプレイを接続して表示することもできます。
- QosmioPlayer の映像は、本体液晶ディスプレイのみに表示できます。テレビや外部ディスプレイを接続して表示させることはできません。
- 「Qosmio AV Center」の画面をテレビや外部ディスプレイを接続して表示させると、正しく表示されないことがあります。詳細は、「Qosmio AV Center」のヘルプを確認してください。
- HDMI 出力端子に接続したテレビへの、コマンドプロンプトの全画面表示は対応していません。

パソコンでテレビを見る準備をする

* 「Qosmio AV Center」でテレビ番組視聴の場合

参照▶「オーディオ&ビジュアルガイド」



パソコン本体と、テレビを接続する

参照▶「本節 1 パソコンに接続する」



パソコンの画面をテレビに表示する設定をする

参照▶「本節 2 表示を切り替える」



動画をテレビに表示する設定をする

* テレビ番組やDVDなどの動画を本体液晶ディスプレイとテレビに同時表示したい場合

参照▶「本節 3

パソコンをDVDプレーヤ代わりに使う



* HD DVDの動画を本体液晶ディスプレイまたはテレビに表示したい場合

参照▶「本節 4 パソコンを

HD DVDプレーヤ代わりに使う」



【接続の前に】

テレビを接続するときは、『テレビに付属の取扱説明書』もあわせて確認してください。

● HDMI 出力端子モデルの場合

S 映像入力端子 (S1/S2 映像入力端子) または HDMI 入力端子があるテレビを接続できます。

接続する S 端子ケーブルは、市販の 4 ピンコネクタのケーブルを使用してください。

接続する HDMI 端子ケーブルは、市販のものを使用してください。

すべての HDMI 入力端子があるテレビの動作確認は行っていません。したがって、すべての HDMI 入力端子があるテレビへの表示は保証できません。テレビによっては正しく表示されない場合があります。

● D 映像出力端子モデルの場合

S 映像入力端子 (S1/S2 映像入力端子) または D 映像入力端子があるテレビを接続できます。

接続する S 端子ケーブルは、市販の 4 ピンコネクタのケーブルを使用してください。

D 映像出力端子は、D1 出力、D2 出力、D3 出力、D4 出力に対応しています。接続する D 端子ケーブルは、市販のものを使用してください。



メモ

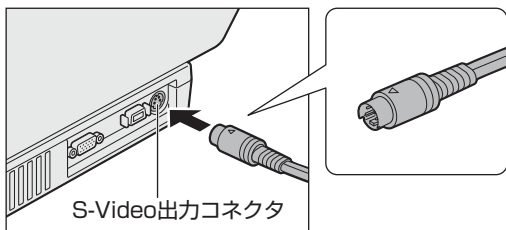
- S-Video 出力コネクタと HDMI 出力端子 / D 映像出力端子は、同時に使用できません。
- S-Video 出力コネクタと HDMI 出力端子 / D 映像出力端子のテレビへの出力形式を設定する方法は、「本節 2 表示を切り替える」を参照してください。

■ パソコンに接続する

テレビとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

【S-Video 出力コネクタに接続する】

1 S 端子ケーブルのプラグをパソコン本体の S-Video 出力コネクタに差し込む



2 S 端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビの S 映像入力端子 (S1/S2 映像入力端子) に差し込む

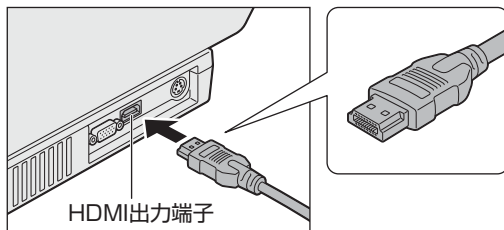
3 テレビの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れる

音声はパソコンのスピーカーで聞か、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

【HDMI 出力端子に接続する】

* HDMI 出力端子モデルのみ

1 HDMI 端子ケーブルのプラグをパソコン本体の HDMI 出力端子に差し込む



2 HDMI 端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビの HDMI 入力端子に差し込む

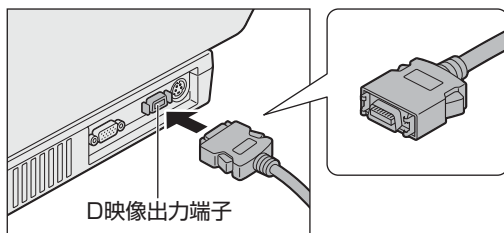
3 テレビの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れる

音声は、テレビ側とパソコン本体側の両方から出力されます。パソコン本体から音声を出力したくない場合は、ボリュームダイヤルや(FN)+(ESC)キーでパソコン本体の音量をミュート(消音)に設定してください。

【D 映像出力端子に接続する】

* D 映像出力端子モデルのみ

1 D 端子ケーブルのプラグをパソコン本体の D 映像出力端子に差し込む



2 D 端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビの D 映像入力端子に差し込む

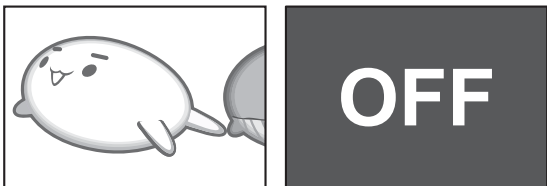
3 テレビの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れる

音声はパソコンのスピーカーで聞か、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

2 表示を切り替える

テレビを接続した場合には、次の表示方法があります。表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

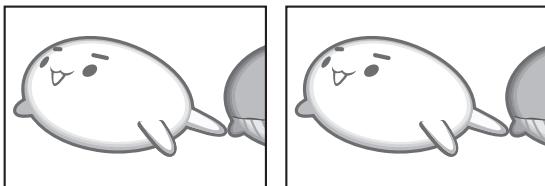
【本体液晶ディスプレイだけに表示/テレビだけに表示】いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。



【本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示】

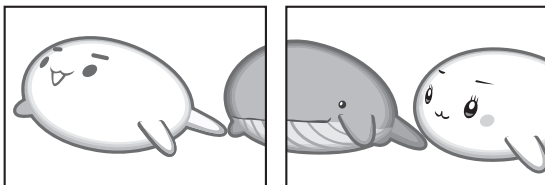
● クローン表示

2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。



● デュアルビュー (Dualview) 表示

2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用 (拡張表示) します。



テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い 操作にあたって

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えしないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えしないでください。
 - ・データの読み出しや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間
- Clone (クローン) 表示しているときは一部の動画は再生することができません。この場合は本体液晶ディスプレイまたはテレビのどちらかだけに表示するか、拡張表示に設定してください。
- Clone (クローン) 表示または拡張表示しているときに動画を再生させると、画像がコマ落ちをすることがあります。この場合は本体液晶ディスプレイまたはテレビのどちらかだけに表示するか、表示解像度を下げると、コマ落ちが軽減される場合があります。

方法1 - [画面のプロパティ] で設定する

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックし、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする
- 4 [GeForce Go 7600] タブで次のいずれかに設定する

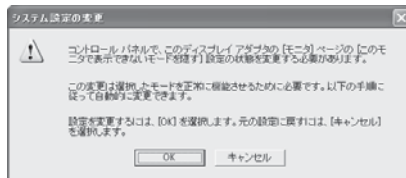
[設定方法] に進んでください。



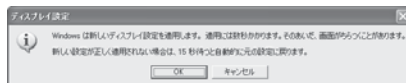
【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

● [システム設定の変更] 画面



● [ディスプレイ設定] 画面



● [ディスプレイ設定の確認] 画面



【設定方法】

- 本体液晶ディスプレイだけに表示
 - ① [nView] で [1つのディスプレイ] を選択する
 - ② [現在のディスプレイ] で [デジタル フラット パネル] を選択する
 - ③ [OK] ボタンをクリックする

● 本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示

- ① [nView] で [クローン] または [デュアルビュー (Dualview)] を選択する
[クローン] を選択すると、2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。
[デュアルビュー (Dualview)] を選択すると、2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用 (拡張表示) できます。
- ② [プライマリディスプレイ/セカンダリディスプレイ] で [デジタル フラット パネル/TV] を選択する
[デジタル フラット パネル/TV] は、[デジタル フラット パネル/HDTV] と表示される場合があります。
- ③ [TV] アイコンをクリックする
[TV] は、[HDTV] と表示される場合があります。
- ④ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [TV フォーマットを選択する] を選択する
- ⑤ テレビの形式を選択する
次のいずれかを選択してください。
・NTSC-M ・NTSC-J ・PAL-B
国内のテレビの場合は [NTSC-J] です。
D映像出力端子モデルの場合、次の項目も表示されます。
・525p (480p,D2) ・1125i (1080i,D3)
・750p (720p,D4) ・525i (480i,D1)
D映像出力端子とテレビを接続した場合は、テレビ側の端子に応じてD1～D4のいずれかを選択してください。
- ⑥ [OK] ボタンをクリックする
手順⑤でD1～D4のいずれかを選択した場合は、[HDTV Overscan 補正] 画面が表示される場合があります。テレビに出力するときの解像度と表示方法を選択してください。

● 本体液晶ディスプレイと、HDMI出力端子に接続したテレビの同時表示

* HDMI出力端子モデルのみ

- ① [nView] で [クローン] または [デュアルビュー (Dualview)] を選択する
[クローン] を選択すると、2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。
[デュアルビュー (Dualview)] を選択すると、2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用 (拡張表示) できます。
- ② [プライマリディスプレイ/セカンダリディスプレイ] で [デジタル フラット パネル/HDMI 表示デバイス] *1 を選択する
- ③ [HDMI 表示デバイス] *1 アイコンをクリックする
- ④ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [TV フォーマットを選択する] を選択する
- ⑤ テレビの表示形式を選択する
次のいずれかを選択してください
・480p EDTV ・720 HDTV ・1080i HDTV
選択できる表示形式は、テレビのサポート状況によって異なります。
- ⑥ [HDTV Overscan 補正] 画面で、テレビに表示するときの表示方法を選択する

- ⑦ [OK] ボタンをクリックする

*1 [HDMI 表示デバイス] 部分に、接続しているテレビの名前が表示されています。また、[HDMI 表示デバイス] アイコンにポインタをあわせると、「DVI モニタ」として表示されます。

● テレビだけに表示

- ① [nView] で [1つのディスプレイ] を選択する
- ② [現在のディスプレイ] で [TV] を選択する
[TV] は、[HDTV] と表示される場合があります。
- ③ [OK] ボタンをクリックする

● HDMI出力端子に接続したテレビだけに表示

* HDMI出力端子モデルのみ

- ① [nView] で [1つのディスプレイ] を選択する
- ② [現在のディスプレイ] で [HDMI 表示デバイス] *1 を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

*1 [HDMI 表示デバイス] 部分に、接続しているテレビの名前が表示されています。また、[HDMI 表示デバイス] アイコンにポインタをあわせると、「DVI モニタ」として表示されます。

5 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

方法2-(FN)+(F5)キーを使う

(FN)キーを押したまま(F5)キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(FN)キーを押したまま(F5)キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(FN)キーをはなすと表示装置が切り替わります。

- 表示装置をLCD (本体液晶ディスプレイ) に戻す方法
現在の表示装置がLCD (本体液晶ディスプレイ) 以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、(FN)+(F5)キーを3秒以上押し続けてください。表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指をはなしてから、(FN)+(F5)キーを3秒以上押し続けてください。

【表示装置を選択する画面】



HDMI出力端子にテレビを接続している場合は、次のように表示されます。

* HDMI出力端子モデルのみ



- LCD 本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD1 / CRT1 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- CRT 外部ディスプレイだけに表示
外部ディスプレイを接続している／していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD1 / TV1 *1 本体液晶ディスプレイとテレビに同時表示
- TV *1 テレビだけに表示
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD1 / CRT2 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイにデュアルビュー表示
本体液晶ディスプレイがプライマリモニタになります。
- LCD1 / TV2 *1 本体液晶ディスプレイとテレビにデュアルビュー表示
本体液晶ディスプレイがプライマリモニタになります。
- LCD1 / HDMI1 *2 本体液晶ディスプレイとHDMI出力端子に接続したテレビに同時表示
- HDMI *2 HDMI出力端子に接続したテレビだけに表示
本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD1 / HDMI2 *2 本体液晶ディスプレイとHDMI出力端子に接続したテレビにデュアルビュー表示
本体液晶ディスプレイがプライマリモニタになります。

*1 HDMI出力端子モデルで、HDMI出力端子にテレビを接続している場合は、表示されません。

*2 HDMI出力端子モデルで、HDMI出力端子にテレビを接続している場合に、表示されます。

【デュアルビューでプライマリモニタを切り替える方法】
現在の表示装置がデュアルビュー表示に設定されている場合、プライマリモニタ、セカンダリモニタを切り替えるアイコンが表示されます。



プライマリモニタ、セカンダリモニタを切り替えるアイコンにカーソルが移動したら、(FN)キーをはなすと表示装置が切り替わります。

3 パソコンをDVDプレーヤ代わりに使う

パソコンにテレビなどを接続してDVDプレーヤのようにパソコンを使いたいときは、動画をテレビや外部ディスプレイに表示するための設定を行います。表示装置を本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示、または本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に設定している場合、動画がテレビや外部ディスプレイに表示されないことがあります。その場合は、次の設定を行います。

- 1 (FN)+(F5)キーを押して、本体液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイの同時表示になっていることを確認する

参照 (FN)+(F5)キー

「本節 2-方法 2-(FN)+(F5)キーを使う」

- 2 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックし、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする

- 3 [画面] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

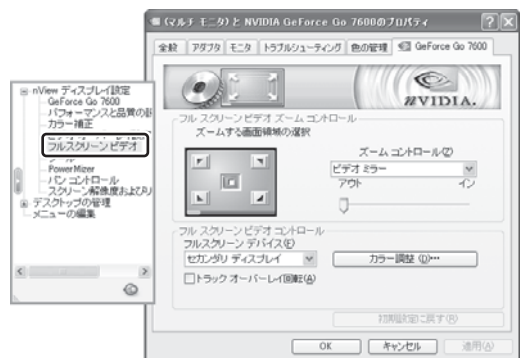
- 4 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする

- 5 [GeForce Go 7600] タブで [GeForce Go 7600] ボタンをクリックする

画面左側にメニューが表示されない場合は、画面プロパティウィンドウの左端にある矢印をクリックしてください。

- 6 表示されるメニューから [nView ディスプレイ設定] をダブルクリックする

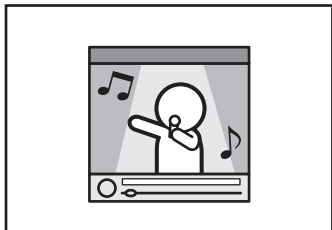
- 7 表示されるメニューから [フルスクリーンビデオ] をクリックする



8 [フルスクリーンデバイス] で [プライマリディスプレイ] または [セカンダリディスプレイ] を選択する

本体液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイの、どちらかあるいは両方がフルスクリーン表示になっていないと、動画を表示できません。

● ウィンドウ表示



● フルスクリーン表示



[フルスクリーンデバイス] で、どちらをフルスクリーン表示にするか設定します。

[フルスクリーンデバイス] での設定項目の内容は、次のようになっています。

表示装置 設定項目	本体液晶 ディスプレイ	テレビまたは 外部ディスプレイ
プライマリ ディスプレイ	フルスクリーン 表示	ウィンドウ 表示
セカンダリ ディスプレイ	ウィンドウ 表示	フルスクリーン 表示
無効	ウィンドウ 表示	表示されない

メモ

- ウィンドウ表示をフルスクリーン表示にしたい場合は、動画再生ソフト上でウィンドウを最大化してください。
- 本体液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイの両方の表示装置を、ウィンドウ表示にすることはできません。
- 動画の種類によっては「フルスクリーンデバイス」の設定に関わらず本体液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイの両方の表示装置にウィンドウ表示されることがあります。
- 本体液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイの同時表示では、「Qosmio AV Center」や「WinDVD」などの動画再生ソフトを使用したとき、ウィンドウ内に表示されている映像が、テレビまたは外部ディスプレイにフルスクリーン表示されます。

このとき、動画再生ソフトを最小化したり、表示されている映像が他のウィンドウで隠れてしまったりすると、フルスクリーン表示が停止したり正しく表示されない場合があります。

このようなときは、動画再生ソフトの画面をクリックし、ウィンドウ内に表示されている映像が見える状態に戻してください。

同時表示のときに「Qosmio AV Center」で地上デジタル放送を視聴することはできません。

9 [OK] ボタンをクリックする

10 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

メモ

- テレビにD端子ケーブルで接続し、D3 および D4 を選択した場合、一般的に市販のコピーガードのかかったDVD-Video は外部映像機器に出力できません。

4 パソコンをHD DVDプレーヤ代わりに使う

パソコンのHD DVD再生アプリケーションで再生している映像を、HDMI入力端子があるテレビにも表示することができます。

参照 HD DVD再生アプリケーションについて
「HD DVDガイド」

【接続の前に】

テレビを接続するときは、『テレビに付属の取扱説明書』もあわせて確認してください。

● 接続できるテレビ

HDMI入力端子があるテレビを接続できます。接続するHDMI端子ケーブルは、市販のものを使用してください。

すべてのHDMI入力端子があるテレビの動作確認は行っていません。したがって、すべてのHDMI入力端子があるテレビへの表示は保証できません。テレビによっては正しく表示されない場合があります。

パソコンに接続する

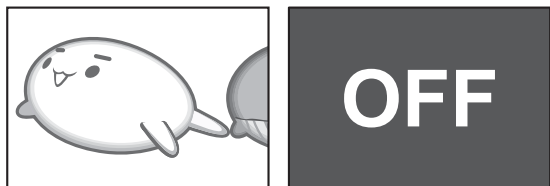
接続方法は、「本節 1- HDMI出力端子に接続する」を確認してください。

表示を切り替える

HD DVDビデオディスクの映像を表示するには、次の表示方法があります。

表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できません。

【本体液晶ディスプレイだけに表示／テレビだけに表示】
いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。



テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

参照 ▶ 表示を切り替えるときの操作にあたって
『HD DVDガイド』

【方法1－[画面のプロパティ]で設定する】

設定方法は、「本節 2- 方法1－[画面のプロパティ]で設定する」の「本体液晶ディスプレイだけに表示」または「HDMI出力端子に接続したテレビだけに表示」を確認してください。

【方法2－(FN)+(F5)キーを使う】

(FN)+(F5)キーを押して、表示装置を切り替えることもできます。

参照 ▶ 詳細について
「本節 2- 方法2－(FN)+(F5)キーを使う」

5 パソコンから取りはずす

パソコン本体の電源を切ってから、テレビの電源を切った後、取りはずしを行ってください。

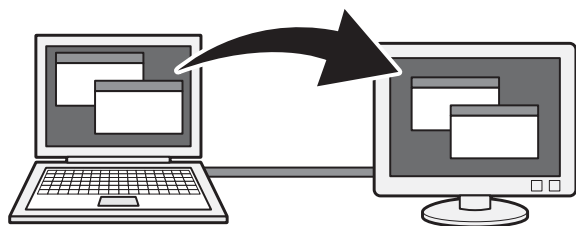
- 1 パソコン本体とテレビに差し込んである、S端子ケーブルまたはHDMI端子ケーブルまたはD端子ケーブルを抜く

6

パソコンの画面を 外部ディスプレイに映す

— 外部ディスプレイの接続 —

フルサイズD
RGB コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに Windows のデスクトップ画面を表示させることができます。



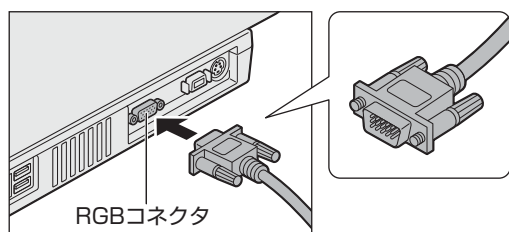
メモ

- 使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあった外部ディスプレイを接続してください。
- QosmioPlayer の映像は、本体液晶ディスプレイのみに表示できます。テレビや外部ディスプレイを接続して表示させることはできません。
- 「Qosmio AV Center」の画面をテレビや外部ディスプレイを接続して表示させると、正しく表示されないことがあります。詳細は、「Qosmio AV Center」のヘルプを確認してください。

1 パソコンに接続する

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む



2 外部ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れる

外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

2 パソコンから取りはずす

1 パソコン本体の電源を切ってから、外部ディスプレイの電源を切る

2 RGB コネクタからケーブルを抜く

3 表示を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する
・ クローン表示
・ デュアルビュー (Dualview) 表示
- 本体液晶ディスプレイだけに表示する

表示方法は、テレビに表示する場合の説明を参考にしてください。

参照 表示方法について「本章 5-2 表示を切り替える」

「東芝省電力」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

切り替え方法

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の「方法 1」や「方法 2」を参考にしてください。「方法 1」を参考にする場合は、[GeForce Go 7600] タブで [アナログ ディスプレイ] *1 を選択してください。

*1 実際には、接続している外部ディスプレイの名前が表示されています。

参照 表示方法について「本章 5-2 表示を切り替える」

また、本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に設定した場合、動画を外部ディスプレイに表示するには設定が必要です。

参照 外部ディスプレイに動画を表示する「本章 5-3 パソコンを DVD プレーヤ代わりに使う」

メモ

- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、外部ディスプレイ/本体液晶ディスプレイとも本体液晶ディスプレイの色数/解像度で表示されません。

4 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

7

インターネットチャットや音声ソフトを使う

－ マイクロホンやヘッドホンの接続 －

本製品には、マイクロホンやヘッドホンを接続できます。マイクロホンやヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

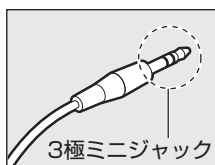
① マイクロホンを使う

マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

参照 サウンド機能について《おたすけナビ（検索）》：パソコン上で録音するときの音量調整

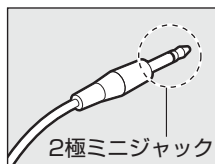
1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



3極ミニジャック

- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



2極ミニジャック

- 3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

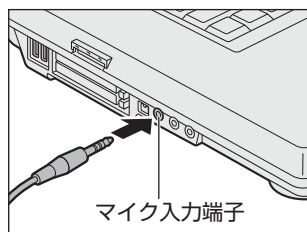
音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

本製品には、音声認識ソフト「LaLaVoice^{ララボイス}」が用意されています。

参照 「LaLaVoice」について《おたすけナビ（検索）》：パソコンを音声で操作したい

2 接続する

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



マイク入力端子

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

② ヘッドホンを使う

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。

ヘッドホンのプラグは、3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い 操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
 - ・ パソコン本体の電源を入れる／切るとき
 - ・ ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、またはWindowsのボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

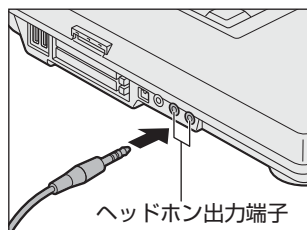
- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

本製品のヘッドホン端子は2個あり、うち1個（左側）は光デジタルオーディオ出力端子を兼ねています。

参照 光デジタルオーディオ出力端子への接続について「本章 10 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を使う」

1 接続する

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



ヘッドホン出力端子

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

8

PC カードを使う

目的に合わせた PC カードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。

PC カードには、次のようなものがあります。

- データ通信カード (PHS、携帯電話)
- フラッシュメモ리카ード用アダプタカード
- 外付けハードディスクドライブ、
CD / DVD ドライブ用アダプタカード

など

① PC カードを使う前に

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II 対応のカード (CardBus 対応カードも含む) を使用できます。

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け / 取りはずし (ホットインサージョン) に対応しているため便利です。

使用している PC カードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

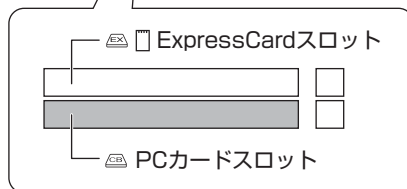
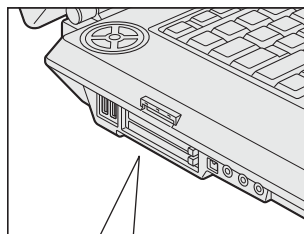
お願い 操作にあたって

- ホットインサージョンに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け / 取りはずしを行ってください。
- PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが回復不能な影響を受ける場合があります。

② PC カードを使う

PC カードを使う場合、パソコン本体の PC カードスロットに PC カードを取り付けてください。

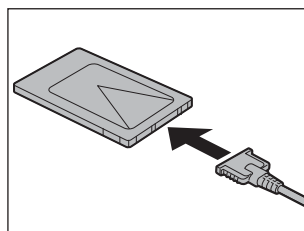
本製品の ExpressCard スロットと PC カードスロットは、上下に並んでいます。それぞれのスロットを間違えないようにしてください。



参照 ▶ ExpressCard スロットについて
「本章 9 ExpressCard を使う」

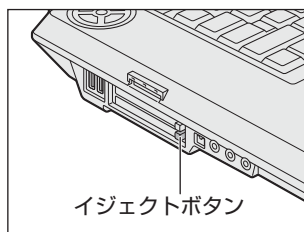
1 取り付け

1 PC カードにケーブルを付ける



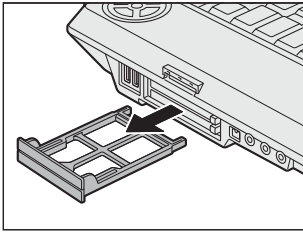
SCSI カードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PC カードスロットのイジェクトボタンを 2 回押す



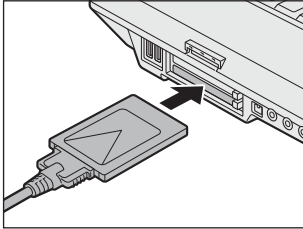
1 回押すとイジェクトボタンが出てきますので、もう 1 回「カチッ」と音がするまで押してください。ダミーカードが少し出てきます。ダミーカードを取り出すときは、PC カードスロットのイジェクトボタンを押してください。ExpressCard スロットのイジェクトボタンを押しても、ダミーカードは出てきません。

3 ダミーカードを抜く



ダミーカードはなくさないように保管してください。

4 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押ししてください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

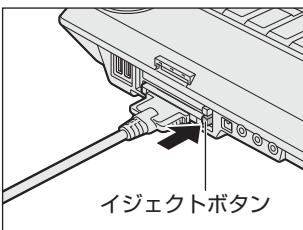
お願い 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PCカードの使用を停止する

- ① 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから「XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します」をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、「閉じる」ボタン (X) をクリックする

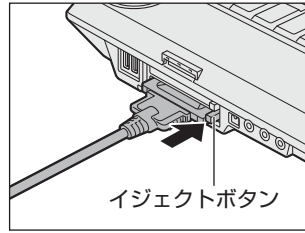
2 イジェクトボタンを押す



イジェクトボタンが出てきます。

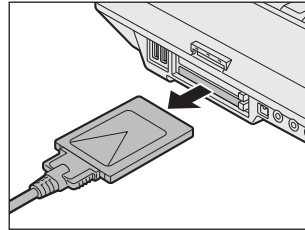
カードが奥まで差し込まれていない場合、イジェクトボタンが出てこないことがあります。カードを奥まで押し込んでから、もう一度イジェクトボタンを押してください。

3 もう1度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押ししてください。カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。熱くないことを確認してから行ってください。

5 ダミーカードを挿入する

6 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

お願い 取りはずした後に

- PCカードおよび ExpressCard を取りはずした後は、ダミーカードを挿入してください。ホコリやゴミなどが PC カードスロットおよび ExpressCard スロットに入り、故障するおそれがあります。

9

ExpressCard を使う

目的に合わせた ExpressCard を使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。

① ExpressCard を使う前に

本製品は、ExpressCard Standard 準拠の ExpressCard/34、ExpressCard/54 対応のカードを使用できます。

ExpressCard は基本的に電源を入れたままの取り付け/取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

使用している ExpressCard がホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『ExpressCard に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

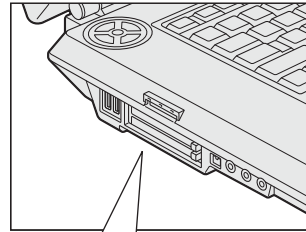
- ホットインサージョンに対応していない ExpressCard を使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け/取りはずしを行ってください。
- ExpressCard には、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。ExpressCard を取りはずす際に、ExpressCard が熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから ExpressCard を取りはずしてください。

② ExpressCard を使う

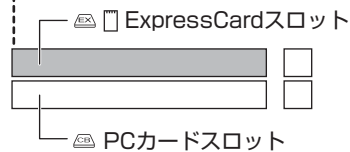
ExpressCard を使う場合、パソコン本体の ExpressCard スロットに ExpressCard を取り付けてください。

本製品の ExpressCard スロットと PC カードスロットは、上下に並んでいます。それぞれのスロットを間違えないようにしてください。

また、ExpressCard を取り付けるときは、ExpressCard スロットの左端に ExpressCard の左端を合わせて挿入してください。



カード合わせ位置

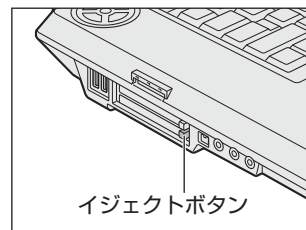


参照 ▶ PC カードスロットについて
「本章 8 PC カードを使う」

1 取り付け

1 ケーブルの接続が必要な場合は、ExpressCard にケーブルを付ける

2 PC カードスロットのイジェクトボタンを 2 回押す

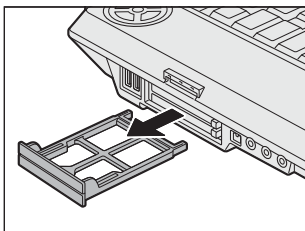


1 回押すとイジェクトボタンが出てきますので、もう 1 回「カチッ」と音がするまで押してください。

ダミーカードが少し出てきます。

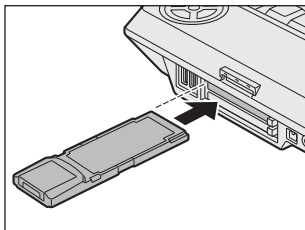
ダミーカードを取り出すときは、PC カードスロットのイジェクトボタンを押してください。ExpressCard スロットのイジェクトボタンを押しても、ダミーカードは出てきません。

3 ダミーカードを抜く



ダミーカードはなくさないように保管してください。

4 ExpressCardの表裏を確認し、表を上にして挿入する




カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押ししてください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、ExpressCardを使用できない、またはExpressCardが壊れる場合があります。カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。



* イラストは、ExpressCard/34対応のカードの例です。

2 取りはずし

お願い 取りはずす前に確認しよう

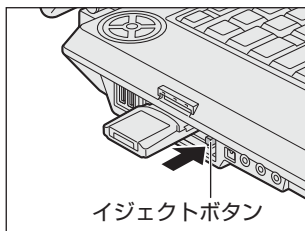
- 取りはずすときは、ExpressCardをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- 通知領域に【ハードウェアの安全な取り外し】アイコン()が表示されているExpressCardを取りはずす場合、ExpressCardの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにExpressCardを取りはずすとシステムが回復不能な影響を受ける場合があります。

1 ExpressCardの使用を停止する

- ① 通知領域の【ハードウェアの安全な取り外し】アイコン()をクリックする
- ② 表示されたメニューから【XXXX(取りはずすExpressCard)を安全に取り外します】をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、【閉じる】ボタン()をクリックする

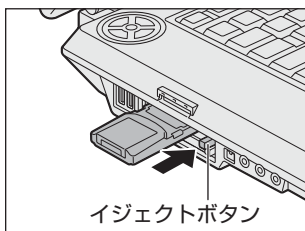
* 通知領域にこのアイコンが表示されないExpressCardは、手順1の①～③は必要ありません。

2 イジェクトボタンを押す



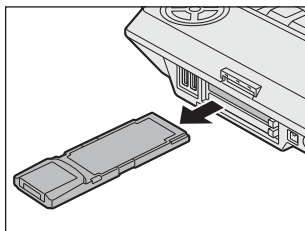
イジェクトボタンが出てきます。カードが奥まで差し込まれていない場合、イジェクトボタンが出てこないことがあります。カードを奥まで押し込んでから、もう一度イジェクトボタンを押してください。

3 もう1度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押ししてください。カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。熱くないことを確認してから行ってください。

5 ダミーカードを挿入する

6 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

お願い 取りはずした後に

- PCカードおよびExpressCardを取りはずした後は、ダミーカードを挿入してください。ホコリやゴミなどがPCカードスロットおよびExpressCardスロットに入り、故障するおそれがあります。

10

光デジタルオーディオ出力端子 対応機器を使う

次のような機器（光デジタル対応機器とよびます）を、光デジタルオーディオ出力端子に接続して使用できます。

- MDレコーダ
- MDコンボ
- AVアンプ
- ホームシアターシステム
- マルチチャンネルスピーカ など

本製品の光デジタルオーディオ出力端子は、ヘッドホン出力端子を兼ねています。

参照 ヘッドホン出力端子への接続について
「本章 7-② ヘッドホンを使う」

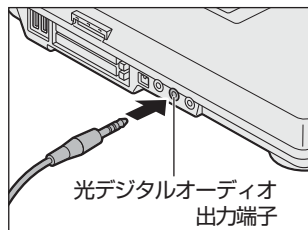
お願い 操作にあたって

- すべての光デジタル対応機器の動作確認は行っておりません。したがって、すべての光デジタル対応機器の動作は保証いたしかねます。
- 光デジタル対応機器を接続するためには市販のケーブルが必要です。パソコン本体の端子は光ミニプラグ、光デジタル対応機器の端子は光ミニプラグまたは光角形プラグです。ご使用の機器にあったケーブルをご購入ください。
- 光デジタルオーディオ出力端子から出力される音声は、サンプリング周波数が48kHzに固定されています。そのため、このサンプリング周波数に対応していない光デジタル対応機器では動作しません。
- 光デジタルオーディオ出力端子からの音声をコピーする場合、次の内容をよくお読みください。
 - ・お客様が光デジタルオーディオ出力端子を使用して他人の著作物を録音、複製などを行う場合は、個人的に使用する目的でのみ行うことができます。また著作物によっては、一切の録音、複製などができないものがあります。これらに反して録音、複製などを行うことは、著作権法に違反する場合がありますので、光デジタルオーディオ出力端子を使用して録音、複製などを行う場合には、著作権法を遵守のうえ、適切にご使用ください。
 - ・お客様がソフトウェアの標準設定を変更して光デジタルオーディオ出力端子をご使用された場合、著作権者により「複製自由」とされた著作物であっても、「1回限りの複製」しかできない場合があります。
- 複製が禁止されている著作物は、再生のみ可能です。録音／複製はできません。

- 「InterVideo WinDVD」で「コピー禁止」のDVDを再生した場合や、著作権保護機能（SCMSに準拠）を持つプレーヤーでCDや音楽ファイルを再生した場合、録音できない場合があります。SCMS（シリアル・コピー・マネージメント・システム）とは、デジタル音源からのコピーを一世代のみに制限する技術です。例えば、音楽CDからMDに録音することはできませんが、録音したMDからさらに他のMDに録音することはできません。

1 取り付け

1 デジタルオーディオケーブルのプラグを光デジタルオーディオ出力端子に差し込む



2 デジタルオーディオケーブルのもう一方のプラグを光デジタル対応機器に差し込む

2 取りはずし

1 パソコン本体と光デジタル対応機器に差し込んだケーブルを抜く

3 光デジタル対応機器への再生

光デジタルオーディオ出力端子から、光デジタル対応機器（AVアンプ、ホームシアターシステム、マルチチャンネルスピーカなど）への再生方法について説明します。

1 光デジタル対応機器の電源を入れる

2 光デジタル対応機器の音量等を調整する

光デジタル対応機器側で、S/PDIF入力からの音声をモニタ・再生できるように設定してください。詳細は、『光デジタル対応機器に付属の説明書』を確認してください。

3 再生したい音楽などをパソコンで再生する

コンテンツの種類（リニアPCM、Dolby Digitalなど）に対応した再生が行われます。

4 光デジタル対応機器への録音

光デジタルオーディオ出力端子から、光デジタル対応機器（MD コンポなど）への録音方法について説明します。

1 光デジタル対応機器の電源を入れる

2 光デジタル対応機器を録音待機状態にする

詳細は、『光デジタル対応機器に付属の説明書』を確認してください。

3 録音したい音楽などをパソコンで再生する

次の場合に録音ができます。

- 「Windows Media Player」など Windows に用意されているプレーヤなどで Wave ファイル、MIDI ファイル、ムービーファイル（AVI / MPG）、音楽 CD などを再生する場合
- 「InterVideo WinDVD」で「コピー可」の DVD を再生する場合


光デジタル対応機器にシンクロ録音機能がある場合、録音が自動的に開始されます。

シンクロ録音機能とは、光デジタル対応機器がパソコン上で音楽が再生されたことを自動的に認識し、録音を開始する機能です。

シンクロ録音機能がない場合は、まず光デジタル対応機器側で録音を開始し、次にパソコン側で音楽などの再生を開始してください。

4 章

バッテリー駆動で使う



パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認など、バッテリーを使用するにあたっての取り扱い方法について説明しています。

1

バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。ご購入時に取り付けられているバッテリーパックの種類は、モデルによって異なります。バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。本製品を初めて使用するときは、バッテリーパックを充電してから使用してください。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 危険

- **バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用すること**
寿命などで交換する場合は、別紙の『dynabook Qosmio G30/7シリーズ製品仕様表』に記載されている、指定の東芝製バッテリーをお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- **バッテリーパックを分解・改造しないこと**
分解・改造すると、火災・破裂・発熱の原因となります。指定以外の製品や、分解・改造したものは、安全性や製品に関する保証はできません。

⚠ 警告

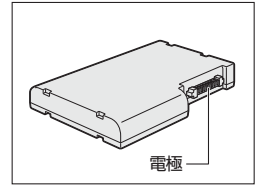
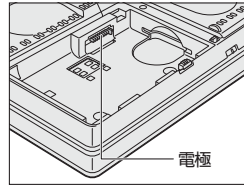
- **別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないこと**
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

⚠ 注意

- **バッテリーパックの充電温度範囲内（5～35℃）で充電すること**
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。

お願い

- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。



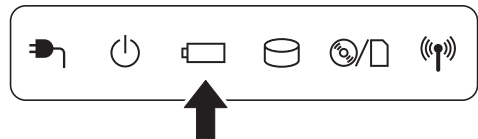
- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリーを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、ACアダプタを接続してバッテリーと時計用バッテリーを充電してください。

① バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する


ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。



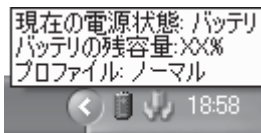
Battery LED は次の状態を示しています。

青	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要 参照▶ バッテリーの充電について 「本節 ② バッテリーを充電する」
消灯	<ul style="list-style-type: none"> ・ バッテリーが接続されていない ・ ACアダプタが接続されていない ・ バッテリー異常 異常の場合は、購入店または近くの保守サービスに連絡してください。


2 通知領域の【省電力】アイコンで確認する

通知領域の【省電力】アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用しているプロフィール名や、使用している電源の種類が表示されます。

**参照** 省電力設定について

《おたすけナビ (検索) : 省電力の設定をする》

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や【省電力】アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。


1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

参照 再充電について

「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

3 バッテリー充電量が減少したとき


電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する (バッテリーの残量が少ないことを示しています)
- バッテリーのアラームが動作する
「東芝省電力」の [アクション設定] タブの [アラーム設定] で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ①パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を供給する
- ②電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。


時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、ACアダプタを接続し電源を入れているとき (電源 ON 時) に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning (警告) メッセージが出ます。

【充電完了までの時間】

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power  LED が青色に点灯)	8 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。



② バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い 操作にあたって


- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 5 ~ 35°C の室温で充電してください。


1 充電方法**1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む**

DC IN  LED が青色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFF にかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery  LED が青色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【充電完了までの時間】

バッテリーパックは消耗品です。バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

詳細は、別紙の『dynabook Qosmio G30/7 シリーズ製品仕様表』を参照してください。

【バッテリーの駆動時間】

バッテリーパックは消耗品です。バッテリー駆動時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

詳細は、別紙の『dynabook Qosmio G30/7 シリーズ製品仕様表』を参照してください。

【バッテリー駆動時の処理速度】

高度な処理を要するソフトウェア（3D グラフィックス使用など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するために AC アダプタを接続してご使用ください。

【使っていないときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。

保持時間は、充電完了の状態 で電源を切った場合の目安にしてください。

詳細は、別紙の『dynabook Qosmio G30/7 シリーズ製品仕様表』を参照してください。

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

2 バッテリーを長持ちさせるには


- AC アダプタをコンセントに接続したままでパソコンを 8 時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにも AC アダプタをコンセントからはずしてください。
- 1 ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1 ヶ月に 1 度は、AC アダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。
その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る



2 パソコン本体から AC アダプタをはずし、パソコンの電源を入れる

電源が入らない場合は手順 4 へ進んでください。


3 5 分程度バッテリー駆動を行う


この間、Battery  LED が点滅するか、充電量が少なくなったなどの警告が表示された場合は、すぐに AC アダプタを接続し、手順 4 へ進みます。

4 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN  LED が青色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery LED が青色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、通電していません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

参照 《おたすけナビ（検索）：休止状態》

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

参照 《おたすけナビ（検索）：

簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する》

- 省電力のプロファイルを設定する

参照 《おたすけナビ（検索）：省電力の設定をする》

③ バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。

バッテリーパックの取り付け／取りはずしの際には、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

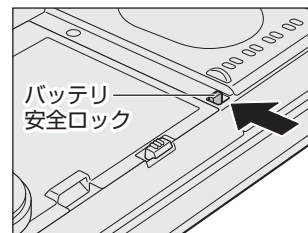
メモ

- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

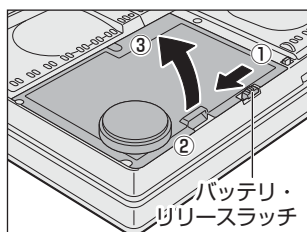
1 取りはずし／取り付け

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 4 バッテリー安全ロックを矢印の方向に引く

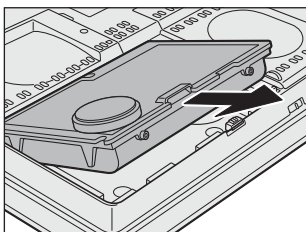
バッテリー・リリーススラッチがスライドできるようになります。



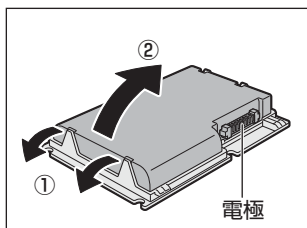
- 5** バッテリー・リリーススラッチをスライドしながら①、くぼみに指をかけて②、バッテリーカバーごととバッテリーパックを持ち上げる③



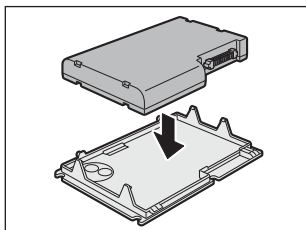
- 6** バッテリーカバーごと、バッテリーパックを取り出す



- 7** バッテリーカバーからバッテリーパックを取り出す
バッテリーカバーの片側のツメを外側に広げ①、バッテリーパックを取りはずします②。

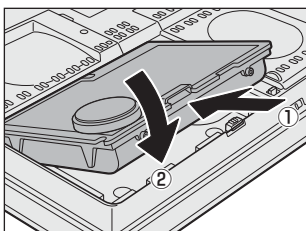


- 8** 交換するバッテリーパックをバッテリーカバーに取り付ける



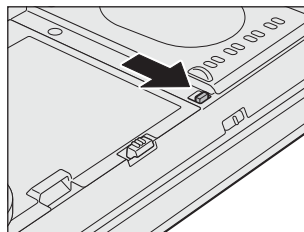
- 9** バッテリーパックをコネクタに斜めに挿入し①、静かに差し込む②

新しいあるいは充電したバッテリーパックを注意して、カチッという音がするまで差し込んでください。



- 10** バッテリー安全ロックを矢印の方向に押す

バッテリーパックがはずれないように、バッテリー安全ロックは必ず行ってください。



5 章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1	システム環境の変更とは	74
2	東芝 RAID	75
3	BIOS セットアップを使う	80

1

システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2つの方法があります。

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。

変更できる項目		Windows 上のユーティリティ
ハードウェア環境（パソコン本体）の設定		「東芝 HW セットアップ」 参照 ▶ 《おたすけナビ（検索）：システム環境を設定する》
パスワード セキュリティの設定	ユーザパスワード	「東芝パスワードユーティリティ」 参照 ▶ 《おたすけナビ（検索）：ユーザパスワード》
	スーパーバイザ パスワード	「東芝パスワードユーティリティ」 参照 ▶ 《おたすけナビ（検索）：スーパーバイザパスワード》
省電力の設定		「東芝省電力」 参照 ▶ 《おたすけナビ（検索）：省電力の設定をする》

BIOS セットアップについては「本章 3 BIOS セットアップを使う」をご覧ください。

2


東芝 RAID

本製品には、ハードディスクドライブが2台内蔵されており、「東芝 RAID」を使って RAID 機能を設定することができます。

① 東芝 RAID とは

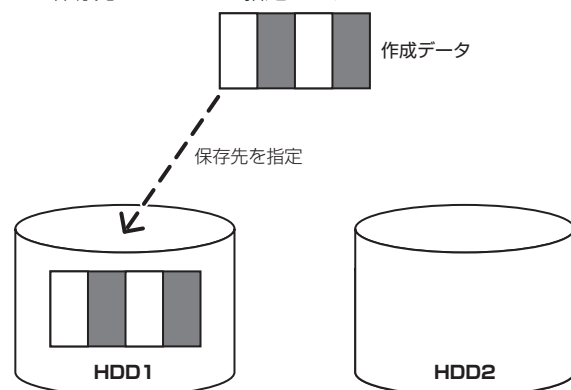
RAID (Redundant Array of Independent Disks) とは、複数のハードディスクドライブを組み合わせ、信頼性や性能を向上させる技術です。おもにサーバなどの信頼性が要求されるシステムで使用され、いくつかの方式があります。「東芝 RAID」ではこのうちの RAID-0 (ストライピング) と RAID-1 (ミラーリング) をサポートしています。

メモ

- 内蔵ハードディスクドライブが2台 (同じ容量のもの) が装着されている場合のみ、「東芝 RAID」を使って RAID-0 (ストライピング)、RAID-1 (ミラーリング) を設定することができます。
- 「東芝 RAID」は、Windows を起動すると通知領域に [TOSHIBA RAID] アイコン () が表示されます。アイコンから設定変更を行うこともできます。
- 次のように、アプリケーションによっては、正常に動作しない場合があります。
 - ・ ディスクコントローラに直接アクセスして、ハードディスクドライブの読み書きを行うアプリケーション
 - ・ Linux などの OS で起動して、ハードディスクドライブにアクセスするアプリケーション などなお、BIOS インタフェースまたは Windows の RAID ドライバを使用せずにディスクに書き込み操作を行った場合、それ以降、正常に動作しない可能性があります。

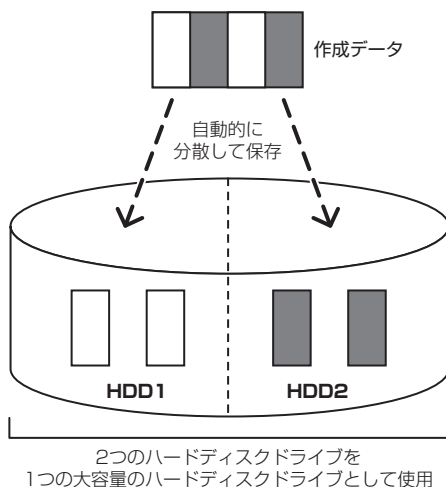
【購入時の状態】

購入時は RAID 機能は設定されていません。2台のハードディスクドライブはそれぞれ独立しており、作成したデータの保存先は、ユーザが指定します。



【 RAID-0 (ストライピング) 】

RAID-0 では、データを一定の単位で分割し、複数 (本製品の場合 2台) のハードディスクドライブに分散して読み書きを行います。データを分割処理することから、ストライピングと呼ばれます。ハードディスクドライブは1台の大きなドライブとして扱われ、並列的に処理が行われるので、読み書きの性能が向上します。

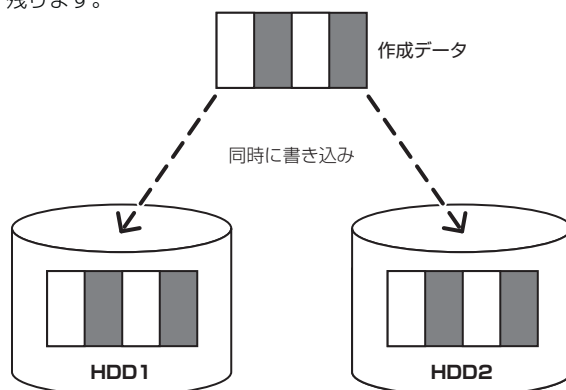


RAID-0 にはデータの保護機能はありませんので、2台のハードディスクドライブのうち1台でもハードディスクドライブが故障すると、2台のハードディスクドライブ上のすべてのデータは使用できなくなります。詳しくは、『東芝 RAID のヘルプ』を参照してください。

参照 「本節 ②-2- ヘルプの起動方法」

【 RAID-1 (ミラーリング) 】

RAID-1 では、1つのデータを複数 (本製品の場合 2台) のハードディスクドライブに同時に書き込みます。鏡のようにデータが複写されることから、ミラーリングと呼ばれます。どちらかのハードディスクドライブが壊れても、もう一方の壊れていないハードディスクドライブにデータが残ります。



「東芝 RAID」では、ハードディスクドライブの状態を定期的にチェックし、障害発生時にはメッセージやアイコンでお知らせします。障害が発生したハードディスクドライブを交換すれば、壊れていなかったほうのハードディスクドライブに保存されているデータを簡単に新しいハードディスクドライブにコピーすることができます。データを安全に管理することに役立ちます。

RAID-1 に設定すると、使用できるハードディスク容量は HDD1 の容量分となります。

メモ

- 購入時の状態から RAID-1 (ミラーリング) 構成にすると、HDD2 のデータは消去されます。
- 購入時の状態から RAID-1 (ミラーリング) 構成にするには、HDD1 のデータをすべて HDD2 にコピーする必要があります。このため、RAID-1 (ミラーリング) 構成に変更するには時間がかかりますが、その間もアプリケーションを通常と同じように使用できます。また、電源オフ、スタンバイまたは休止状態になった場合でも、復帰したときに、電源を切った部分から引き続き RAID-1 (ミラーリング) 構成への変更を行います。
- RAID-1 (ミラーリング) を実行しているハードディスクドライブを他のパソコン上では使用しないでください。
- 保守、修理などでハードディスクドライブを交換した場合、RAID-1 (ミラーリング) を再構成してください。RAID-1 (ミラーリング) の再構成の方法について詳しくは、『東芝 RAID のヘルプ』を参照してください。

参照 東芝 RAID のヘルプの起動方法

「本節 ②-2- ヘルプの起動方法」

- RAID-1 (ミラーリング) のより安定した運用と、ハードディスクドライブの故障に対する保守対応を容易にするためにメディアチェックを定期的に行われることをおすすめします。
データの信頼性を持つ RAID-1 (ミラーリング) の場合、ハードディスクドライブの故障が発生し、そのハードディスクドライブを交換すると、故障していないほかのハードディスクドライブのデータをもとに、データの再構築を行います。
しかし、故障していないほかのハードディスクドライブの中に不良ブロックなどが存在すると、その部分のデータの消失や、システムダウンとなる可能性があります。このような状況をできるだけ回避するためには、RAID-1 (ミラーリング) のメディアチェックを定期的に行うことが、効果的です。
「東芝 RAID」では、毎月第3水曜日正午からメディアチェックを実行するように初期設定されています。

お願い 「東芝 RAID」の使用にあたって

- RAID-1 (ミラーリング) を構成していても、ハードディスクが2台とも故障してしまった場合は、データが消失します。そのため、データは定期的に外部記憶メディアにバックアップをとっておいてください。
- ご購入時の状態から RAID-0 (ストライピング) 構成に変更するには、パソコンのリカバリ (システムの復元) が必要となります。
- RAID-0 (ストライピング) 構成の場合、Windows から見える容量は、RAID を構成する2台のハードディスクドライブの合計した容量となります。例えば40GBのハードディスクドライブ2台で RAID-0 (ストライピング) を構成した場合は、Windows からは80GB / 1台のハードディスクとして見えます。ただし、QosmioPlayer が導入されている場合は、QosmioPlayer で使用している容量分、少なくなります。

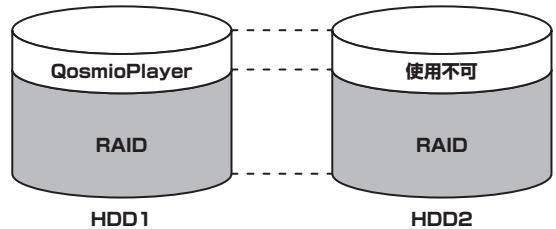
- RAID-0 (ストライピング) 構成の場合、2台のハードディスクドライブのうち、1台でもハードディスクドライブが故障すると、2台のハードディスクドライブ上のすべてのデータは使用できなくなります。
- BIOS セットアップで RAID 構成を変更すると、ハードディスクドライブのデータがすべて消去されますので、十分に注意してください。

参照 RAID 構成の変更

「本章 3-③-14 RAID ARRAY」

お願い QosmioPlayer と「東芝 RAID」について

- ご購入時の状態では、HDD1 に QosmioPlayer のための領域があります。QosmioPlayer 領域は、RAID-1 (ミラーリング)、RAID-0 (ストライピング) とともに構成することはできません。HDD1 のうち、RAID-1 (ミラーリング)、RAID-0 (ストライピング) を構成できるのは、QosmioPlayer 領域以外の領域になります。また、RAID-1 (ミラーリング)、RAID-0 (ストライピング) を構成する場合、HDD1 と HDD2 は同じ容量でなければならないため、HDD2 で RAID 構成に使用できる容量は、HDD1 と同じになります。



参照 QosmioPlayer について

『オーディオ & ビジュアルガイド』

QosmioPlayer の録画領域を削除すると、RAID 構成に使用できる容量を増やすことができます。

参照 録画領域の削除 『オーディオ & ビジュアルガイド』

付録 5 QosmioPlayer の再インストール」

- QosmioPlayer は、RAID 構成にはなりません。RAID-1 (ミラーリング) 構成にしても、HDD1 が動作しなくなった場合は、QosmioPlayer は動作しなくなります。また、QosmioPlayer の録画データも消失します。
- ハードディスクドライブの1台が故障した状態のまま、QosmioPlayer の再インストールは行わないでください。

お願い 内蔵ハードディスクドライブが壊れてしまったとき

- RAID-1 (ミラーリング) を構成しているときに、内蔵ハードディスクドライブ (HDD1、HDD2) が壊れてしまった場合は、警告音を鳴らし、メッセージを表示してお知らせします。
保守サービスに依頼して、内蔵ハードディスクドライブを交換してください。

② 東芝 RAID を使う設定をする

ここでは、購入時の状態から RAID-0 (ストライピング)、RAID-1 (ミラーリング) を設定する方法について説明します。それぞれ 2 とおりの設定があります。

【 RAID-0 (ストライピング) を設定する 】

RAID-0 (ストライピング) は 2 台のハードディスクドライブを 1 台のドライブとして扱う機能のため、ハードディスクドライブの構成を購入時の状態から変更します。

① リカバリディスクからリカバリして、設定する

参照 「本項 1

リカバリディスクから RAID 機能を設定する」

② BIOS セットアップで設定する

参照 「本章 3-③-14 RAID ARRAY」

【 RAID-1 (ミラーリング) を設定する 】

① 東芝 RAID コンソールで設定する

参照 「本項 2 東芝 RAID コンソールの起動方法」

② リカバリディスクからリカバリして、設定する

参照 「本項 1

リカバリディスクから RAID 機能を設定する」

1 リカバリディスクから RAID 機能を設定する

リカバリディスクを使って、RAID 機能を設定できます。あらかじめリカバリディスクを作成してください。

参照 リカバリディスクの作成 『セットアップガイド 4 章 4 リカバリディスクを作る』

お願い

- リカバリディスクを使って、RAID 機能を設定すると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめ外部記憶メディアにバックアップをとって保存してください。

参照 バックアップについて

『セットアップガイド 4 章 1 バックアップをとる』

1 AC アダプタと電源コードを接続する

2 リカバリディスクをセットして、パソコンの電源を切る

リカバリディスクが複数枚ある場合は、「ディスク 1」をセットしてください。

3 キーボードの(F12)キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

ユーザパスワードを設定している場合は、「Password=」と表示されます。ユーザパスワードを入力して(ENTER)キーを押してください。

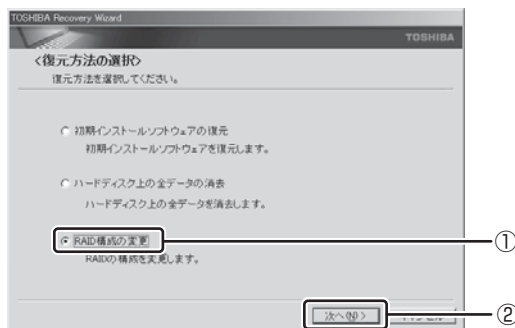
4 (→)または(←)キーで CD のアイコン () にカーソルを合わせ、(ENTER)キーを押す

メッセージが表示されます。

5 画面の内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

[復元方法の選択] 画面が表示されます。

6 [RAID 構成の変更] をクリックし①、[次へ] ボタンをクリックする②



● 「RAID 構成の変更」

RAID 機能を設定します。

ハードディスク内の作成したデータや設定は消去されます。



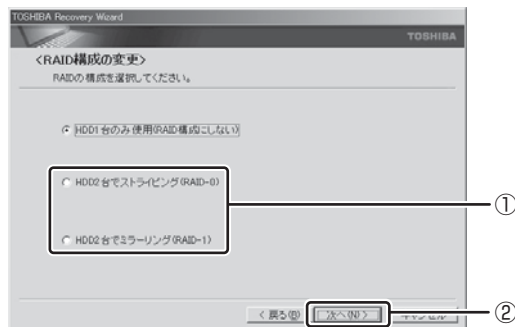
メモ

- 「初期インストールソフトウェアの復元」はリカバリする場合に、「ハードディスク上の全データの消去」はハードディスク上の全データを消去する場合に使用します。

参照 リカバリ 『セットアップガイド 5 章 2-④ リカバリディスクからリカバリをする』

参照 ハードディスクの消去 『セットアップガイド 6 章 5-②-5 ハードディスクの内容をすべて消去する』

7 実行したい RAID 機能をクリックし①、[次へ] ボタンをクリックする②



メモ

- すでに設定してある RAID 機能を解除する場合は、「HDD 1 台のみ使用 (RAID 構成にしない)」を選択してください。

解除後にパソコンが再起動し、「復元方法の選択」画面が表示されます。ハードディスクはシステムやデータが消去された状態になるため、リカバリディスクからリカバリを行います。

手順 10 に進んでください。

RAID 機能を設定する場合は、「HDD 2 台でストライピング (RAID-0)」または「HDD 2 台でミラーリング (RAID-1)」を選択してください。

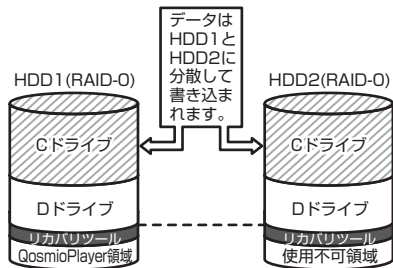
それぞれの動作は、次のようになります。

- * ストライピング (RAID-0) の場合は、最大ハードディスク 2 台分 (「QosmioPlayer」とシステム復元ツールをのぞく) の容量を使えますが、ミラーリングの場合はデータが複製されるため 1 台分 (「QosmioPlayer」とシステム復元ツールをのぞく) の容量となります。

● 「HDD 2 台でストライピング (RAID-0)」

- * ストライピング (RAID-0) は、2 台のハードディスクをまとめて 1 台のドライブとして扱う機能です。

ハードディスク 2 台を RAID-0 (ストライピング) に設定します。



(設定例)

- * C ドライブの容量を最大ハードディスクドライブ 2 台分 (「QosmioPlayer」とシステム復元ツールの容量をのぞく) にすることができます。「QosmioPlayer」は、RAID 機能の対象にならないため、片方のハードディスクには書き込まれません。

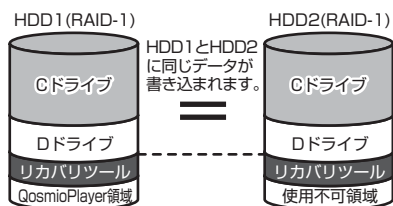
「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

手順 8 に進んでください。

● 「HDD 2 台でミラーリング (RAID-1)」

- * ミラーリング (RAID-1) は、2 台のハードディスクに対して、同時に同じデータを書き込む機能です。

ハードディスク 2 台を RAID-1 (ミラーリング) に設定します。



(設定例)

- * C ドライブの容量は最大 1 台分 (「QosmioPlayer」とシステム復元ツールの容量をのぞく) になりますが、ハードディスクが片方壊れた場合、残ったハードディスクが正常であればパソコン本体は機能します。「QosmioPlayer」は、RAID 機能の対象にならないため、片方のハードディスクには書き込まれません。

「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

手順 8 に進んでください。

8 [次へ] ボタンをクリックする

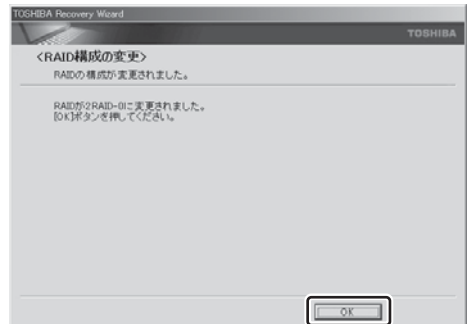
処理を中止する場合は、「キャンセル」ボタンをクリックしてください。



RAID 機能の設定が変更されます。

9 [OK] ボタンをクリックする

- 「HDD 2 台でストライピング (RAID-0)」を選択した場合



- 「HDD 2 台でミラーリング (RAID-1)」を選択した場合

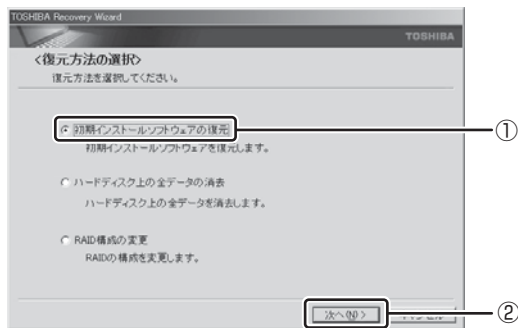


RAID 機能が設定されました。

パソコンが再起動し、「復元方法の選択」画面が再度表示されます。

続けて、リカバリディスクからリカバリを行います。

10 [初期インストールソフトウェアの復元] をチェックし①、[次へ] ボタンをクリックする②



RAID 機能が設定されたハードディスク 2 台のリカバリを行います。

参照 ハードディスクの状態について
『セットアップガイド 5 章 2-③-2

RAID 機能を設定した状態でリカバリをするとき』

[復元する構成を選択してください。] 画面が表示されます。

以降の操作方法については、『セットアップガイド 5 章 2-③-1 購入時の状態でリカバリをするとき』の手順 7～11 を参照してください。

ストライピング (RAID-0) に設定した場合は、ハードディスク 2 台を 1 台のドライブとしてリカバリします。

ミラーリング (RAID-1) に設定した場合は、1 台目のハードディスク (HDD1) にリカバリした内容がそのまま 2 台目のハードディスク (HDD2) にも書き込まれます。

メモ

- Windows のセットアップ後、パソコンの診断／環境設定が自動的に行われ、続けて「dynabook ランチャー」のセットアップ、アプリケーションをインストールするための画面が表示されます。メッセージに従って操作してください。

参照 詳細について『セットアップガイド 5 章 3 リカバリをしたあとは』

- 一部のアプリケーションは、システム復元後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

参照 詳細について『セットアップガイド 5 章 3-② アプリケーションを再インストールする』

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続

「3 章 周辺機器を使って機能を広げよう」

2 東芝 RAID コンソールの起動方法

「東芝 RAID コンソール」を使って、RAID 構成や状態を確認することができます。購入時の状態から RAID-1 (ミラーリング) を設定するには、[東芝 RAID コンソール] 画面から設定ができます。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [RAID] → [RAID コンソール] をクリックする

ヘルプの起動方法

「東芝 RAID」の操作方法については、ヘルプを参照してください。東芝 RAID の使用方法や目的別使用方法 (ストライピング、ミラーリングの設定、構成変更、解除など) についても説明しています。

1 「東芝 RAID コンソール」を起動し、[ヘルプ] ボタンをクリックする

3

BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定



メモ BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力」、「デバイスマネージャ」などで行ってください。BIOS セットアップと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリー（時計用バッテリー）が消耗した場合は標準設定値に戻ります。

① 起動と終了 / BIOS セットアップの操作

1 起動

1 (ESC)キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、登録したユーザパスワードを入力し、(ENTER)キーを押してください。

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 (F1)キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 (FN)+(→)キーを押す

本製品では、(FN)+(→)キーが(END)キーの機能を持ちます。

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y)キーを押す

設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。

変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 (ESC)キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y)キーを押す

BIOS セットアップが終了します。

3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	(↑)、(↓)、(←)、(→) 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	(SPACE) または (BACKSPACE)
画面を切り替える	(FN)+(↓) または (FN)+(↑) 本製品では、(FN)+(↓) が (PGDN)キー、(FN)+(↑) が (PGUP)キーの機能を持ちます。
設定内容を標準値にする	(FN)+(←) 本製品では、(FN)+(←) が (HOME)キーの機能を持ちます。次の項目は、この操作しても変更されません。 <ul style="list-style-type: none">● SYSTEM DATE/TIME● PASSWORD● Core Multi-Processing● Execute-Disable Bit Capability● RAID ARRAY

② BIOS セットアップの画面

BIOS セットアップには次の3つの画面があります。

SYSTEM SETUP (1/3) ACPI BIOS version = X.XX

[1] Total = XXXXMB

[2] SYSTEM DATE/TIME
Date (MM-DD-YYYY) = XX-XX-XXXX
Time (HH:MM:SS) = XX:XX:XX

[3] BATTERY
Battery Save Mode = Full Power
PCI Express Link ASPM = Auto
Enhanced C-States = Enabled

[4] PASSWORD
Not Registered

[5] BOOT PRIORITY
Boot Priority = HDD - FDD - CD-ROM - LAN
HDD Priority = Built in HDD1 - Built in HDD2

[6] OTHERS
Core Multi-Processing = Enabled
Dynamic CPU Frequency Mode = Dynamically Switchable
Execute-Disable Bit Capability = Not Available
Virtualization Technology = Disabled
Auto Power On = Disabled
Start Up Logo = Animation
Sound Logo = Enabled
Diagnostic Mode = Disabled

*1 一部のモデルでのみ表示されます。

SYSTEM SETUP (2/3) ACPI BIOS version = X.XX

[7] CONFIGURATION
Device Config. = Startup/OS

[8] DRIVES I/O
Built-in HDD1 = Serial ATA Port0
Built-in HDD2 = Serial ATA Port2
CD-ROM = Primary IDE(1FGH/IRQ14)

[9] PCI BUS
PCI BUS = IRQ10, IRQ11

[10] DISPLAY
Power On Display = Auto-Selected
LCD Display Stretch = Enabled
TV Type = NTSC(JAPAN)

[11] PERIPHERAL
Internal Pointing Device = Enabled

[12] LEGACY EMULATION
USB KB/Mouse Legacy Emulation = Enabled
USB-FDD Legacy Emulation = Enabled

[13] PCI LAN
Built-in LAN = Enabled

SYSTEM SETUP (3/3) ACPI BIOS version = X.XX

[14] RAID ARRAY
Current State
Built-in HDD1 = 1RAID-0
Built-in HDD2 = JBOD
Create State
Built-in HDD1 = 1RAID-0
Built-in HDD2 = JBOD

Level	Status	Capacity
LD0	1RAID-0	OPTIMAL XXGB
LD1	JBOD	OPTIMAL XXGB

Drive	Assign	Status	Size	Model	Rev
Built-in1	LD0-0	ONLINE	XXGB	XXXXXXXX	XXXXXXXXXX
Built-in2	LD1-0	ONLINE	XXGB	XXXXXXXX	XXXXXXXXXX

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

③ 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません(参照のみ)。ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY

【Total】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIME

日付と時刻の設定は(SPACE) または (BACKSPACE) キーで行います。

月と日と年、時と分と秒の切り替えは、(↑)(↓)キーで行います。

【Date】

日付を設定します。

【Time】

時刻を設定します。

3 BATTERY

【Battery Save Mode】

バッテリーセーブモードを設定します。「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power (標準値)

Processing Speed = High
CPU Sleep Mode = Enabled
LCD Brightness = Bright *1
= Super-Bright *2
Cooling Method = Maximum Performance

●Low Power

Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
LCD Brightness = Semi-Bright *1
= Bright *2
Cooling Method = Battery Optimized

●User Setting (設定例)

Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method = Battery Optimized

(注) LCD Brightness (LCD 輝度) の表示は次の状態で変わります。

- *1 バッテリー駆動時
- *2 ACアダプタ接続時

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、(↑)(↓)キーを押して選択項目を「Processing Speed」または「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

- **Processing Speed**
処理速度を設定します。使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。
 - ・ High 処理速度を高速に設定する
 - ・ Low 処理速度を低速に設定する
- **CPU Sleep Mode**
CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。
 - ・ Enabled 電力消費を低減する
 - ・ Disabled 電力消費を低減しない
- **LCD Brightness (LCD 輝度)**
画面の明るさを選択します。
 - ・ Semi-Bright 低輝度に設定する
 - ・ Super-Bright 最高輝度に設定する
 - ・ Bright 高輝度に設定する
- **Cooling Method (CPU 熱制御方式)**
CPUの熱を冷ます方式を選択します。CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。
 - ・ Maximum Performance
..... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却します。
 - ・ Performance
..... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、[Maximum Performance] と [Battery Optimized] の中間的な方法で冷却します。
 - ・ Battery Optimized
..... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にCPUの処理速度を落として冷却します。[Performance] より消費電力は少なくなります。

【PCI Express Link ASPM】

PCI Expressの省電力機能を設定します。

- ・ Auto (標準値) バッテリー動作中かつPCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。
- ・ Disabled 省電力機能を無効にし、パフォーマンスを優先させます。
- ・ Enabled PCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。

【Enhanced C-States】

Enhanced C-Statesでは、電力消費の低減を設定します。

- ・ Enabled (標準値) 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない

4 PASSWORD

ユーザパスワードの登録や削除は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。

参照 東芝パスワードユーティリティでのパスワード設定
《おたすけナビ (検索) : ユーザパスワード》

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度登録を行ってください。

【Not Registered】

ユーザパスワードが登録されていないときに表示されます(標準値)。

【Registered】

ユーザパスワードが登録されているときに表示されます。

■ ユーザパスワードの登録 ■

1 BIOS セットアップを起動する

2 「PASSWORD」の「Not Registered」を選び、(SPACE)または(BACKSPACE)キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。ユーザパスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、ユーザパスワードを削除してから、登録してください。

参照 ユーザパスワードの削除方法

「本項 4- ユーザパスワードの削除」

3 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力できます。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。パスワードは1文字ごとに*が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 (ENTER)キーを押す

1回目のパスワードが確認され、「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

5 もう1度パスワードを入力する

パスワードは手順3と同じパスワードを入力してください。

6 (ENTER)キーを押す

パスワードが登録され、「Verify Password」が「Registered」に変わって表示されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

7 ユーザパスワードの登録が終了したら、(FN)+(→)キーを押す

本製品では、(FN)+(→)キーが(END)キーの機能を持ちます。次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)
The changes you made will cause the system to reboot.

8 **(Y)キーを押す**

パスワードが登録されます。
BIOS セットアップの画面に戻るには**(N)**キーを押します。

■ ユーザパスワードの削除 ■

「東芝パスワードユーティリティ」からの削除については「おたすけナビ (検索) : ユーザパスワード」を確認してください。

1 BIOS セットアップを起動する**2** 「PASSWORD」の「Registered」を選び、**(SPACE)**または**(BACKSPACE)**キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 **(ENTER)**キーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 **(ENTER)**キーを押す

ここでは何も入力しません。
「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 **(ENTER)**キーを押す

ここでは何も入力しません。
パスワードが削除され、「Verify Password」が「Not Registered」に変わって表示されます。手順3で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ピーブ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

■ ユーザパスワードを忘れてしまったとき ■

「東芝パスワードユーティリティ」でパスワードファイルを外部記憶メディアに保存した場合は、他のパソコンの「メモ帳」などでパスワードファイルを開き、確認したパスワードを入力してください。パスワードファイルを外部記憶メディアに保存しなかった場合にユーザパスワードを忘れてしまったときは、近くの保守サービスに相談してください。ユーザパスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

■ ユーザパスワードの変更 ■**1** BIOS セットアップを起動する**2** 「Password」の「Registered」を選び、**(SPACE)**または**(BACKSPACE)**キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 **(ENTER)**キーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 新しいパスワードを入力し、**(ENTER)**キーを押す

「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 手順5で入力したパスワードをもう1度入力し、**(ENTER)**キーを押す

パスワードが変更され、「Verify Password」が「Registered」に変わって表示されます。
手順5と手順6で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順5からやり直してください。

5 BOOT PRIORITY**【 Boot Priority 】**

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN (標準値)
 - ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
 - ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
 - ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
 - ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
 - ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD
- 指定のドライブ
順に起動する

QosmioPlayer 機能を使用して起動するとHDDが最優先されます。

【 HDD Priority 】

システムを起動するハードディスクドライブの順番を設定します。

- ・ Built in HDD1 → Built in HDD2 (標準値)
- ・ Built in HDD2 → Built in HDD1

6 OTHERS**【 Core Multi-Processing 】**

Core Multi-Processing では、CPUの動作モードを設定します。

- ・ Enabled (標準値) Dual Core モードに設定する
- ・ Disabled Single Core モードに設定する

【 Dynamic CPU Frequency Mode 】

- ・ Dynamically Switchable (標準値)
 - CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替えます。
- ・ Always High
 - CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を高周波数にしてパソコンの処理能力を優先します。
- ・ Always Low
 - CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を低い周波数にしてパソコンのバッテリー駆動時間を優先します。

【 Execute-Disable Bit Capability 】

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能を有効にするかどうかを設定します。

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、コンピュータウイルスや不正アクセスによるバッファ・オーバーフロー攻撃からパソコンを守るために、セキュリティを強化する機能です。

- ・ Available 有効にする
- ・ Not Available (標準値) 無効にする

【 Virtualization Technology 】

* 一部のモデルでのみ表示されます。

CPUに実装されたIntel Virtualization Technologyの許可/禁止を設定します。Intel Virtualization Technologyとは、1台のマシンを複数の仮想マシンとして動作させる技術です。

- ・ Disabled Intel Virtualization Technologyを禁止に設定する
- ・ Enabled (標準値) Intel Virtualization Technologyを許可に設定する

【 Auto Power On 】

自動的にシステムの電源を入れる機能の設定状態を示します。

- ・ Disabled (標準値) Auto Power On機能が設定されていない
- ・ Enabled Auto Power On機能が設定されている

「Alarm Time」と「Alarm Date Option」の機能によって、自動的に電源が入った後は設定が解除されます。Windows XPを使用している場合は「Alarm Time」と「Alarm Date Option」の設定は無効になります。Windowsのタスクスケジューラを使用してください。

Auto Power On機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。アラームの時刻の設定は(SPACE)または(BACKSPACE)キーで行います。時と分、月と日の切り替えは、(↑)(↓)キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- ・ Disabled 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- ・ Disabled 月日を設定しない

● Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

[13] 「PCI LAN」の「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。

Wake up on LAN機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。電源を切っている状態でも、バッテリーを使っていないときの充電保持時間が別紙の『dynabook Qosmio G30/7 シリーズ製品仕様表』の表記よりも短くなります。

- ・ Enabled Wake up on LAN機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) Wake up on LAN機能を使用しない

パスワードセキュリティで設定したパスワードと休止状態が設定してある状態で、Auto Power On機能を設定してシステムを起動させた場合、「Password=」と表示されます。パスワードセキュリティで設定したパスワードを入力すると、休止状態からWindowsに復帰します。

参照

パスワードセキュリティの設定

「本章 1 システム環境の変更とは」

【 Start Up Logo 】

起動時に表示される「Qosmio」ロゴについて設定します。

- ・ Animation (標準値) アニメーションロゴが表示される
- ・ Picture ピクチャ(静止画)ロゴが表示される

QosmioPlayer機能を使用して起動するとピクチャ(静止画)ロゴが表示されます。

【 Sound Logo 】

パソコンを起動したときに音を鳴らすかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) 音を鳴らす
- ・ Disabled 音を鳴らさない

QosmioPlayer機能を使用して起動すると音は鳴りません。

【 Diagnostic Mode 】

BIOSのハードウェア診断テスト機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Disabled (標準値) ハードウェア診断テスト機能を無効にする
- ・ Enabled ハードウェア診断テスト機能を有効にする

7 CONFIGURATION

【 Device Config. 】

ブート時にBIOSが初期化する装置を指定します。

- ・ Setup by OS (標準値) OSをロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置はOSが初期化します。
- ・ All Devices すべての装置を初期化する

ブレインストールされているOSを使用する場合は、「Setup by OS」(標準値)を選択することを推奨します。

8 DRIVES I/O**【 Built-in HDD1 】**

本製品のハードディスク (HDD1) の設定を表示します。変更はできません。

【 Built-in HDD2 】

本製品のハードディスク (HDD2) の設定を表示します。変更はできません。

【 CD-ROM 】

ドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

内蔵されているドライブが CD-ROM ドライブではない場合も、すべて「CD-ROM」と表示されます。

9 PCI BUS

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

10 DISPLAY**【 Power On Display 】**

起動時の Windows ロゴを表示する表示装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値)
 - システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは本体液晶ディスプレイだけに表示する
- ・ LCD + Analog RGB
 - 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する

SVGA モードに対応していない外部ディスプレイを接続して、「LCD + Analog RGB」を選択した場合、外部ディスプレイには画面が表示されません。

Windows 起動後は、前回電源を切る前に複数の表示装置で表示していて、起動時に前回接続していた表示装置が存在すればその表示装置に表示されます。

前回電源を切る前に接続していた表示装置が存在しない場合は、BIOS セットアップの「Power On Display」に従って表示されます (外部ディスプレイが接続されていない場合は「Power On Display」の設定に関わらず本体液晶ディスプレイのみに表示されます)。

QosmioPlayer 機能を使用して起動すると本体液晶ディスプレイにのみ表示されます。

【 LCD Display Stretch 】

本体液晶ディスプレイの解像度の伸張を選択します。

- ・ Enabled (標準値) 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
- ・ Disabled 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

【 TV Type 】

テレビ受信機を選択します。

- ・ NTSC (JAPAN) (標準値) 日本仕様の TV 受信機
- ・ PAL (S-Video) ヨーロッパ仕様の TV 受信機
- ・ 525p (480p,D2) *
- ・ 750p (720p,D4) *
- ・ 1125i (1080i,D3) *
- ・ 525i (480i,D1) *
- ・ NTSC (US) 米国仕様の TV 受信機

* D 映像出力端子モデルのみ

11 PERIPHERAL**【 Internal Pointing Device 】**

タッチパッドを使用する／使用しないを設定します。

- ・ Enabled (標準値) 使用する
- ・ Disabled 使用しない

12 LEGACY EMULATION**【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】**

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) レガシーサポートを行うドライバなしで USB キーボード／USB マウスが使用できます。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Legacy Emulation 】

- ・ Enabled (標準値) レガシーサポートを行うドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

「USB-FDD Legacy Emulation」が「Enabled」に設定されていても、[5]「BOOT PRIORITY」の「Boot Priority」が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

13 PCI LAN**【 Built-in LAN 】**

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Enabled (標準値) 有効にする
- ・ Disabled 無効にする

14 RAID ARRAY

RAID 構成の設定を行います。

【Current State】

現在のハードディスクドライブの状態を示します。

- Built-in HDD1
HDD1 の RAID レベルを表示します。
- Built-in HDD2
HDD2 の RAID レベルを表示します。

表示される RAID レベルは、次のいずれかです。

- ・ Enabled 有効にする
- ・ JBOD (「Built-in HDD2」の標準値)
..... RAID 情報をもたない、一般的に使われているハードディスクを示す
このハードディスクに Windows をインストールすることはできません (リカバリディスクを使用してインストールする場合を除く)。
- ・ 1RAID-0 (「Built-in HDD1」の標準値)
..... RAID 情報をもつが、RAID 構成されていないハードディスクを示す
このハードディスクに Windows をインストールすることができます。
- ・ 2RAID-0 ハードディスク 2 台で RAID-0 (ストライピング) を構成する
- ・ RAID-1 ハードディスク 2 台で RAID-1 (ミラーリング) を構成する
- ・ UNKNOWN.... JBOD、1RAID-0、2RAID-0、RAID-1 以外の RAID の状態
「Create State」で「JBOD」を選択し、RAID 用のハードディスクとして使用しないように変更できます。
- ・ No Drive ハードディスクが接続されていない状態

【Create State】

RAID レベルを設定します。

お願い

- BIOS セットアップで RAID 構成の設定を変更すると、ハードディスクドライブのデータがすべて消去されますので十分に注意してください。
このため、RAID 構成の設定を第三者に変更されないように、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを登録することをおすすめします。
またスーパーバイザパスワードを登録して、管理者権限を持たないユーザは BIOS セットアップの設定を変更できないように制限を加えることもできます。

参照 ▶ パスワードの設定

- 《おたすけナビ (検索) : ユーザパスワード》
- 《おたすけナビ (検索) : スーパーバイザパスワード》

- Built-in HDD1
HDD1 の RAID レベルを設定します。
- Built-in HDD2
HDD2 の RAID レベルを設定します。

「Built-in HDD1」、 「Built-in HDD2」ともに、選択できる RAID レベルは次のとおりです。

- ・ JBOD (「Built-in HDD2」の標準値)
..... RAID 情報をもたない、一般的に使われているハードディスクを示す
このハードディスクに Windows をインストールすることはできません (リカバリディスクを使用してインストールする場合を除く)。
- ・ 1RAID-0 (「Built-in HDD1」の標準値)
..... RAID 情報をもつが、RAID 構成されていないハードディスクを示す
このハードディスクに Windows をインストールすることができます。
- ・ 2RAID-0
..... ハードディスク 2 台で RAID-0 (ストライピング) を構成する

(FN)+(←)キーを押すと、「Current State」と同内容に戻ります。

(FN)+(←)キーを押した場合、BIOS セットアップのすべての設定内容 (「PASSWORD」、 「SYSTEM DATE/TIME」、 「Execute-Disable Bit Capability」を除く) が標準値になります。

【Execute Creation】

「Create State」で設定を変更した場合のみ、表示されます。「Create State」で変更した内容を実行します。

- ①「Execute Creation」を選び、(SPACE)または(BACKSPACE)キーを押す
画面下部に「Warning: If you change RAID array, you need to install OS again. Are you sure? All data on the HDD(s) will be destroyed. Do you really want to do this? If "Yes", please type the key string which is written in manual.」と表示されます。

RAID 構成の設定を変更すると、ハードディスクドライブのデータがすべて消去されますので十分に注意してください。

RAID 構成の設定を変更する場合は、続けて手順②の操作を行ってください。

RAID 構成の設定を変更せず中止する場合は、(ESC)キーを押し、「Create State」を「Current State」と同じ内容に変更してください。

または、(FN)+(←)キーを押すと、RAID 構成の変更が中止され、「Create State」が「Current State」と同じ内容に戻ります。

(FN)+(←)キーを押した場合、BIOS セットアップのすべての設定内容 (「PASSWORD」、 「SYSTEM DATE/TIME」、 「Execute-Disable Bit Capability」を除く) が標準値になります。

- ②「1234」と入力し (①②③④)キーを押す、(ENTER)キーを押す
RAID 構成の変更が反映されます。

6 章

パソコンの動作がおかしいときは

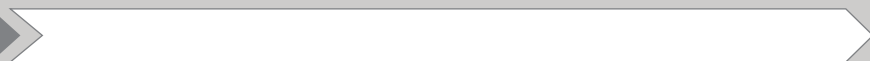


パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。

「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。

トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1	トラブルを解消するまでの流れ	88
2	トラブル解消によく使う操作	95
3	問題の切り分け方法	96
4	Q&A 集	98



1

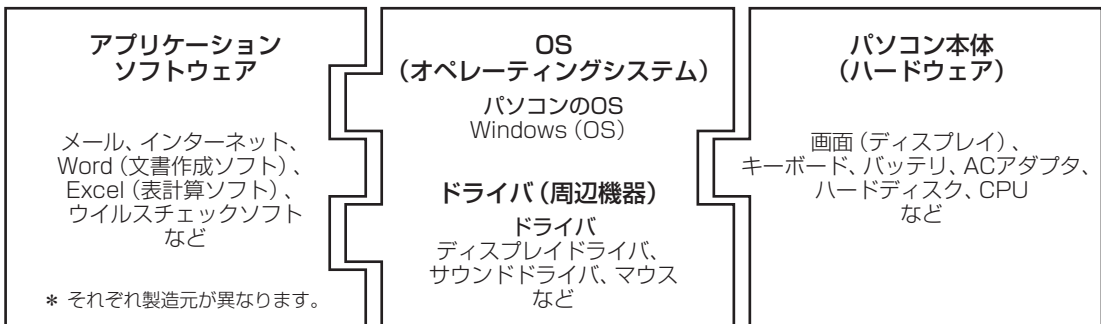
トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

① トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。そのために、パソコンの構造をある程度知っておく必要があります。ここでは、パソコンの構成と、それぞれの構成部分で起こるトラブルの例、その解決方法を紹介します。

【パソコンを構成する3つの部分】



パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状にあわせた対処をすることが解決への早道です。

トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→OS、ドライバ→パソコン本体の順にチェックします。

STEP 1 アプリケーションソフトウェアのチェック

例 1: メールやインターネットが繋がらない

アクセスポイントやメールサーバ、ID、パスワードなどの設定を確認します。これらの設定は契約プロバイダごとに異なります。契約プロバイダから指定された設定データが正しくパソコンの設定に反映されているかを確認してください。

例 2: 使いかたがわからない

同梱されているマニュアルやおたすけナビを読んで、アプリケーションソフトの使いかたを確認します。

次頁Aへ

STEP 2 OS やドライバのチェック

例 3: 正常に画面が表示されない、音が出ない、設定があっているのにインターネットにつながらない

例 4: 青い画面で「STOPOX*****」(一般に「STOP エラー」や「ブルースクリーン」「ブルーパニック」とよばれる画面)が表示された

周辺機器やソフトをインストールしたあとに起こることが多いものです。その前に行った作業を一度元に戻すことでトラブルが解決する場合があります。

次頁Bへ

STEP 3 パソコン本体のチェック

例 5: 電源ランプが点灯せず、パソコンがまったく動かない。ドライバを入れ直しても機器が動かない パソコン本体が動作する場合は、「リカバリ (再セットアップ)」を行ってください。「リカバリ」は、ハードディスクのデータが消えるため、バックアップを行うことをおすすめします。

次頁Cへ

A 各アプリケーションのトラブル解消法／プロバイダへのお問い合わせ

例1：プロバイダへのお問い合わせについて
 お客様ご契約のプロバイダの窓口へお問い合わせください。
 本製品の「簡単インターネット」などから契約できるプロバイダのお問い合わせ先は「7章 問い合わせるときは」を参照してください。

例2：アプリケーションの使いかたについて
 『オーディオ＆ビジュアルガイド』、おたすけナビや、各アプリケーションのヘルプなどをご確認
 いただくか、各アプリケーションのサポート窓口へお問い合わせください。

参照 ▶ 「7章 問い合わせるときは」

B OS、ドライバのトラブル解消法

例3：ドライバの入れ直しについて
 「3章 1-① ドライバをインストールする」を参照してください。

例4：トラブル解消によく使う操作について
 「本章 2 トラブル解消によく使う操作」や「本章 3 問題の切り分け方法」を参照してください。

例4：周辺機器の取りはずしについて
 「3章 周辺機器を使って機能を広げよう」を参照してください。

追加した周辺機器をはずしてみてもどうか、追加したソフトを削除してはどうかなどと試してみてください。



それでもトラブルが解消しない場合には、「東芝 PC あんしんサポート」へお問い合わせください。

参照 ▶ 「本節 ③ 電話で問い合わせる」

C パソコン本体のトラブル解消法

例5：必要なデータのバックアップをとる操作について
 『セットアップガイド 4章 大切なデータを失わないために』を参照してください。

例5：リカバリについて
 『セットアップガイド 5章 買ったときの状態に戻すには』を参照してください。



それでもトラブルが解消しない、あるいはまったくパソコンが動かない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。
 パソコンの操作について、困ったときや修理のご依頼は、「東芝 PC あんしんサポート」へお問い合わせください。

参照 ▶ 「本節 ④ 修理に出す」

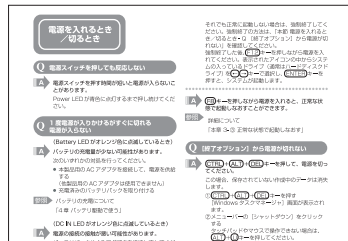
参照 ▶ 「本節 ③ 電話で問い合わせる」

Q&Aや同梱マニュアル、FAQの紹介

パソコンのトラブルの原因は多岐にわたるため、ここですべてを紹介することはできません。それぞれのお問い合わせ先/サポート窓口にご連絡いただく前に、次に紹介する情報をご活用ください。

Q&A形式での説明は、本書、おたすけナビの「困ったときは」「よくあるご質問」にあります。

【「Q&A集」】




よくお問い合わせのあるパソコントラブルの解決方法を、Q&A形式で説明しています。

参照▶「本章 4 Q&A集」

【おたすけナビ】



おたすけナビは、アプリケーションの紹介や知っておくと便利なこと、Q&A形式の「困ったときは」など、さまざまな情報を検索できます。おたすけナビは本製品の電源を入れた状態でデスクトップ上の  をクリックすると起動できます。

【よくあるご質問 dynabook.com サポート情報】



「よくあるご質問」は、「東芝PC あんしんサポート」に特に問い合わせの多い項目をまとめていて、インターネットに接続しなくても見ることができます。次の手順で起動できます。

①本製品の電源を入れた状態でデスクトップ上の



をクリックする

おたすけナビが起動します。

②【よくあるご質問】() をクリックする

「よくあるご質問」が起動します。

【よくあるご質問 FAQ】

インターネットへ接続して、「あなたの dynabook.com」や東芝パソコンのサポート情報ページにある「よくあるご質問 FAQ」で解決方法を検索できます。

参照▶「本節 ② トラブル事例を見てみる」

モジュールのダウンロード

インターネットへ接続して、「あなたの dynabook.com」や東芝パソコンのサポート情報ページからドライバ、BIOS、アプリケーションなどさまざまなモジュールを検索し、ダウンロードすることができます。最新モジュールをインストールすることで、パソコンのトラブルを解決できるケースがあります。

参照▶「本節 ② トラブル事例を見てみる」

② トラブル事例を見てみる

1 「あなたの dynabook.com」を見る

「あなたの dynabook.com」では、ご利用のパソコンの「よくあるご質問 FAQ」、デバイスドライバや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。

ご利用のパソコンに関する情報だけが表示されるので、目的の情報を簡単に探すことができます。また、サポート窓口や修理についても案内しています。

「あなたの dynabook.com」を表示するには、デスクトップ

上の  をクリックすると、説明の画面が表示

されますので、[<http://dynabook.fresheye.com/cgi-bin/login.cgi>] をクリックしてください。

メッセージが表示された場合は、画面に従ってください。

次の方法でも表示できます。

1 【スタート】ボタンをクリックし、【インターネット】をクリックする

Internet Explorer が起動します。

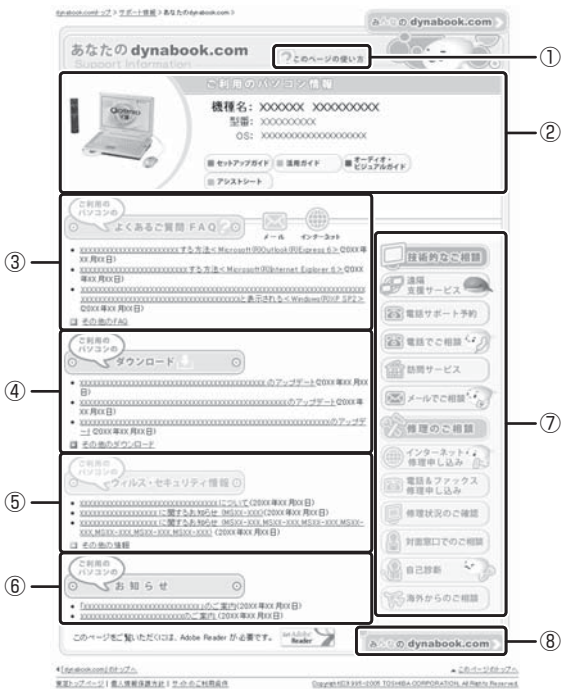
購入時の状態では、起動して最初に「あなたの dynabook.com」が表示されるように設定されています。

参照▶ インターネットの接続について

《できる dynabook 第3章

dynabook をインターネットにつなごう》

*「あなたの dynabook.com」に表示されるボタン・内容は機種によって異なります。
本書に記載している画面は、表示例です。



(表示例)

- ①このページの使い方
クリックすると、「あなたの dynabook.com」の使いかたを紹介したページが表示されます。
- ②ご利用のパソコン情報
ご利用のパソコンの情報やマニュアルなどが表示されます。
- ③よくあるご質問 FAQ
日頃、よく寄せられる質問について、サポートスタッフが図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。タイトルの右にあるカテゴリのアイコンをクリックすると、そのカテゴリに関する FAQ だけを表示できます。
- ④ダウンロード
デバイスドライバや修正モジュールをダウンロードできます。
- ⑤ウイルス・セキュリティ情報
- ⑥お知らせ
- ⑦技術的なご相談 / 修理のご相談
サポート窓口や修理窓口のページにアクセスできます。
- ⑧「みんなの dynabook.com」ボタン
クリックすると、東芝パソコン全体のサポート情報のページが表示されます。

2 東芝パソコンのサポート情報ページを見る

「あなたの dynabook.com」では本製品の「よくあるご質問 FAQ」、デバイスドライバや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。

【パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問 FAQ」】

「よくあるご質問 FAQ」では、日頃、よく寄せられる質問について、サポートスタッフが、図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。



(表示例)

「ご利用のパソコンのよくあるご質問 FAQ」をクリックすると、「カテゴリ (かんたん) 検索」画面が表示されます。カテゴリ (かんたん) 検索では、条件を選択すると解決方法を検索できます。



(表示例)

サポート情報は、最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。

【メールで質問する「東芝PCオンライン」】

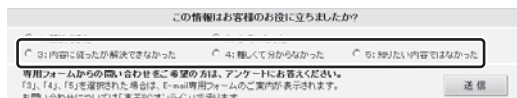
「よくあるご質問 FAQ」を探しても問題が解決できないときは、専用フォームからお問い合わせください。24 時間 365 日いつでも受け付けており、サポート料は無料です。ご利用には「お客様登録」が必要です。事前に登録をしてください。

参照 『セットアップガイド 6 章 1-①

東芝 ID (TID) お客様登録のおすすめ』

1 「よくあるご質問 FAQ」で解消方法を探す

2 「A. 回答・対処方法」の説明の後のアンケートに答える



「3」「4」「5」のいずれかの項目にチェックをつけてください。

3 [送信] ボタンをクリックする

東芝 PC オンラインへのリンク画面が表示されます。

4 「東芝PC オンライン」をクリックする

画面の説明に従って専用フォームからご質問ください。メールにてご回答させていただきます。質問内容、お問い合わせ状況により、回答にお時間をいただく場合がございます。ご了承ください。この他、アプリケーションの取り扱い元では、ホームページに情報を掲載している場合があります。アプリケーションについて知りたいことがあるときは、ホームページを確認するのも良いでしょう。

参照 ホームページアドレスについて
「7章 お問い合わせるときは」

【モジュールのダウンロード】

本製品のデバイスドライバや修正モジュールをダウンロードできます。

[ご利用のパソコンのダウンロード] をクリックすると、[キーワード検索] 画面が表示されます。

キーワード検索では、キーワードや文章を入力すると、モジュールの情報が検索、一覧表示されます。OS をアップグレードしたい場合は、OS にあったモジュールをダウンロードしてください。



-のアップデート②0XX年XX月XX日)
-のアップデート②0XX年XX月XX日)
-のアップデート①②0XX年XX月XX日)
- その他のダウンロード

(表示例)

メモ

- 東芝パソコン全体のサポート情報は、「dynabook.com」の「サポート情報」ページでご覧になれます。
URL : http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm
- 相談窓口やPCのリサイクル、お客様登録については、本章の以降のページや『セットアップガイド 6章』にも詳しく紹介されています。

3 電話で問い合わせる

パソコンの操作について、困ったときは、東芝PC あんしんサポート 技術相談窓口ご連絡してください。技術的な質問、問い合わせに電話で対応します。

全国共通電話番号

0120-97-1048

(通話料・電話サポート料無料)

おかけいただくと、アナウンスが流れます。アナウンスに従って操作してください。

技術的な質問、お問い合わせは、アナウンスの後で①をプッシュしてください。

技術相談窓口 受付時間：9:00～19:00（年中無休）

[電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください]


海外からの電話、携帯電話、PHS、または直回収線など回線契約によってはつながらない場合がございます。その場合はTEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。

●東芝PC 電話サポート予約サービス

19:00～24:00の時間帯に電話サポートをご希望のお客様には、サポートスタッフからご希望の時間帯にお電話を差し上げます。

インターネットから電話サポート予約サービスをご利用ください。(定員制)

電話サポート予約サービスに接続する場合は、インター

ネットに接続してからデスクトップ上の  をクリックしてください。

次のアドレスからも接続できます。

<http://dynabook.com/assistpc/>

本サービスのご利用には「お客様登録」が必要です。

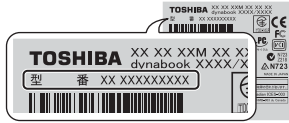
システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。日程は、dynabook.com「サポート情報」→「東芝PC あんしんサポート」(http://dynabook.com/assistpc/anshin/index_j.htm)にてお知らせいたします。

1 トラブルチェックシート

東芝 PC あんしんサポート 技術相談窓口では電話での本製品の技術的な質問、お問い合わせにお答えいたします。円滑に対応させていただくために、次の内容をまとめ、お手元にお使いのパソコンをご用意のうえ、お問い合わせください。

Q.1 使用しているパソコンの型番は？

型番は本体裏面のラベルに記載されています。



Q.2 使用しているソフトウェア環境は？

Windows XP など、使用しているシステムとアプリケーションは？

システムのバージョンや CPU の種類を「東芝 PC 診断ツール」で確認してください。

Q.3 どのような症状が起きましたか？

なるべく具体的にお知らせください。

Q.4 その症状はどのような操作をした後、発生するようになりましたか？

なるべく具体的にお知らせください。

Q.5 エラーメッセージなどは表示されましたか？

表示された場合、表示内容をお知らせください。

Q.6 その症状はどれくらいの頻度で発生しますか？

- 一度発生したが、その後発生しない
- 常に発生する
- 電源を切らないと発生するが、電源を切ってから再起動すれば発生しない
- 電源を切ってから再起動しても必ず発生する
- その他：

Q.7 無線 LAN 使用時

アクセスポイントの製造元と型番：
アクセスポイントの SSID
(ワイヤレスネットワーク名)：

Q.8 インターネットや通信に関する相談の場合

プロバイダ名：
使用モデム名：
使用回線： ブロードバンド
 ダイヤルアップ接続
 ISDN 接続
 携帯電話・PHS 接続

Q.9 周辺機器に関する相談の場合

機器名（製品名）：
メーカー名：

2 遠隔支援サービス

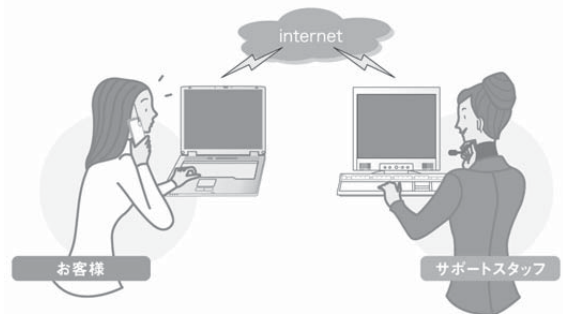
URL：http://dynabook.com/assistpc/remote/index_j.htm

「遠隔支援サービス」は、お客様のパソコン画面をサポートスタッフがインターネット経由で拝見しながら、技術サポートを行うサービスです。実際のパソコン操作は、サポートスタッフからの電話とお客様のパソコンに表示されるマーカの指示に従い、お客様ご自身で行っていただきます。



- 本サービスの利用を希望される場合は、事前に東芝 PC あんしんサポートの技術相談窓口にご相談をお願いします。ご相談されずに本サービスを利用することはできません。
- 画面の画像情報を通信するためにブロードバンド回線（ADSL など）が必要となります。また、電話にてサポートを行うため、インターネットと同時に電話が接続できることも必須となります。
- 本サービスでは、画面情報のみ送信されます。画面に表示されない限り、スタッフがパソコン本体に保存されている情報を見ることはできません。また、本サービスはセキュリティ対策を行っております。情報は暗号化されて送られ、個人情報の漏えいなどのおそれはありません。
- 本サービスでは、お客様のパソコンに操作案内用のマーカを表示するためのデータを送りますが、お客様のパソコンの内部データを書き換えることは一切ありません。
- 本サービスは登録が不要です。同意事項を了承いただくことで、利用できます。本サービスは無償サービス*です。

* インターネットに接続するための費用などは、お客様の負担となります。



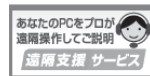
お客様

電話やマーカなどによる案内に従い、お客様ご自身でパソコンを操作していただきます。

サポートスタッフ

お客様のパソコンの画面をサポートスタッフ側で拝見します。その画面を見ながら、的確な操作方法を電話でお伝えします。

「遠隔支援サービス」に接続する場合は、インターネットに接続してからデスクトップ上の



をクリックし、表示された画面の



をクリックしてください。

詳しい接続方法、動作環境なども記載しております。

④ 修理に出す

パソコンの修理のお申し込みは、東芝 PC あんしんサポートの修理相談窓口にご連絡してください。

デスクトップ上の



をクリックすると、東芝

PC あんしんサポートの修理相談窓口の説明画面が表示されますので、そちらでもご確認くださいませ。

修理のお申し込み方法には、次の3つがあります。

お申し込み方法

■インターネット

http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/i_repair.htm

からお申し込みください。

■FAX

「修理依頼シート」（同梱の「東芝 PC サポートのご案内」に記載）に必要な事項を記入のうえ、

FAX 043-278-8137 に送付してください。

* FAX 番号は、おまちがえないよう、お確かめのうえおかけください。

「修理依頼シート」は当センタのホームページ

http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/index_j.htm

からも印刷できます。

■電話

全国共通電話番号

0120-97-1048

（通話料・電話サポート料無料）

おかけいただくと、アナウンスが流れます。アナウンスに従って操作してください。

修理に関するご相談は、アナウンスの後で②をプッシュしてください。

修理相談窓口 受付時間：9:00～22:00
（年末年始 12/31～1/3 を除く）

〔電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください〕

海外からの電話、携帯電話、PHS、または直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。その場合は TEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。

ピックアップサービス

修理の際は、簡単・便利な「ピックアップサービス」をご利用ください。

輸送業者がパソコン輸送専用の梱包箱を持参してご自宅まで伺い、面倒な梱包から引き取り、修理完了後の納品まで行います。

※「保証修理」「有料修理」ともに「ピックアップサービス」料金は「無料」です。

【お申し込みの際、必ずご確認ください】

- 保証期間中に故障した場合、保証書に記載の「保証修理規定」に従い、無料修理をさせていただきます。
- 修理依頼の際は、記憶装置内の内容は保証いたしません。必ずバックアップをお取りください。また、修理にともなうハードディスクの修理・データの初期化（標準出荷状態）の際は、記憶装置内の内容が消去されることをあらかじめご了承ください。
- その他詳細につきましては、当センタのホームページ（http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/index_j.htm）に記載の「修理規約」をご覧ください。
- お客様のプライバシー・個人情報の保護については、「個人情報保護方針」（http://www.toshiba.co.jp/privacy/index_j.htm）をご覧ください。

👁️ 役立つ操作集

東芝 PC あんしんサポートについて

「東芝 PC あんしんサポート」では、下記の電話番号よりご相談を承っております。

全国共通電話番号

0120-97-1048

（通話料・電話サポート料無料）

〔電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください〕

海外からの電話、携帯電話、PHS、または直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。その場合は TEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。

おかけいただくとアナウンスが流れます。アナウンスに従ってご希望の窓口にご該当する番号をプッシュしてください。

- ① 使いかた・購入前のご相談窓口
受付時間：9:00～19:00（年中無休）
- ② 修理に関するご相談窓口
受付時間：9:00～22:00
（年末年始 12/31～1/3 を除く）
- ③ 不足品などのご相談窓口
受付時間：10:00～18:00
（年末年始 12/31～1/3 を除く）

2

トラブル解消によく使う操作

トラブルを解消するために、パソコンの設定を変更する必要がある場合があります。ここでは、パソコンの設定を変更するときによく使う操作を説明します。



メモ コントロールパネルを開くには

- コントロールパネルとは、パソコンのいろいろな設定をまとめたフォルダです。パソコンの設定を変更したいときには、まずコントロールパネルを開き、その中から目的の設定を行うオプション画面を選ぶことがよくあります。コントロールパネルを開くには、[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。[コントロールパネル] 画面には、目的のカテゴリを選択する画面（カテゴリ表示）と、すべてのオプションから選択する画面（クラシック表示）の2種類があります。2つの画面は互いに切り替えることができます。

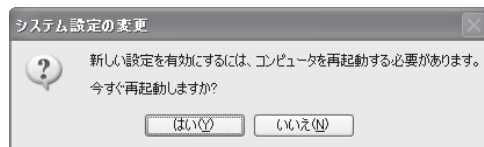
* 本書では、カテゴリを表示しているという前提で、操作の説明をしています。

① パソコンを再起動する

再起動とは、1度パソコン本体の電源を切り、自動的に再び電源を入れることです。設定を変更した後に、設定を有効にするにはパソコンの再起動が必要な場合があります。システムが次に起動したときから設定が適用されます。

1 「再起動しますか?」と表示された場合の方法

設定を変更した後に、次のようなメッセージが表示される場合があります。



1 [はい] ボタンをクリックする

パソコンが再起動します。

2 自分で再起動する方法

1 [スタート] ① → [終了オプション] をクリックする②



2 [再起動] をクリックする



3

問題の切り分け方法

① パソコンの情報を見る／状態を診断する

使用中のパソコンにどのような機能があるか、また調子が悪い場合はどこに問題があるのかを「東芝 PC 診断ツール」で調べることができます。

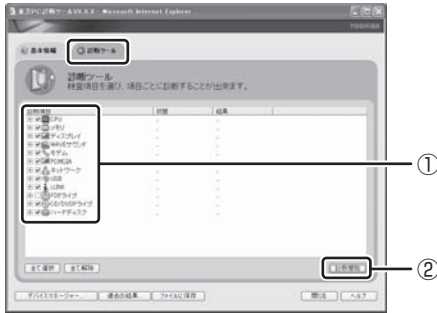
1 起動方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする

「東芝 PC 診断ツール」が起動します。

2 パソコンを診断する

1 [診断ツール] タブで診断する項目をチェックし①、
[診断開始] ボタンをクリックする②



確認のメッセージが表示されます。

2 [はい] ボタンをクリックする

チェックした項目を上から順番に診断します。チェック項目によっては、診断中にメッセージが表示されますので、確かめて [はい] または [いいえ] / [OK] または [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

診断が終了すると、メッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。結果が表示されます。問題があった場合は、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。ヘルプファイルが起動し、主な解決方法が表示されます。

[ハードディスク] を診断すると、フォーマットされていない装置は「問題あり」と表示されます。必要に応じて、フォーマットしてください。

3 診断結果を保存する

診断結果をファイルに保存できます。

1 [ファイルに保存] ボタンをクリックする

2 ファイルの保存場所とファイル名を指定し、[保存] ボタンをクリックする

確認のメッセージが表示されます。

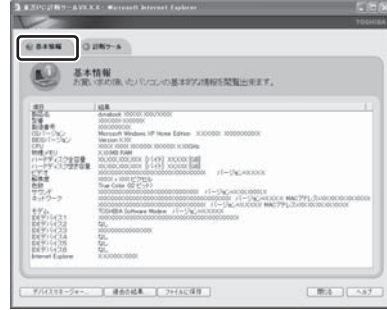
3 [はい] ボタンをクリックする

指定した場所にファイルが保存されます。

4 システムに関する情報を表示する

1 [東芝 PC 診断ツール] 画面で、[基本情報] タブをクリックする

本製品の基本情報が表示されます。



表示される内容は、「東芝 PC 診断ツール」を起動した時点での設定内容です。設定を変更した場合は、パソコン本体を起動しなおすと変更後の設定内容が表示されます。ただし、[CPU] の項目には、搭載されている CPU の最大クロック数（固定値）が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

ヘルプの起動方法

1 「東芝 PC 診断ツール」を起動後、[ヘルプ] ボタンをクリックする

② システム構成ユーティリティを使う

Windows XP の動作が不安定な場合や動きが遅い場合、常駐アプリケーションや不要なサービスが影響を与えている場合があります。

「システム構成ユーティリティ」を使用し、これらのプロセスを停止することで影響の有無を確認することができます。

お願い 操作にあたって

- 表示されるサービスやプログラムの中には、Windows の動作に必要な不可欠なものもあり、停止すると、Windows が正常に機能しなくなる場合があります。操作が不安な場合は東芝 PC あんしんサポートまでお問い合わせください。

システム構成ユーティリティの操作方法

1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする

2 「MSCONFIG」と入力する

3 [OK] ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



4 [診断スタートアップ] を選択し、[OK] ボタンをクリックする

Windows を再起動します。
必要最低限のシステム構成で Windows が起動しますので、動作の確認を行います。
[サービス] タブ、[スタートアップ] タブを開くと、一つ一つのサービスや、プログラムを選択することができます。
チェック (☑) をはずしたプロセスは、次回 Windows 起動時より常駐しなくなります。不要なサービスやプログラムを選択して停止することができます。

③ 正常な状態で起動しなおす

周辺機器のドライバの更新中やシステム (OS) のアップデート中にトラブルが発生した場合、次の手順を行うと、前回正常に起動したときの構成で Windows を起動できます。

1 操作方法

- 1 (F8) キーを押しながら、電源を入れる
- 2 画面に「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されたら、(F8) キーから指をはなす
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されずにオペレーティングシステムの選択画面が表示された場合は、もう 1 度 (F8) キーを押すと、「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
- 3 (↑) または (↓) キーで [前回正常起動時の構成 (正しく動作した最新の設定)] を選択し、(ENTER) キーを押す
- 4 [Microsoft Windows XP Home Edition] が反転していることを確認し、(ENTER) キーを押す
前回正常に起動したときの構成で Windows が起動します。場合によっては、起動までに時間がかかります。

役立つ操作集

回復コンソールについて

Windows XP に重大なエラーが発生して起動できないような場合、回復コンソールを使って起動環境の復元やファイルの救出などを行うことができます。回復コンソールは正常に機能しているときにインストールする必要があります。

詳しい使用法は [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックして、『ヘルプとサポート センター』で「回復コンソール」を検索し、確認してください。

【回復コンソールのインストール】

- ① [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- ② 「C:¥WINDOWS¥I386¥WINNT32.EXE / cmdcons」と入力する
- ③ [OK] ボタンをクリックする
[Windows セットアップ] 画面が表示されます。画面の指示に従ってインストールしてください。「ファイル XXXX... を読み込めなかったため、アップグレードオプションは現在利用できません。...」というメッセージが表示された場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。回復コンソール開始の確認画面が表示されます。
インターネットに接続できない場合は、更新された Windows セットアップをダウンロードすることができませんが、回復コンソールのインストールはそのまま続けることができます。

【回復コンソールの操作方法】

回復コンソールを起動するには、東芝 RAID ドライブディスクが必要になります。あらかじめ、東芝 RAID ドライブディスクを次の手順で作成しておいてください。

- 東芝 RAID ドライブディスク作成手順について
 - ・フォーマット済みのフロッピーディスクを用意する
 - ・別売りの USB フロッピーディスクドライブを接続し、フロッピーディスクをセットする
 - ・Windows のコマンドプロンプトを表示して、次のコマンドを実行する

```
copy "C:¥app&drv¥RAID_Drv" a:¥
```

- ① 別売りの USB フロッピーディスクドライブをパソコンに接続する
- ② 電源スイッチを押す
パソコンを起動したときにオペレーティングシステム一覧が表示されます。
- ③ 「Microsoft Windows XP 回復コンソール」を選択し、(ENTER) キーを押す
- ④ 画面の最下部に「Press F6 Key if you need to install a third party SCSI or RAID driver...」のメッセージが表示されたら、(F6) キーを押す
- ⑤ [Setup could not determine the type of one or more mass storage ...] の画面が表示されたら、東芝 RAID ドライブディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、(S) キーを押す
- ⑥ [Please insert the disk ...] の画面が表示されたら、(ENTER) キーを押す
- ⑦ [TOSHIBA RAID Driver for Windows XP] が選択されている画面が表示されたら、(ENTER) キーを押す
- ⑧ 再度 (ENTER) キーを押す
画面のメッセージに従ってください。
最後に「C:¥Windows」が表示されます。
- ⑨ コマンドを入力する
「C:¥WINDOWS>_」が表示されているときに「help」と入力すると、回復コンソールで入力できるコマンドの一覧が表示されます。
各コマンドの説明については、『ヘルプとサポート センター』でご確認ください。

4

Q&A 集

電源を入れるとき／切るとき 99

- Q 電源スイッチを押しても反応しない 99
- Q 1度電源が入りかけるがすぐに切れる
電源が入らない 99
- Q 電源を入れたが、システムが起動しない 99
- Q 自動的に電源が入ってしまう 99
- Q [終了オプション] から電源が切れない 100
- Q 使用中に突然電源が切れてしまった 100
- Q しばらく操作しないとき、電源が切れる 100
- Q 間違っ て電源を切ってしまった 100
- Q (F12)キーを押しながら電源を入れても、
起動ドライブを変更できない 101

画面／表示 101

- Q 画面に何も表示されない (Power LED が消灯、
またはオレンジ色に点滅している場合) 101
- Q 電源が入っているが、画面に何も表示されない
(Power LED が青色に点灯している場合) ... 101
- Q 画面が暗い 101

キーボード 102

- Q キーを押しても文字が表示されない 102
- Q どのキーを押しても反応しない
設定はあっているが、希望の文字が入力できない ... 102
- Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった 102

タッチパッド／マウス 102

- Q タッチパッドやマウスを動かしても
画面のポインタが動かない (反応しない) 102
- Q 光学式マウスを使用しているとき、画面のポインタ
が正しく動かない (正しく反応しない) 103

CD / DVD / HD DVD 103

- Q CD / DVD / HD DVD にアクセスできない .. 103
- Q メディアアクセスLED、
ディスクトレイLED が消えない 103
- Q CD / DVD / HD DVD が取り出せない 103
- Q DVD-Video をドライブにセットしたときに、
再生するアプリケーションを選択する画面が
表示されない 104

周辺機器 104

- Q 周辺機器を取り付けているときの電源を入れる順番は? ... 104
- Q 増設メモリが認識されない 104

アプリケーション 104

- Q アプリケーションが操作できなくなった 104
- Q BeatJam が起動できない 105

メッセージ 105

- Q 画面に「Password=」と表示された 105
- Q 「パスワードを忘れてしまいましたか？」
「パスワードが誤っています。」と表示された ... 105
- Q 画面が青くなり、次のようなメッセージが
画面一面に表示された 105
- Q 「RTC battery is low or CMOS checksum is
inconsistent」 「Press[F1]Key to set
Date/Time.」と表示された 105
- Q 「システムの日付または時刻が無効です」
と表示された 105
- Q 休止状態から復帰したとき、
「休止モードを準備しています」と表示された ... 106
- Q 「システムは休止状態からの復帰に失敗しました」
と表示された 106
- Q 次のようなメッセージが表示された 106
- Q C:¥ >_ のように表示された 106
- Q Windows XP の再起動やシャットダウン中に
「プログラムの終了 - ccApp」または
「ccApp.exe が応答しません」と表示された .. 106
- Q その他のメッセージが表示された 106

その他 106

- Q セーフモードで起動した 106
- Q フロッピーディスクのフォーマットができない ... 107
- Q 引越したときの手続きは? 107
- Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの
調子がおかしい 108
- Q パソコンが応答しない 108
- Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある ... 108
- Q 異常な臭いや過熱に気づいた! 108
- Q この Q&A 集を読んでも解決できない 108
- Q 操作できない原因がどうしてもわからない 109
- Q パソコンを廃棄したい 109
- Q 海外でパソコンを使いたいときは? 109

役立つ操作集

「よくあるご質問」を見てみよう

Q&A 集を見ても知りたいことが見つからない場合は、パソコンで「よくあるご質問」を見てみましょう。「東芝 PC あんしんサポート」にお問い合わせが多い質問をまとめているので、パソコントラブルの解決に役立ててください。インターネットに接続しなくても閲覧できるため、操作も簡単です。

- ① デスクトップ上の  をクリックする
おたすけナビが起動します。

- ② 「よくあるご質問」 () をクリックする

- ③ 「よくあるご質問」が起動します。
- ④ カテゴリの中から知りたい項目をクリックする
- ④ 参照したい質問をクリックする

電源を入れるとき ／切るとき

Q 電源スイッチを押しても反応しない

A 電源スイッチを押す時間が短いと電源が入らないことがあります。

Power LED が青色に点灯するまで押し続けてください。

Q 1 度電源が入りかけるとすぐに切れる 電源が入らない

(Battery LED がオレンジ色に点滅しているとき)

A バッテリーの充電量が少ない可能性があります。

次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用の AC アダプタを接続して、電源を供給する
(他製品用の AC アダプタは使用できません)
- 充電済みのバッテリーパックを取り付ける

参照 バッテリーの充電について

「4 章 バッテリー駆動で使う」

(DC IN LED がオレンジ色に点滅しているとき)

A 電源の接続の接触が悪い可能性があります。

バッテリーパックや AC アダプタを接続し直してください。

参照 バッテリーパックの取り付け／取りはずし

「4 章 バッテリー駆動で使う」

参照 AC アダプタの接続 「セットアップガイド

1 章 3 Windows を使えるようにする」

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。

また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。

それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。

Q 電源を入れたが、システムが起動しない

A 起動ドライブをハードディスクドライブ以外に設定した場合に、システムの入っていないメディアがセットされている可能性があります。

システムが入っているメディアと取り替えるか、またはドライブからメディアを取り出してから、何かキーを押してください。

それでも正常に起動しない場合は、強制終了してください。強制終了の方法は、「本節 電源を入れるとき／切るとき - Q [終了オプション] から電源が切れない」を確認してください。

強制終了した後、**(F12)** キーを押しながら電源を入れてください。表示されたアイコンの中からシステムの入っているドライブ (通常はハードディスクドライブ) を **(←→)** キーで選択し、**(ENTER)** キーを押すと、システムが起動します。

A **(F8)** キーを押しながら電源を入れると、正常な状態で起動しなおすことができます。

参照 詳細について

「本章 3-③ 正常な状態で起動しなおす」

Q 自動的に電源が入ってしまう

A 「Qosmio AV Center」で予約録画が実行された可能性があります。

「Qosmio AV Center」は予約録画の実行時に、パソコンの状態が電源オフ/スタンバイ/休止状態であっても自動的に起動し、録画を開始します。録画された番組は「見るナビ」で確認できます。詳しくは「Qosmio AV Center」のヘルプを確認してください。

参照 「Qosmio AV Center」のヘルプの起動方法

「オーディオ & ビジュアルガイド

6-1 Qosmio AV Center とは」

A 「Qosmio AV Center」でメール予約のためのメール取得が行われた可能性があります。

「Qosmio AV Center」の [設定] の [メール予約設定] 画面で、メール予約を行う設定にしている場合、あらかじめ設定された時刻になると、パソコンの状態が電源オフ/スタンバイ/休止状態でも自動的に起動し、メールの取得を行います。

メール取得を行う時刻は、[設定] の [メール予約設定] 画面で確認できます。

詳しくは「Qosmio AV Center」のヘルプを確認してください。

A 「Qosmio AV Center」で地上デジタル放送の電子番組表の情報取得が行われた可能性があります。「Qosmio AV Center」の[設定]の[その他の設定]画面で、地上デジタル設定の「電子番組表の定期取得」が「する」に設定されている場合、あらかじめ設定された時刻になると、パソコンの状態が電源オフ/スタンバイ/休止状態でも自動的に起動し、地上デジタル放送の電子番組表の情報取得します。情報を取得する時刻は、[設定]の[その他の設定]画面で確認できます。詳しくは「Qosmio AV Center」のヘルプを確認してください。

Q [終了オプション] から電源が切れない

A **CTRL**+**ALT**+**DEL**キーを押して、電源を切ってください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

- ① **CTRL**+**ALT**+**DEL**キーを押す
[Windows タスクマネージャ]画面が表示されます。
- ② メニューバーの[シャットダウン]をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**ALT**+**U**キーを押してください。
- ③ [コンピュータの電源を切る]をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**U**キーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

A **CTRL**+**ALT**+**DEL**キーを押しても反応がない場合は、電源スイッチを5秒以上押してください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

Q 使用中に突然電源が切れてしまった

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。

また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。

それでも電源が切れる場合は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

A バッテリ駆動で使用している場合、バッテリーの充電量がなくなった可能性があります。

次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用の AC アダプタを接続して、電源を供給する
(他製品用の AC アダプタは使用できません)
- 充電済みのバッテリーパックを取り付ける

参照 バッテリの充電について
「4章 バッテリ駆動で使う」

Q しばらく操作しないとき、電源が切れる

A Power LED が青色に点灯している場合、表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

SHIFTキーや**CTRL**キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A Power LED がオレンジ色に点滅しているか、消灯の場合、自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。復帰させるには、電源スイッチを押してください。また、次の手順で設定を解除できます。

- ① [コントロールパネル]を開き、[パフォーマンスとメンテナンス]をクリックする
- ② [東芝省電力]をクリックする
- ③ [プロファイル]で利用するプロファイルを選択する
- ④ [基本設定] タブで [システムスタンバイ] および [システム休止状態] のチェックをはずす
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする

Q 間違って電源を切ってしまった

A パソコンを終了する場合は、[スタート]メニューから行います。

パソコンが処理をしている最中 (Disk LED が点灯中) に電源が切れてしまうと、ハードディスクが故障する場合がありますので、正しい終了手順を守ってください。

- ① [スタート] → [終了オプション] をクリックする
- ② [電源を切る] をクリックする

正しい終了手順に従わずに強制終了した後、パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合はエラーチェック (ハードディスクの検査) を行ってください。

参照 エラーチェックの方法
「本節 その他 - Q セーフモードで起動した」

Q **F12**キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブを変更できない

A 「東芝パスワードユーティリティ」の「スーパーバイザパスワード」タブで設定されている可能性があります。

「東芝パスワードユーティリティ」の「スーパーバイザパスワード」タブの「ユーザポリシーの設定」画面で「HW セットアップ/BIOS セットアップの使用を許可する」のチェックがはずれていると、**F12**キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブの選択ができません。「HW セットアップ/BIOS セットアップの使用を許可する」をチェックしてください。

参照 スーパーバイザパスワード
《おたすけナビ（検索）：スーパーバイザパスワード》

画面／表示

Q 画面に何も表示されない

（Power LED が消灯、またはオレンジ色に点滅している場合）

A 電源が入っていないか、スタンバイまたは休止状態になっています。

電源スイッチを押してください。

Q 電源は入っているが、画面に何も表示されない

（Power LED が青色に点灯している場合）

A 表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。**(SHIFT)**キーや**(CTRL)**キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A インスタントセキュリティ機能が働いた可能性があります。

解決するには、次の操作を行ってください。

① **(SHIFT)**キーや**(CTRL)**キーを押す、またはタッチパッドを操作する

ユーザ名選択画面、または「コンピュータのロックの解除」画面が表示されます。

以降の手順は、表示された画面によって異なります。

● ユーザ名選択画面が表示された場合

② ユーザ名をクリックする

Windows のログオンパスワードを設定していない場合は、インスタントセキュリティ機能が解除されます。

Windows のログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。

③ パスワード入力画面に Windows のログオンパスワードを入力し、**(ENTER)**キーを押す

● 「コンピュータのロックの解除」画面が表示された場合

② ユーザ名を入力する

③ Windows のログオンパスワードを設定している場合は、パスワードを入力する

Windows のログオンパスワードを設定していない場合は、何も入力しないでください。

④ [OK] ボタンをクリックする

参照 Windows ログオンパスワードの入力

「セットアップガイド 1 章 6-1

他の人に使われたくないとき」

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

(FN)+**(F5)**キーを3秒以上押し続けてください。表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について 「3章 5-2 表示を切り替える」

Q 画面が暗い

A **(FN)**+**(F7)**キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください*1

(FN)+**(F6)**キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。**(FN)**キーで本体液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると設定はもとに戻ります。

A 本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

「東芝省電力」には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。

詳細は、「東芝省電力」のヘルプを参照してください。購入時の設定では、ACアダプタの接続時（AC最適化）の明るさレベルは「レベル8」（最高）に、バッテリー駆動時（ノーマル）の明るさレベルはバッテリーの残容量に応じて「レベル4」から「レベル2」に変化するように設定されています。次の手順で設定を変更してください。*1

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック→ [東芝省電力] をクリックする
- ② [プロファイル] で利用するプロファイルを選択する
- ③ [基本設定] タブで [画面の明るさ] を設定する [設定] ボタンをクリックすると、バッテリーの残容量ごとに画面の明るさを設定できます。[解除] ボタンをクリックすると、バッテリーの残容量ごとの設定は無効になります。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

*1 この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

キーボード

Q キーを押しても文字が表示されない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが砂時計の形（⌚）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けられないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q どのキーを押しても反応しない
設定はあっているが、希望の文字が入力できない

A 次の手順で [スタート] メニューから再起動してください。

- ① [スタート] → [終了オプション] をクリックする
- ② [再起動] をクリックする

A [スタート] メニューから再起動できない場合は、**(CTRL)+(ALT)+(DEL)** キーを押して、再起動してください。

この場合、保存されていないデータは消失します。

- ① **(CTRL)+(ALT)+(DEL)** キーを押す
[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。

② メニューバーの [シャットダウン] をクリックする

タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**(ALT)+(U)** キーを押してください。

③ [再起動] をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**(R)** キーを押してください。プログラムを強制終了し、電源が切れます。

A **(CTRL)+(ALT)+(DEL)** キーを押して再起動できない場合は、電源スイッチを5秒以上押してください。

電源が切れます。この場合、保存されていないデータは消失します。

しばらくしてから電源を入れ直してください。

強制終了した後パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合は、エラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。

参照 エラーチェックの方法

「本節 その他-Q セーフモードで起動した」

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。

もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、購入店、または保守サービスにご相談ください。

保守サービスへの相談は「東芝 PC サポートのご案内」を確認してください。

タッチパッド /マウス

Q タッチパッドやマウスを動かしても画面のポインタが動かない（反応しない）

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが砂時計の形（⌚）をしている間は、システムが処理中のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けられないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A マウスが正しく接続されていない可能性があります。

マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けられない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。
(FN)+(F9)キーを押して、タッチパッドを有効に切り替えてください。

参照 タッチパッドについて「1章 2 ポインタを動かす／ファイルを開く／文字キーを使う」

Q 光学式マウスを使用しているとき、画面のポインタが正しく動かない（正しく反応しない）

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが動かず、ポインタがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど）
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面（人工大理石、新品のオフィスデスクなど）
- 画像パターンの方向性が強い表面（正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど）

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。

CD / DVD /
HD DVD * 1

* 1 HD DVD-ROM ドライブモデルのみ

Q CD / DVD / HD DVD にアクセスできない

A HD DVD-ROM ドライブモデルで、ディスクトレイがきちんとしまっていない場合は、カチッと音がするまで押し込んでください。

参照 CD / DVD / HD DVD のセット「2-⑤ CD / DVD / HD DVD を使うとき（セット）」

A CD / DVD / HD DVD がきちんとセットされていない場合は、ラベルの面を上にして、水平にセットしてください。

A CD / DVD / HD DVD が汚れている場合は、乾燥した清潔な布でふいてください。
それでも汚れが落ちなければ、水または中性洗剤で湿らせた布でふき取ってください。

参照 CD / DVD / HD DVD の手入れ
『セットアップガイド 6章 3 日常の取り扱いとお手入れ』

A CD / DVD / HD DVD を認識していない可能性があります。

メディアアクセスLED、ディスクトレイLED*1が点滅している間は、まだ認識されていません。消灯するまで待って、もう1度アクセスしてください。

* 1 HD DVD-ROM ドライブモデルのみ

Q メディアアクセスLED、ディスクトレイLED*1が消えない

* 1 HD DVD-ROM ドライブモデルのみ

A 大量のデータを処理しているときは、時間がかかります。

LEDが消えるまで待ってください。
どうしても消えないときは作業を中断し、(CTRL)+(ALT)+(DEL)キーを押して再起動してください。この場合、保存されていないデータは消失します。

参照 再起動の方法「本節 キーボード - Q
どのキーを押しても反応しない」

設定はあっているが、希望の文字が入力できない」再起動できない場合は、電源スイッチを5秒以上押し、電源を切ってから、もう1度電源を入れてください。この場合、保存されていないデータは消失します。
再起動後、同じ操作を行っても、LEDが消えない場合は、電源を切り、保守サービスに連絡してください。

Q CD / DVD / HD DVD が取り出せない

（リモコンの「取り出し」ボタンを押して、CD / DVD / HD DVD を取り出す場合）

A リモコンが正しく操作できる環境になっていない場合は、リモコンの「取り出し」ボタンを押しても、CD / DVD / HD DVD は出てきません。

①リモコンが無効に設定されていたり、リモコンの電池が消耗している可能性があります。リモコンが正しく操作できるように調整してください。

参照 リモコン操作ができない

『オーディオ & ビジュアルガイド 18 Q&A 集』

②パソコンが次の状態になっていることを確認し、「取り出し」ボタンを押してください。

- Windows 動作中
- QosmioPlayer 動作中
- 電源が入っていない状態
- 休止状態

(パソコン本体のイジェクトボタンを押して、CD / DVD / HD DVD を取り出す場合)

A パソコン本体の電源が入っていないと、イジェクトボタンを押しても CD / DVD / HD DVD は出てきません。

電源を入れてから、イジェクトボタンを押してください。

参照 CD / DVD / HD DVD の取り出し
「1 章 3-⑦ CD / DVD / HD DVD を使い終わったとき (取り出し)」

A パソコン本体の電源が入っている場合は、[マイコンピュータ] を開き、CD / DVD / HD DVD が入っているドライブのアイコンを右クリックして、表示されるメニューの中の「取り出し」をクリックしてください。

A 上記の操作でも取り出せない場合は、CD / DVD / HD DVD を使用しているアプリケーションをすべて終了してください。
終了後、イジェクトボタンを押してください。

A CD / DVD / HD DVD を使用しているアプリケーションをすべて終了していても、CD / DVD / HD DVD が取り出せない場合は、パソコンを再起動してください。
再起動後、イジェクトボタンを押してください。
以上の手順でも解決できない場合は、保守サービスに依頼してください。

Q DVD-Video をドライブにセットしたときに、再生するアプリケーションを選択する画面が表示されない

A 次の手順で設定を変更してください。

- ① [スタート] → [マイコンピュータ] で DVD をセットしているドライブのアイコンを右クリックし、[プロパティ] をクリックする
- ② [自動再生] タブで「DVD ムービー」を選択し、[動作] で [動作を毎回選択する] をチェックする
- ③ [OK] ボタンをクリックする

参照 DVD-Video の再生について
『オーディオ & ビジュアルガイド 13 DVD の映画や映像を観る』

周辺機器

周辺機器については「3 章 周辺機器を使って機能を広げよう」、『周辺機器に付属の説明書』もあわせて確認してください。

Q 周辺機器を取り付けているときの電源を入れる順番は？

A 周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れてください。

USB 対応機器など、周辺機器によっては、パソコン本体が起動した後に電源を入れても使うことができるものがあります。

Q 増設メモリが認識されない

A メモリを増設しても「東芝 PC 診断ツール」などでメモリ容量の数値が変わらなかった場合、パソコンが増設メモリを認識していない可能性があります。「3 章 周辺機器を使って機能を広げよう」を参照して、増設メモリを取りはずしてから、もう 1 度取り付けてください。

アプリケーション

Q アプリケーションが操作できなくなった

A アプリケーション使用中に操作できなくなった場合は、次の手順でアプリケーションを強制終了してください。

終了後、もう 1 度アプリケーションを起動してください。この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。

- ① **(CTRL) + (ALT) + (DEL)** キーを押す
[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。
- ② [アプリケーション] タブで [応答なし] と表示されているアプリケーションをクリックする
- ③ [タスクの終了] ボタンをクリックする
アプリケーションが終了します。
- ④ [Windows タスクマネージャ] 画面で [閉じる] ボタン (**X**) をクリックする

Q BeatJam が起動できない

(OMG ファイル、MP3 ファイル、WMA ファイル、WAV ファイル、CD Audio トラックをダブルクリックしても、「BeatJam」で再生できない場合)

A 「Windows Media Player」の初回起動時に、音楽再生アプリケーションの設定が変更された可能性があります。

次の手順に従って、「BeatJam」が起動するように設定してください。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [BeatJam] → [BeatJam] をクリックする
「BeatJam」が起動します。
- ② CD パネルの [メニュー] → [オプション] を選択する
- ③ [関連付け] タブで [OpenMG Audio ファイル (oma.omg)]、[MP3 ファイル(mp3)]、[Windows Media Audio ファイル(wma)]、[WAV ファイル(wav)]、[CD Audio トラック (cda)] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

メッセージ

Q 画面に「Password=」と表示された

A 「東芝パスワードユーティリティ」または BIOS セットアップで設定したパスワードを入力し、(ENTER)キーを押してください。

《おたすけナビ (検索) : ユーザパスワード》を参照し、パスワードを忘れた場合に備えるようにしてください。パスワードファイルを作成しておくことができます。

パスワードを忘れた場合は、パスワードファイルを使用してください。パスワードファイルがない場合は、使用している機種 (型番) を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。その際、身分証明書 (お客様自身を確認できる物) の提示が必要となります。

Q 「パスワードを忘れてしまいましたか?」 「パスワードが誤っています。」と表示された

A 入力モードの状態により大文字/小文字を誤って入力した可能性があります。

Caps Lock LED を確認してください。必要に応じて (SHIFT) + (CAPS LOCK 英数) キーを押して入力の状態を切り替え、もう 1 度入力してください。

Q 画面が青くなり、次のようなメッセージが画面一面に表示された

- 「A problem has been detected and windows has been shut down to prevent damage to your computer.」

A ハードウェアの接続に不具合が起きた、または何らかの原因で電源を切る前の状態を再現できなくなったというメッセージです。

休止状態のまま増設メモリの取り付け/取りはずしをしたときなどに表示されます。電源を切る前の状態は再現できません。
次の操作を行ってください。

- ① 電源スイッチを 5 秒以上押し、パソコンを強制終了する
- ② 再び電源スイッチを押して、パソコンを再起動する
「システムを前の場所から再起動できませんでした。」というメッセージが表示されます。
- ③ 「復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます」が反転表示していることを確認し、(ENTER)キーを押す
Windows が起動します。

Q 「RTC battery is low or CMOS checksum is inconsistent」 「Press[F1]Key to set Date/Time.」と表示された

A 時計用バッテリーが不足しています。

時計用バッテリーは、AC アダプタを接続し電源を入れているときに充電されます。

参照 時計用バッテリーについて

「4 章 バッテリー駆動で使う」

AC アダプタを接続後、次の手順で BIOS セットアップの日付と時刻を設定してください。

- ① (F1) キーを押す
BIOS セットアップ画面が表示されます。
- ② (↑) (↓) (←) (→) キーを使って、[SYSTEM DATE/TIME] の [Date] を選択し、(SPACE) キーで日付を設定する
- ③ 手順②と同様に [Time] で時刻を設定する
- ④ (FN) + (→) キーを押す
確認のメッセージが表示されます。
- ⑤ (Y) キーを押す
設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。パソコンが再起動します。

Q 「システムの日付または時刻が無効です」 と表示された

A 日付と時刻を設定してください。

Windows Update やアプリケーションのセットアップを行う場合は、正しい日付と時刻を設定してから行ってください。

参照 日付と時刻の設定について

「セットアップガイド 1 章 3-5- 日付と時刻の設定」

Q 休止状態から復帰したとき、「休止モードを準備しています」と表示された

A [コントロールパネル] の [ユーザーアカウント] → [ユーザーアカウント] → [ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する] の [ようこそ画面を使用する] がチェックされていると、休止状態から復帰したときにメッセージが表示される場合があります。

ログオンしたいユーザ名をクリックしてください。正常にログオンできます。

Q 「システムは休止状態からの復帰に失敗しました」と表示された

A 休止状態が無効になったというメッセージです。

電源を切る前の状態は再現できません。
[復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます] を選択し、(ENTER)キーを押してください。
Windows が起動します。

Q 次のようなメッセージが表示された

- [Insert system disk in drive.Press any key when ready]
- [Non- System disk or disk error Replace and press any key when ready]
- [Invalid system disk Replace the disk,and then press any key]
- [Boot:Couldn't Find NTLDR Please Insert another disk]
- [Disk I/O error Replace the disk,and then press any key]
- [Cannot load DOS press key to retry]
- [Remove disks or other media.Press any key to restart]
- [NTLDR is missing Press any key to restart]

A フロッピーディスクなどの起動ディスクを取り出し、何かキーを押してください。

上記の操作を行っても解決しない場合は、「本章 1-③-1 トラブルチェックシート」で必要事項を確認のうえ、東芝 PC あんしんサポートに連絡してください。

Q C:¥> のように表示された

A コマンドプロンプトが全画面表示されています。次のいずれかの操作を行ってください。

- コマンドプロンプト画面をウィンドウ表示に切り替える
(ALT)+(ENTER)キーを押してください。
- コマンドプロンプト画面を終了する
① (E)(X)(I)(T)とキーを押す
② (ENTER)キーを押す

Q Windows XP の再起動やシャットダウン中に「プログラムの終了 - ccApp」または「ccApp.exe が応答しません」と表示された

A 「Norton AntiVirus」のファイル ccApp.exe が、終了している過程で表示されます。

ccApp.exe は終了に時間がかかることがあります。次のいずれかの操作を行ってください。

- コンピュータが処理を完了するまでしばらく待つ
- [すぐに終了] ボタンをクリックしてプログラムを終了する

Q その他のメッセージが表示された

A 使用しているシステムやアプリケーションの説明書を確認してください。

その他

Q セーフモードで起動した

A 周辺機器のドライバやアプリケーションが原因で不具合を起こしている可能性があります。

次の手順でエラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。

- ① [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする
- ② (C:) ドライブをクリックする
- ③ メニューバーから [ファイル] → [プロパティ] をクリックする
- ④ [ツール] タブの [エラーチェック] で [チェックする] ボタンをクリックする
- ⑤ [チェック ディスクのオプション] で [不良セクタをスキャンし、回復する] をチェックする (☑)
- ⑥ [開始] ボタンをクリックする
チェックには時間がかかります。
チェック後パソコンを再起動し、通常起動するか確認してください。

上記の操作を行っても正常に起動しない場合は、東芝 PC あんしんサポートに連絡してください。

参照 セーフモードについて


《おたすけナビ (検索) : セーフモード》

Q フロッピーディスクのフォーマットができない


(Norton Internet Security をインストールしている場合)

A 「Norton AntiVirus」の「Auto-Protect」を有効にしているとき、未フォーマットのフロッピーディスクをフォーマットできない場合があります。

次の手順で「Auto-Protect」を無効にしてフォーマットしてください。

- ① 通知領域の [Norton Internet Security] アイコン () をダブルクリックする
- ② [Norton Internet Security] 画面で [オプション] をクリックし、表示されたメニューから [Norton AntiVirus] をクリックする
- ③ [Norton AntiVirus オプション] 画面で [Auto-Protect をオンにする] のチェックをはずす
- ④ [OK] ボタンをクリックする

フォーマット後は手順③で [Auto-Protect をオンにする] をチェックし、「Auto-Protect」を有効にしておくことをおすすめします。

[Norton Internet Security] アイコン () をクリックし、表示されるメニューから [Auto-Protect を無効にする] をクリックした場合も、「Auto-Protect」を無効にできません。

Q 引っ越したときの手続きは？

A 次の変更を行ってください。

1 インターネットに接続する設定を変更する

インターネットに接続する電話回線を、引っ越し後に使用する電話回線に変更してください。また、プロバイダのアクセスポイントは、引っ越し先の住所に最も近いアクセスポイントに変更することを推奨します。詳しくは、契約しているプロバイダに問い合わせてください。設定は次の手順で変更できます。

● 発信元の電話番号の設定

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [電話とモデムのオプション] をクリックする
[電話とモデムのオプション] 画面が表示されます。
- ③ [ダイヤル情報] タブで変更したい所在地を選択し、[編集] ボタンをクリックする
使用する電話回線について、次の点を確認してください。
 - 登録名
引っ越し先を新たに登録したい場合は、[新規] ボタンをクリックしてください。
 - ダイヤル元の市外局番
 - 外線発信番号
 - ダイヤル方法
- ④ [OK] ボタンをクリックする

● 接続先の電話番号の設定

- ① [スタート] → [接続] → [XX (接続先)] をクリックする
[XX (接続先) へ接続] 画面が表示されません。
- ② [プロパティ] ボタンをクリックする
[XX (接続先) プロパティ] 画面が表示されます。
- ③ [全般] タブで [電話番号] 欄に、これから使用したいアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力する
- ④ [XX (接続先) プロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [ダイヤル] ボタンをクリックする
変更した設定が有効になります。
すぐに接続する必要がない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

2 東芝 ID (TID) に登録した住所、電話番号などを変更する

● ホームページから変更する

東芝 ID (TID) をお持ちの場合はこちらからお願いいたします。

- ① インターネットで [http://room1048.jp/] へ接続する
- ② [ログイン] ボタンをクリックする
- ③ [東芝 ID (TID)] と [パスワード] に入力し、[ログイン] ボタンをクリックする
お客様専用ページにログインします。
- ④ ページ右上の [登録情報変更] をクリックする
[登録情報変更メニュー] 画面が表示されます。
- ⑤ [個人情報と TID・パスワードの確認/変更] をクリックし、[個人情報の確認/変更] をクリックする
[個人情報の確認/変更] 画面が表示されます。
変更する情報を修正してください。

● 電話で変更する

「東芝 ID 事務局 (お客様情報変更)」までご連絡ください。

- 東芝 ID 事務局 (お客様情報変更)
TEL : 0570-09-1048
受付時間: 10:00 ~ 17:00
(土・日、祝日、東芝特別休日を除く)

紹介しているホームページ、電話番号はお客様登録の内容変更、削除に関する問い合わせ窓口です。
保守サービス、修理などの技術的な相談は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

3 契約しているプロバイダや各アプリケーションのユーザ登録などに登録した住所、電話番号などを変更する

詳しくは、各登録先に問い合わせてください。

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のノイズフィルタを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィードを同軸ケーブルに替える

Q パソコンが応答しない

A 応答しないアプリケーションを強制終了してください。

この場合、保存されていないデータは消失します。

参照 アプリケーションの強制終了の方法

「本節 アプリケーション-Q

アプリケーションが操作できなくなった」

アプリケーションを終了しても調子がおかしい場合は、以降の操作を行ってください。

A Windows を強制終了し、再起動してください。

システムが操作不能になったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スタンバイ/休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。

参照 Windows の強制終了の方法

「本節 電源を入れるとき/切るとき-

Q [終了オプション] から電源が切れない」

強制終了後、パソコン本体の電源を入れてください。

Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある

A ウイルスチェックソフトでウイルスチェックを行い、ウイルスが発見された場合は駆除してください。

参照 ウイルスチェックソフト『セットアップガイド 3章 ウイルスからパソコンを守る』

ウイルスチェックの操作方法がわからない場合や、ウイルス駆除ができなかった場合は、ウイルスチェックソフトのメーカーへお問い合わせください。

Q 異常な臭いや過熱に気づいた！

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。安全を確認してバッテリーパックをパソコン本体から取りはずしてから購入店、または保守サービスに相談してください。

なお、連絡の際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照 修理の問い合わせについて

「本章 1-④ 修理に出す」、

「東芝 PC サポートのご案内」

Q この Q&A 集を読んでも解決できない

A このほかにもいろいろな解決方法があります。

1 おたすけナビで調べる

おたすけナビは、パソコン内の電子マニュアルで、検索する機能があります。知りたい内容がこの Q&A 集に載っていない場合は、おたすけナビで検索してみてください。詳細は『セットアップガイド 1 章-目的にあわせて使い分ける』を参照してください。

2 「よくあるご質問」で調べる

dynabook.com に掲載されているサポート情報の中で、特にお問い合わせの多い項目やトラブル解決方法について記載しています。インターネットに接続できないときでも見ることが出来ます。詳細は『セットアップガイド 1 章-目的にあわせて使い分ける』を参照してください。

3 「dynabook.com」の「よくあるご質問 FAQ」を調べる

インターネットに接続できるときは、東芝 PC 総合情報サイト「dynabook.com」でサポート情報を見てください。問い合わせの多い質問やホットな Q&A が掲載されています。

参照 dynabook.com

「本章 1-② トラブル事例を見える」

「A. 回答・対処方法」の説明を読んでも問題が解決しない場合は、説明の後のアンケートに引き続き、質問メールを出すこともできます。

* メールでの質問には「お客様登録」が必要です。

4 東芝 PC あんしんサポートに電話する

パソコン本体のトラブルは、東芝 PC あんしんサポートでお答えします。『東芝 PC サポートのご案内』で必要事項を確認のうえ、東芝 PC あんしんサポートに連絡してください。

参照 東芝 PC あんしんサポート

「本章 1-③ 電話で問い合わせる」、

「東芝 PC サポートのご案内」

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

- A** パソコン本体のトラブルの場合は、「本章 1-③-1 トラブルチェックシート」で必要事項を確認のうえ、東芝 PC あんしんサポートに連絡してください。

- A** アプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

参照 アプリケーションの問い合わせ先
「7章 問い合わせるときは」

- A** 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口にお問い合わせください。

参照 周辺機器の問い合わせ先
「周辺機器に付属の説明書」

Q パソコンを廃棄したい

- A** 本製品を廃棄するときは、家庭で使用している場合と企業で使用している場合とで、廃棄方法が異なります。また、ハードディスク上のデータを消去する必要があります。
- 詳しくは、『セットアップガイド 6章 捨てるとき／人に譲るとき』を参照してください。

Q 海外でパソコンを使いたいときは？

- A** 次の点に気をつけてください。

1 お使いになる国／地域の電源プラグの形状を確認する

● AC アダプタ

本製品の AC アダプタは、100～240V の電圧に対応しているため、この範囲内の電圧の国／地域で使用できます。本製品に同梱されている AC アダプタは基本的に世界中の国／地域*1 で使用できます。

*1 一部の国の特定地域では、使用できない場合があります。

● 電源コード

電源コード（電源プラグから AC アダプタまでのケーブル）は、日本の法令、安全規格に適合しています。海外でお使いになる場合は、使用電圧やプラグの形状が異なりますので、お使いになる国／地域の法令・安全規格に適合する電源コード（市販品）をご用意ください。

参照 AC アダプタ、電源コード、電源プラグについて
「セットアップガイド 1章 3-2 電源コードと AC アダプタを接続する」

2 通信関係の確認をする

● 内蔵モデム、無線 LAN

国／地域によっては、モデムや無線 LAN 装置の使用に認可が必要です。本製品は出荷時に認可を受けていますが、すべての国／地域の認可は受けていません。本書やおたすけナビの「付録」やカタログ、または対応する国／地域を記載したシートで、使用できる国／地域を確認してください。それ以外の国／地域で本製品を使用する場合は、その国／地域に対応した機器（市販品）を使用するか、内蔵モデムや無線 LAN 機能の使用はお控えください。東芝製オプションはありません。各国／地域に適合した機器をご購入ください。

● モジュラージャックの形状

モジュラージャックは、国／地域によって形状が異なります。本製品は北米と日本の形状に対応していますが、その他の国／地域ではプラグをその地にあう形状に変換するための変換プラグ（市販品）が必要です。東芝製オプションはありません。各国／地域で法令・規格に適合したコードや変換プラグをご購入ください。

● モデム設定ユーティリティ

本製品に内蔵されているモデムは、多数の国／地域で利用可能です。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で、使用する国／地域を設定してください。

参照 設定方法 《おたすけナビ（検索）：海外でインターネットに接続したい》

3 必要なものを準備する

- 取扱説明書
- Office パッケージ
- 保証書

リカバリする必要があるときのために、Office 搭載モデルの場合は Office Personal 2003 と Office OneNote 2003 のパッケージ一式をお持ちください。本製品はハードディスクからリカバリできますが、これらのアプリケーションは同梱の CD-ROM からリカバリする必要があります。

参照

リカバリについて

『セットアップガイド 5 章 1 リカバリとは』

故障したときのために、保証書と購入時のレシート*1 をお持ちください。

ILW (International Limited Warranty) は海外の所定の地域*2 で ILW の制限事項・確認事項の範囲内で、修理サービスがご利用いただける、東芝の制限付海外保証制度です。保証書が ILW の保証書を兼ねています。

ILW についての詳細は、次のホームページも参照してください。

http://dynabook.com/assistpc/ilw/index_j.htm

- *1 保証書に購入店の捺印と購入日が明記されていれば、必要ありません。
- *2 ILW 対象地域の一部地域では、法律により輸出入が規制されている部品・役務があります。規制に該当する場合は、サービス対象外となりますので、あらかじめご了承ください。

4 プロバイダを選定する

加入しているプロバイダのアクセスポイントがその地域になければ、メールを送受信するたびに、普段よりも料金が余計にかかります。加入しているプロバイダのアクセスポイントが渡航先にあるか、または、アクセスポイントを持つ他のプロバイダと提携接続サービス（ローミングサービス）を行っていただければ、通常通りにメール送受信が可能です。

ご出発前に、加入しているプロバイダのホームページで、アクセスポイントやローミングサービスの有無、設定方法などを確認しておくことをお勧めします。

<必要な書類など>

海外に持ち出す物によっては、「輸出貿易管理令および外国為替令に基づく規制貨物の該非判定書」という書類が必要な場合がありますが、本パソコンを、旅行や短期出張で自己使用する目的で持ち出し、持ち帰る場合、該非判定書は基本的には必要ありません。ただし、パソコンを他人に使わせたり譲渡する場合には、輸出許可が必要となる場合があります。


また、パソコンを米国政府の定める輸出規制国に持ち出す場合は、米国政府の輸出許可が必要となる場合があります。

パソコンを海外で使用する場合のより詳細な情報は、下記のホームページを参照してください。

http://dynabook.com/assistpc/export/index_j.htm

7 章

問い合わせるときは



本製品に用意されている OS、アプリケーション、プロバイダのお問い合わせ先を紹介しています。各アプリケーションを使っていて困ったときや、プロバイダへ問い合わせるときは、こちらに連絡してください。

1 お問い合わせ先

– OS / アプリケーション / プロバイダ –

112



1

問い合わせ先

－ OS /アプリケーション/プロバイダー －

* 2006年7月現在の内容です。
各社の事情で、受付時間などが変更になる場合があります。

① OS の問い合わせ先

Windows セキュリティセンターなど、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載の新規機能についてのサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。

<http://support.microsoft.com/>

Windows XPに関する一般的なお問い合わせは、東芝 PC あんしんサポートになります。

※当社製品でWindows Vista™をご使用になる上での注意・制限事項を含めた最新情報は、dynabook.com サポート情報 (<http://dynabook.com/assistpc/>) で順次公開をします。

② アプリケーションの問い合わせ先

各アプリケーションのユーザ登録については、それぞれの問い合わせ先までお問い合わせください。

- Adobe Reader
- CD/DVD 静音ユーティリティ
- ConfigFree
- dynabook ランチャー
- FinePixViewer Lite
- Fn-esse
- Internet Explorer
- InterVideo WinDVD
- Java™ 2 Runtime Environment
- LaLaVoice
- Microsoft Office OneNote
- Outlook Express
- PadTouch
- PC 引越ナビ
- Qosmio AV Center
- QosmioPlayer
- QosmioPlayer 転送ユーティリティ
- TOSHIBA Direct Disc Writer
- TOSHIBA Disc Creator
- TOSHIBA Recovery Disc Creator
- TOSHIBA Smooth View
- TOSHIBA Virtual Sound
- Windows Media Player
- Windows Movie Maker 2
- おたすけナビ
- 簡単インターネット
- できる dynabook

- 東芝 HW セットアップ
- 東芝 PC 診断ツール
- 東芝 RAID
- 東芝 SD メモリカードフォーマット
- 東芝コントロール
- 東芝省電力
- 東芝パスワードユーティリティ
- 内蔵モデム用地域選択ユーティリティ
- ばらちゃん

以上のお問い合わせ先

東芝 (東芝 PC あんしんサポート)

全国共通電話番号

: 0120-97-1048

(通話料・電話サポート料無料)

おかけいただくと、アナウンスが流れます。

アナウンスに従って操作してください。

技術的な質問、お問い合わせは、アナウンスの後で①をプッシュしてください。

技術相談窓口 受付時間

: 9:00 ~ 19:00 (年中無休)

[電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください]

海外からの電話、携帯電話、PHS、または直取引線など回線契約によってはつながらない場合がございます。その場合は TEL 043-298-8780 (通話料お客様負担) にお問い合わせください。

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただきます場合がございます。日程は、dynabook.com「サポート情報」→「東芝 PC あんしんサポート」(http://dynabook.com/assistpc/anshin/index_j.htm) にてお知らせいたします。

- Microsoft Office Excel
- Microsoft Office Home Style+
- Microsoft Office Outlook
- Microsoft Office Word

以上のお問い合わせ先

マイクロソフト 無償サポート

<TEL>

TEL : 東京 : 03-5354-4500

: 大阪 : 06-6347-4400

※ 次の情報をお手元に用意してご連絡ください。

郵便番号、ご住所、お名前、電話番号、お問い合わせ製品のプロダクトID

詳細は、製品添付の「パッケージ内容一覧」をご覧ください。

<受付時間・お問い合わせ回数>

●セットアップ、インストールに関するお問い合わせ

受付時間 : 9:30 ~ 12:00, 13:00 ~ 19:00 (平日)

10:00 ~ 17:00 (土曜日、日曜日)

(マイクロソフト株式会社休業日、年末

年始、祝祭日を除く。日曜日が祝祭日の

場合は営業いたします。その場合、振替

休業日は休業させていただきます)

回数 : 指定はございません。

●基本操作に関するお問い合わせ

受付時間 : 9:30~12:00、13:00~19:00 (平日)
10:00~17:00 (土曜日)
(マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く)
回数 : 4 インシデント (4 件のご質問)
無償サポートは 4 件までです。
あらかじめ、インシデント制などの詳細について、『Microsoft Office Personal Edition 2003 スタートガイド』の「お問い合わせについて」をご覧ください。

〈ホームページ〉

URL : <http://support.microsoft.com/>
※ 電話サポート (無償) もしくは、製品サポートからお問い合わせになる製品をお選びください。
備考 : マイクロソフトサポート Web 上から直接インターネットを通じてお問い合わせも可能です。
答えてねっと : <http://www.kotaete-net.net/>

● The 翻訳インターネット のお問い合わせ先

The 翻訳サポートセンター

受付時間 : 10:00~12:00、13:00~17:00
(土・日・祝日ならびに本サポートセンター臨時休業日を除く)
TEL : 0120-1048-37 (フリーダイヤル、携帯電話・PHS をご利用の場合には、03-5465-7290)
E-mail : honyaku@toshiba-sol.co.jp
ホームページ : http://pf.toshiba-sol.co.jp/prod/hon_yaku/internet/index_j.htm
※ ユーザ登録をおすすめします。
<http://mt-regist.toshiba-sol.co.jp/> からユーザ登録を行うことができます。
※ 日本語のみでお受けいたします。

● プロアトラス SV2 for TOSHIBA のお問い合わせ先

株式会社アルプス社 カスタマーサポート

受付時間 : 10:00~12:00、13:00~17:00
(土・日・祝日・休業日を除く)
TEL : 052-789-1510
FAX : 052-789-1570
製品サポート : <http://www.alpsmap.co.jp/support/index.html>
※ こちらの質問フォームをご利用ください。

● 駅すばあと のお問い合わせ先

株式会社ヴァル研究所

「駅すばあと」ユーザーサポートセンター
受付時間 : 9:30~12:00、13:00~17:00
(土・日・祝祭日・指定日を除く)
TEL : 03-5373-3522
FAX : 03-5373-3523
E-mail : support@val.co.jp
※ ユーザ登録されたお客様が対象になります。
ホームページ : <http://ekiworld.net/>

● 筆ぐるめ のお問い合わせ先

富士ソフト ABC 株式会社 インフォメーションセンター

受付時間 : 9:30~12:00、13:00~17:00
(土・日・祝祭日・休業日を除く)
11月1日から12月30日までは無休
TEL : 03-5600-2551
FAX : 03-3634-1322
E-mail : users@fsi.co.jp
ホームページ : <http://www.fsi.co.jp/fgw/>

● Norton Internet Security

● できるノートン・インターネットセキュリティ

以上のお問い合わせ先

● 製品別サポートページ

<http://symss.jp/>

● 技術的なお問い合わせ

テクニカルサポートセンター

本センターをご利用頂くためには、「ユーザー登録」が必要です。また、ご利用期間は登録日から90日間となります。期間経過後のご利用は、有償サポートチケットをご購入頂くか、またはパッケージ製品へのアップグレードをご検討ください。

※ テクニカルサポートセンターの連絡先は、ご登録された電子メールアドレス宛に通知いたします。

ユーザー登録サイト :

<http://www.symss.jp/jpo-toshiba-reg/>

● 期限切れによる「更新サービスの延長」申し込み シマンテックストア

更新方法のご案内

: [http://www.symantecstore.jp/](http://www.symantecstore.jp/Contents/norton2006_buy_key.asp)[Contents/norton2006_buy_key.asp](http://www.symantecstore.jp/Contents/norton2006_buy_key.asp)

受付時間 : 10:00~17:00

(土・日・祝日・年末年始を除く)

TEL : 0570-005557 (ナビダイヤル)

※ ナビダイヤルがご利用いただけない場合は下記番号をご利用ください。

TEL : 03-3476-1192

● Ulead DVD MovieWriter for TOSHIBA のお問い合わせ先

インタービデオジャパン ユーザーサポート

お問い合わせの前にホームページ (<http://www.intervideo.co.jp/>) のサポートページをご確認ください。当製品の無償サポート期間は、ご購入後1年間となります。

受付時間 : 月~金 9:30~17:00
(12:00~13:30 および
土、日、祝祭日、特定休業日は休み)

TEL : 045-226-3899

FAX : 045-226-3895

E-mail : techsupp@intervideo.co.jpホームページ : <http://www.intervideo.co.jp/>

- Corel Photo Album 6 Starter Edition
のお問い合わせ先

コーレル テクニカルサポート

無料電話サポート… 初回お問合せ日から 90 日間のサ
ポート

受付時間 : 10:00 ~ 17:00 月曜日~金曜日
(祝日・年末年始を除く)

TEL : 0570-003-002

無料メールサポート… 専用の WEB メールフォームでの
サポート

http://www.corel.jp/support/tech_mail.html

有料電話サポート… 下記のお客様に対して有料でのサ
ポートを行っています。

・ 90 日間の無料電話サポート期間終了後、引き続き電
話でのサポートをご希望の場合

・ 無料電話サポート期間中、サポートセンターからの電
話による時間指定でのサポートをご希望の場合

サポートに関する詳細は弊社サポートページをご覧いた
だくか、もしくはカスタマーセンターへお問合せくださ
い。

<http://www.corel.jp/support/>

コーレル カスタマーセンター

(ご購入前のお問い合わせおよびサービスに関するお問
い合わせ窓口)

受付時間 : 10:00 ~ 17:00 月曜日~金曜日
(祝日・年末年始を除く)

TEL : 03-5977-3793

コーレル ホームページ

<http://www.corel.jp/>

- goo スティック のお問い合わせ先

goo 事務局

受付時間 : 10:00 ~ 17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

TEL : 045-848-4190

E-mail : info@goo.ne.jp

ホームページ : <http://stick.goo.ne.jp>

- BroadNewsStreet のお問い合わせ先

ニュースウォッチ カスタマーサポート

受付時間 : 平日 10:00 ~ 17:00

E-mail : toshibapc@newswatch.co.jp

ホームページ : [http://www.newswatch.co.jp/
bns/toshibapc/](http://www.newswatch.co.jp/bns/toshibapc/)

- 駅探エクスプレス のお問い合わせ先

駅探エクスプレスサポート

受付時間 : メールのため受付時間の制限はありません。
※ webmaster からの返信は、基本的に
平日(10:00 ~ 18:00)の対応とさせ
ていただいております。
また、内容により返信できない場合、
回答に日数を要する場合がありますの
で、あらかじめご了承ください。

E-mail : express-support@ekitan.com

ホームページ : <http://express.ekitan.com/>

- BeatJam
- MediaMarina
- ラベルマイティ 5 [セレクト版] 以上のお問い合わせ先

● ユーザー登録に関するお問い合わせ

ユーザー登録ご相談窓口

受付時間 : 平日 10:00 ~ 19:00、
土・日・祝日 10:00 ~ 17:00
(特別休業日を除く)

TEL : 東京 03-5412-2624
大阪 06-6886-2624

ホームページ : [http://www.justsystem.co.jp/
service/](http://www.justsystem.co.jp/service/)

● 製品の使い方に関するお問い合わせ

ジャストシステムサポートセンター

※ サポートセンターへお問い合わせの際には、お客様の
User ID および製品のシリアルナンバーが必要です。

受付時間 : 平日 10:00 ~ 19:00、
土・日・祝日 10:00 ~ 17:00
(特別休業日を除く)

TEL : 東京 03-5412-3980
大阪 06-6886-7160

ホームページ : <http://support.justsystem.co.jp/>

- ゼンリンデータコム デジタル全国地図 its-mo Navi
のお問い合わせ先

ゼンリンデータコム お客様相談室

E-mail : itsmo_navi@zenrin-datacom.net

ホームページ : [http://www.its-mo.net/contactus/
index.html](http://www.its-mo.net/contactus/index.html)

- i-フィルター 4 のお問い合わせ先

デジタルアーツ株式会社

i-フィルター・サポートセンター

受付時間 : 平日 10:00 ~ 18:00、
土・日・祝日 10:00 ~ 20:00

TEL : 平日 03-3580-5678
土・日・祝日 0570-001334

E-mail : p-support@daj.co.jp

ユーザーサポートお問い合わせフォーム
: [https://sec2.daj.co.jp/userform/
ask/form.htm](https://sec2.daj.co.jp/userform/ask/form.htm)

- ファイナルストッパー 2006 AntiSpy
のお問い合わせ先

AOS テクノロジーズ株式会社 技術サポート

受付時間 : 月曜～金曜
9:30～12:00、13:00～20:00
(土日祝祭日を除く)
※ 夏期休暇や、年末休暇は随時 Web
([http://www.finaldata.jp/support/
support.html](http://www.finaldata.jp/support/support.html)) にてお知らせいたし
ております。
TEL : 03-3560-6290
FAX : 03-5575-2270
E-mail : finalstopper@aos.com
ホームページ : [http://www.finaldata.jp/support/
faq_index.html](http://www.finaldata.jp/support/
faq_index.html)

③ プロバイダの問い合わせ先

本製品にインストールされているプロバイダサインアップソフトから契約できるプロバイダの問い合わせ先は、次のとおりです。

- AOL のお問い合わせ先

AOL メンバーサポートセンター

受付時間 : 10:00～19:00 (年中無休)
TEL : 0120-275-265
* 携帯電話、PHS の場合
: 03-5400-9600
FAX : 0120-379-930 (自動案内)
E-mail : こちらのフォームから [http://
support.aol.co.jp/mail/index.html](http://support.aol.co.jp/mail/index.html)
ホームページ : <http://www.jp.aol.com/>

- BIGLOBE のお問い合わせ先

BIGLOBE カスタマーサポート インフォメーションデスク

受付時間 : 9:00～21:00 365日受付
TEL : 0120-86-0962
* 携帯電話、PHS、CATV 電話のかた
はこちらへ : 03-3947-0962
* 電話番号は、おかけ間違いのないよう
お願いします。
ホームページ : [https://my.sso.biglobe.ne.jp/
support/index.html](https://my.sso.biglobe.ne.jp/
support/index.html)

- OCN のお問い合わせ先

● OCN サービスの入会に関するご相談

TEL : 0120-506506
受付時間 : 9:00～21:00
* 年末、年始を除く

● OCN サービスご契約者専用お問い合わせ先

OCN カスタマサポート

TEL : 0120-047-860
FAX : 0120-047-861
受付時間 : 9:00～21:00 (月～金)
9:00～17:00 (土・日・祝日)
* 年末、年始を除く
E-mail : support@ocn.ad.jp
ホームページ : <http://www.ocn.ne.jp/>

- ODN のお問い合わせ先

ODN サポートセンター

● ODN サービスに関するお問い合わせ

TEL : 0088-86
(無料。ダイヤルアップコース)
: 0088-222-375
(無料。ADSL / 光コース)
受付時間 : 24時間自動受付
(9:00～18:00は
オペレーター受付も可能)

● 接続に関するお問い合わせ

TEL : 0088-85
(無料。ダイヤルアップコース)
: 0088-228-325
(無料。ADSL / 光コース)
受付時間 : 24時間自動受付
(9:00～18:00は
オペレーター受付も可能。
また、ADSL / 光コースの場合、
オペレーター受付は9:00～21:00)

● E-mail によるお問い合わせ

ダイヤルアップコースサービス案内
: odn-support@odn.ad.jp
ダイヤルアップコース接続サポート
: tech-support@odn.ad.jp
ADSL / 光コースサービス案内・接続サポート
: info-adsl@odn.ad.jp

● FAX によるお問い合わせ

ODN FAX サービス : 0088-218-586
(無料。年中無休)

- So-net のお問い合わせ先

So-net インフォメーションデスク

受付時間 : 9:00～21:00 (年中無休)
TEL : 0570-00-1414
FAX : 03-3446-7557
E-mail : info@so-net.ne.jp
ホームページ : <http://www.so-net.ne.jp/support/>

● Yahoo! BB のお問い合わせ先

Yahoo! JAPAN 新規 Yahoo! BB 申し込み受付センター

TEL : 0120-33-4546 (フリーダイヤル)
受付時間 : 9:00～22:00 (月曜～金曜)
8:00～22:00 (土曜、日曜、祝日)

* 多数のお申し込みをいただいているため、20時以降、電話がつながりにくい場合があります。20時以前はつながりやすいので、ぜひご利用ください。

● かるがるネット のお問い合わせ先

かるがるネットサポートセンター

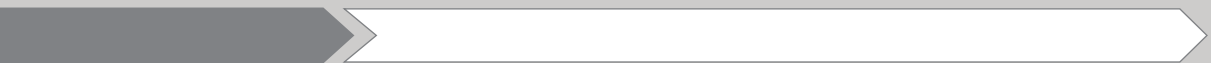
受付時間 : 9:30～18:30 (土・日・祝日を除く)
TEL : 03-5777-0670
FAX : 03-5777-0665
E-mail : info@karugaru.net
ホームページ : <http://www.karugaru.net/>

付録



技術基準適合などについて記しています。

1	技術基準適合について	118
2	無線LANについて	121



技術基準適合について

おたすけナビにも技術基準適合に関する説明が記載されています。本書だけでなく、おたすけナビの記載もあわせてご確認ください。

高調波対策について
「FCC information」について

参照 ▶ 《おたすけナビ（検索）：技術基準適合について》

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

参照 ▶ 「6章 4 Q&A 集 その他-Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

●対応地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2006年9月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんがあらかじめ承してください。

参照 ▶ 設定について 《おたすけナビ（検索）：海外でインターネットに接続したい》

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PQG32* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives.

Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

TOSHIBA HD DVD-ROM ドライブ TS-L802A (HD DVD-ROM ドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

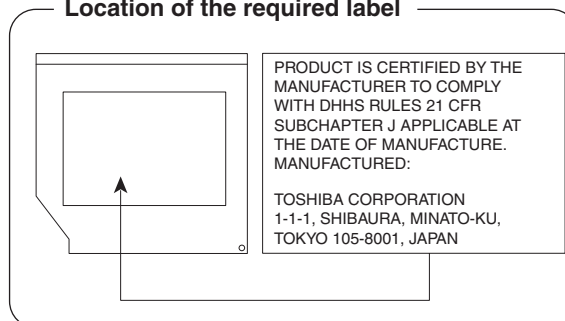
⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格EN60825で“クラス1レーザー機器”に分類されています。レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。
信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
APPAREIL À LASER DE CLASSE 1
LASER KLASSE 1 PRODUKT
TO EN 60825-1
クラス1レーザー製品
TO EN 60825-1:1994 / A2:2001

DANGER -VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM. (for 21 CFR)
CAUTION -CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO THE BEAM.
ATTENTION -LASER DE CLASSE 3B RAYONNEMENT VISIBLE ET INVISIBLE. EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE DE L'OEIL OU DE LA PEAU RAYONNEMENT DIRECT OU DIFFUS.
VORSICHT -SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG KLASSE 3B, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL -KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING
ADVARSEL -KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARO! -LUOKAN 3B NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.
WARNING -SYNLIG OCH OSYNLIG KLASSE 3B LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
注意 -打开时有3B等级的可见及不可见激光辐射。避免激光束照射。
注意 -ここを開くとクラス3B可視レーザー光及び不可視レーザー光が出ます。ビームに身をさらさないこと。

Location of the required label



Panasonic Shikoku
DVDスーパーマルチドライブ UJ-85J
(DVDスーパーマルチドライブ DVD±R 2層式メディア対応)
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
 また、お読みになった後は、必ず保管してください。

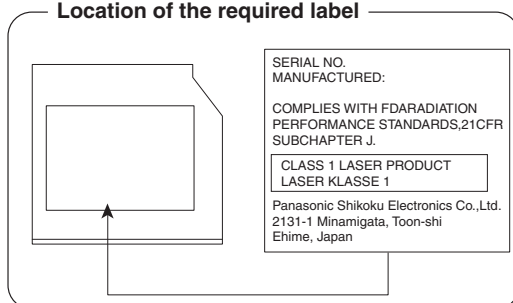
⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
 本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
 本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で
 “クラス1レーザー機器” に分類されています。
 レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装
 置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因にな
 ります。信頼性、安全性、性能の保証をすることがで
 きなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあり
 ます。従って、本装置を使用するシステムには、これ
 らの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および
 事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分
 な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデー
 タの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発
 する可能性があるシステムには、本装置を使用しない
 てください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
 LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG. WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNNGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
WARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO!	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

Location of the required label



2

無線LANについて

おたすけナビにも、無線LANに関する説明が記載されています。
本書だけでなく、おたすけナビの記載もあわせてご確認ください。

参照 《おたすけナビ（検索）：無線LANについて》

1 ご使用になれる国／地域について

お願い

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。これらの国／地域以外では使用できません。
- 802.11bおよび802.11gモードでのアドホック接続は、チャンネル1～チャンネル13で使用できます。
- 802.11bおよび802.11gモードでのインフラストラクチャ接続は、チャンネル1～チャンネル13で使用できます。
- 802.11aモードでのアドホック接続は、チャンネル36、40、44、48で使用できます。
- 802.11aモードでのインフラストラクチャ接続は、チャンネル34、36、38、40、42、44、46、48、52、56、60、64で使用できます。

【802.11b/g (2.4GHz)】

日本

【802.11a (5GHz)】

日本

さくいん

A

AC アダプタの仕様	15
AV 入力端子	13

B

Battery LED	11, 68
BIOS セットアップ	80

C

CD / DVD / HD DVD のセット	28
CD / DVD / HD DVD の取り出し	30
CD / DVD のセット	29
CD / DVD の取り出し	31

D

DC IN LED	11
Disk LED	11
dynabook.com (サポート情報)	92
D 映像出力端子	13
D 端子ケーブルの取り付け	53
D 端子ケーブルの取りはずし	58

E

ExpressCard スロット	10
ExpressCard の取り付け	63
ExpressCard の取りはずし	64

H

HD DVD について	21
HDMI 出力端子	13
HDMI 端子ケーブルの取り付け	53
HDMI 端子ケーブルの取りはずし	58

I

i.LINK (IEEE1394) コネクタ	10
i.LINK (IEEE1394) 対応機器の 取り付け / 取りはずし	51

L

LAN ケーブルの接続	38
LAN コネクタ	13
LAN コネクタに関するインジケータ	39

P

PC カードスロット	10
PC カードの取り付け	61
PC カードの取りはずし	62
Power LED	11

R

RGB コネクタ	13
----------------	----

S

S-Video 出力コネクタ	13
SD メモリカードのセットと取り出し	34
S 端子ケーブルの取り付け	53
S 端子ケーブルの取りはずし	58

T

TFT カラー液晶ディスプレイ	32
-----------------------	----

U

USB コネクタ	10, 13
USB 対応機器の取り付け / 取りはずし	50

X

xD-ピクチャーカードのセットと取り出し	34
----------------------------	----

ア

あなたの dynabook.com	90
アンテナ入力端子	13

カ

回復コンソールについて	97
外部ディスプレイの接続	59
型番	14, 93

キ

キーボード	10
-------------	----

シ

システムインジケータ	10, 11
------------------	--------

ス

スピーカ	10
------------	----

セ

製造番号	14
セキュリティロック・スロット	13

ソ

増設メモリスロット	14
-----------------	----

タ

タッチパッド	10
--------------	----

ツ

通風孔	13
-----------	----

テ	
ディスプレイ	10
ディスプレイ開閉ラッチ	10
テレビに表示する	52
電源コードの仕様	15
電源コネクタ	13
電源スイッチ	10, 11

ト	
東芝 PC あんしんサポート 技術相談窓口	92
東芝 PC あんしんサポート 修理相談窓口	94
東芝 PC オンライン	91
東芝 PC 診断ツール	96
東芝 RAID	75
時計用バッテリー	69
ドライブ	10

ナ	
内蔵マイク	10
内蔵モデム用地域選択ユーティリティ	41

ハ	
バッテリー安全ロック	14
バッテリー駆動で利用できる時間	70
バッテリー充電量の確認	68
バッテリーの充電方法	69
バッテリーの充電完了までの時間	70
バッテリーパック	14
バッテリーパックの交換	70
バッテリー・リリースラッチ	14
バッテリーを長持ちさせるには	70

ヒ	
光デジタルオーディオ出力端子対応機器の 取り付け／取りはずし	65
光デジタルオーディオ出力端子	10
光デジタル対応機器への再生	65
光デジタル対応機器への録音	66
左ボタン	10
ビデオ入力 (S-Video) コネクタ	13

フ	
プラグアンドプレイ	46
ブリッジメディアスロット	10
フロントオペレーションパネル	10, 11

ヘ	
ヘッドホン出力端子	10
ヘッドホンの接続	60

ホ	
ボリュームダイヤル	10

マ	
マイク入力端子	10
マイクロホンの接続	60
マルチメディアカードのセットと取り出し	34

ミ	
右ボタン	10

ム	
無線 LAN	42
無線 LAN について	121

メ	
メディアアクセス LED	11, 28, 29, 34
メモリースティックのセットと取り出し	34
メモリ容量の確認	49

モ	
文字キー	20
モジュラーケーブルの接続	40
モジュラージャック	13

ユ	
ユーザパスワードの削除	83
ユーザパスワードの登録	82
ユーザパスワードを忘れてしまったとき	83

リ	
リモコン受光窓	10, 11
リリース情報	8

ワ	
ワイヤレスコミュニケーション LED	11, 43
ワイヤレスコミュニケーションスイッチ	10

